

【 生物 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	高宮正之	実務経歴	理学博士。元熊本大学大学院先端科学研究部教授、及び元熊本大学理学部学部長、熊本大学名誉教授、現在は熊本大学大学教育統括管理運営機構シニア教授。研究専門分野は植物系統分類学。
授業との関連性	理学博士としての研究や大学での講義を踏まえ、生物の細胞構造や機能などの基礎知識や生命の連続性について講義・演習する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	生物の基本的な単位である細胞の構造と機能、代謝、細胞分裂、遺伝の法則や分子遺伝学を理解した上で、生命の連続性を学びとる。生物学の基本を習得し、専門科目学習のための基礎を作る。IPS細胞、ヒトゲノム、クローン動物、ゲノム編集など、日常の生物学的話題を理解する基礎的能力を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「生物学」 川合進二郎著 他 医歯業出版KK		
参考文献	高校での「生物基礎」や「生物」で使用した教科書や生物資料集。その他、授業中に紹介する。		
履修上の注意	プリントを毎時間配るので、プリント用のファイルを用意し、毎時間前回のものを含めて持ってくる。板書量が多いので専用のノートを用意し、ノートをきちんととること。		
回	授業計画	到達目標	
1	導入。生物知識の必要性。生命の起源からヒトの進化までを概説する。	毎日の生活において、生物の知識がいかに必要かを導入する。今日の生命がどのように誕生し、進化してきたのか。35億年の流れと現在のヒトの在り方について、概要を知り、生命の連続性の意味を知る。生物学について必要性を感じ興味を持つようになる。	
2	生命の単位 生命とは何か、細胞の大きさはどのくらいか、生命と細胞との関係を知る。	生命とは何かを述べることができる。細胞の大きさの範囲を知り、述べるができる。顕微鏡の種類による写真の違いを類別できる。原核生物と真核生物、単細胞生物と多細胞生物を類別できる。	
3	細胞の構造と機能(1) 細胞の基本的構造。細胞小器官とは、生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームなどの構造と機能などを理解する。	細胞とは、細胞小器官とは何かを説明することができる。生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームの構造と機能を列記できる。	
4	細胞の構造と機能(2) リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能、原核細胞と真核細胞、ウイルスなどを理解する。	リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能を列記できる。細胞内のさまざまな小器官の係り合いを理解することができる。原核細胞と真核細胞の違いを列記し、真核細胞の起源について述べるができる。ウイルスと細胞との違いを類別し、列記することができる。	
5	細胞の構造と機能(3) 細胞の活動(生物とエネルギー、代謝)について理解する。	生物にとってエネルギーとは何かを理解し、エネルギーを受け渡す物質であるATPについて述べるができる。代謝、異化、好気呼吸と嫌気呼吸との違いについて述べるができる。	
6	生命の連続性(1) 細胞分裂(体細胞分裂)、染色体について理解する。	生命の連続性の基礎となる細胞分裂を理解し、体細胞分裂の各期の特徴を説明できる。染色体、紡錘体、中心体などの専門用語の意味を述べるができる。	
7	生命の連続性(2) 細胞周期、減数分裂について理解する。	細胞周期と減数分裂の各期の特徴を説明できる。相同染色体、対合、組み換えなどの専門用語の意味を述べるができる。体細胞分裂と減数分裂の共通点や差異を列記できる。	
8	生命の連続性(3) 配偶子とは何かを知り、ヒトの卵と精子の形成について理解する。	配偶子、卵、精子などの意味を述べるができる。ヒトの卵と精子の形成過程を理解し、共通点や差異を列記できる。	
9	生命の連続性(4) ヒトでの受精と発生の基礎的知識を身につけ、幹細胞やIPS細胞とは何かを知る。	受精と発生の概要について述べるができる。減数分裂・配偶子形成・受精・体細胞分裂・発生の一連の流れを理解できる。幹細胞やIPS細胞について述べるができる。	
10	これまでの纏めと解説1	これまでの授業で習った基礎知識に対し、小テストを行った後に内容を解説し、各自の理解度をチェックし不足な点を補う。	
11	遺伝と変異(1) 遺伝の法則、遺伝の基礎的用語を理解する。	メンデル遺伝の法則について、列記できる。対立遺伝子、遺伝子型、対立形質、劣性形質などの用語の意味を、述べるができる。	
12	遺伝と変異(2) ヒトの遺伝(耳垢、血液型など)、遺伝子と染色体(染色体異常、判性遺伝など)を理解する。	耳垢、血液型などの遺伝子型や表現型について理解し、説明できる。染色体異常について述べるができる。判性遺伝について、理解し、説明できる。	
13	遺伝と変異(3) DNA、RNA、タンパク質合成、セントラルドグマなどについて理解する。	DNAとRNAについて、構造と機能を列記できる。DNAからタンパク質合成までの一連の流れを理解し、遺伝子発現のセントラルドグマについて述べるができる。	
14	遺伝と変異(4) 遺伝子から細胞、個体までの一連の流れを理解する。遺伝子工学、遺伝的変異、遺伝子組み換えなどについて理解する。	遺伝子から細胞、細胞分裂、形質発現、個体発生などの一連の流れを説明することができる。遺伝子工学や遺伝的変異のしくみについて述べるができる。	
15	これまでの纏めと解説2 全体の纏め	これまでの授業で習った基礎知識に対し、小テストを行った後に内容を解説し、各自の理解度をチェックし不足な点を補う。全体の纏めも行い、生物学講義内容を確認する。	

【 化学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	澤村精昭	実務経歴	熊本学園大学付属高等学校理科(化学)教諭。
授業との関連性	化学の教諭として長年の経験をとおり、科学的思考の基盤となる物質の性質や構造、変化を知り、歯科医療に用いる関連物質の組成構造や使用時の注意点について講義・演習する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実験	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	化学は、物質の性質・構造、変化に関する学問である。本学院の学生が志す歯科衛生士は、医療の現場で、種々雑多な歯科材料などの物質に日常的に接する立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。高等学校で化学を履修した学生も履修しなかった学生もいるであろう。講義時間数が限られている中、学生に理解できるよう、平易に効率よく授業に取り組む予定である。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)及び平常時の小テスト (定期考査90% 小テスト10%)
------	--

教科書名	最新歯科衛生士教本「化学」 鶴房繁和著 他 医歯薬出版KK
------	-------------------------------

参考文献	講談社ブルーバックスシリーズ(化学、医療関係)平易にわかりやすく解説した本が多い。※『歯科医療最前線 自分の歯を守るための最新情報』下野真基著 ※歯を守る歯の病気の仕組みとその予防 寛道幸男著など
------	--

履修上の注意	本講義では、教科書を基にできるだけ分かりやすく解説し、化学の基礎を重点的に授業で取り組みます。授業時間に制約がありますので、授業で理解できないことはどんな些細なことでも、授業中あるいは、授業時間外に気軽にどンドン質問して下さい。また、化学専門の授業内容のノートを作って下さい。テスト時の見返して役に立つと思います。どうしても理解できないときは補講をしますので、遠慮なく申し出て下さい。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	化学(chemistry)とはどのような学問か。 物質の基礎(その1) 物質の分類 物質を構成する基本粒子 物質を表す化学式	①化学で取り扱う内容について理解すること。 ②元素と原子の概念を説明し、主な元素記号を書く。 ③具体例から、混合物と純物質の違いを理解する。 ④純物質には化合物と単体があることを理解する。 ⑤元素記号や物質の化学式(電子式・構造式を含め)が書ける。
2	物質の基礎(その2) 物質を構成する原子 原子番号と質量数 原子の電子配置 原子と分子・イオン 同位体 元素の周期律と周期表	①原子を構成している基本粒子である陽子、中性子、電子を説明し、それらの概念を理解する。 ②原子番号、質量数を説明し、元素記号とともにそれらを表示する。 ③電子殻における電子配置を軌道のエネルギー順位から説明する。 ④分子のでき方、イオンのでき方を理解する。 ⑤周期律発見の歴史を理解し、周期表の概略を理解する。
3	物質の基礎(その3) 原子量と分子量・式量 物質量(mol)について モルの応用 化学結合の種類と結晶	①化学で用いる相対質量概念を理解し、説明する。そして原子量と分子量・式量について習熟する。 ②アボガドロ数とモルの概念について理解する。 ③モルを使った計算について習熟する。 ④物質を構成する粒子の結合であるイオン結合、共有結合、金属結合について理解する。結晶が分類できる。
4	気体(その1) アボガドロの法則やボイルの法則とシャルルの法則 理想気体の状態方程式 ヘンリーの法則と気体の溶解	①アボガドロの法則、ボイルの法則とシャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解する。 ②気体の状態方程式や分圧の法則について理解する。 ③ヘンリーの法則とは何か。水への気体の溶解について理解する。
5	気体(その2) さまざまな気体とその性質 空気、二酸化炭素、酸素、オゾンについて 気体を使う(医療・生活への応用)	①身近な気体(ガス)についての知識を身につける。 ②大気成分と地球環境について理解する。 ③二酸化炭素の性質・特徴と温室効果について理解する。 ④発生器の酸素、オゾンの殺菌作用を説明する。
6	物質の水への溶解(その1) 液体としての水 質量パーセント濃度 モル濃度・ppm 希釈液の作り方について	①砂糖水を例に、溶質・溶媒・溶体を説明し、理解する。 ②水の特異な性質(物理・化学的性質)を理解する。 ③質量パーセント濃度を理解し、計算ができるようになる。 ④モル濃度やppmを理解し、計算ができるようになる。 ⑤希釈液の作り方について理解を深める。
7	物質の水への溶解(その2) 希薄水溶液の性質 気体・液体・固体の溶解 浸透圧について コロイドについて	①水に気体、液体、固体が溶けるという現象を、身近な例を通して理解する。 ②蒸気圧降下、沸点上昇・凝固点降下について理解する。 ③気体、液体、固体の溶解度の計算法を習得する。 ④浸透圧について理解する。 ⑤身の回りのコロイドとその性質について理解する。
8	物質の水への溶解(その3) 酸とアルカリの反応 水素イオン濃度とPH 中和反応	①酸とアルカリの性質を比較し、アレニウスの定義が理解できる。 ②主な酸とアルカリ、その強弱について理解する。 ③水素イオン濃度とPHについて理解する。 ④中和反応の化学反応式の表し方ができる。
9	酸化と還元(その1) 酸化還元 酸化剤と還元剤 酸化還元反応について 金属のイオン化傾向	①酸化・還元 の定義を理解する。 ②酸化数の表記、酸化数の計算ができる。 ③酸化剤と還元剤の定義を理解する。 ④酸化還元反応の化学反応式が理解できる。 ⑤金属のイオン化傾向と金属の反応について理解する。

回	授業計画	到達目標
10	化学反応(その1) 物理変化と化学変化 化学反応式とは 反応速度と触媒 化学反応と熱	①物質の状態変化と化学反応との違いを理解する。 ②水ができる変化など化学反応式の表し方が理解できる。 ③化学反応の速さを変える要因(触媒等)が理解できる。 ④身近な発熱反応の例と吸熱反応の例に関する知識。 ⑤活性化エネルギーの意義について学ぶ。
11	化学反応(その2) 化学反応と化学平衡 化学平衡の法則 ルシャトリエの原理	①化学平衡とは何かを理解する。 ②化学平衡の法則が理解できる。 ③ルシャトリエの原理の一般則を理解する。 ④身近な化学反応について考える。
12	有機化合物(その1) 有機化学物の成り立ち 有機化合物の名前の付け方 異性体について	①有機化合物の特徴を理解する。 ②単結合、二重結合、ベンゼン環の構造を理解する。 ③官能基の特徴を説明し、化学式(示性式)を書く。 ④構造異性体、立体異性体、光学異性体について理解する。
13	有機化合物(その2) 有機化合物の反応 炭化水素の分類 代表的な化合物とその性質 高分子化合物	①イオン反応とラジカル反応の反応機構の違いを理解する。 ②置換反応、付加反応、脱離反応、転移反応を説明する。 ③飽和炭化水素と不飽和炭化水素の違いについての知識。 ④代表的な有機化合物とその性質を知る。 ⑤高分子化合物とは何か。また、その生成反応について理解する。
14	物質と人間 糖質 アミノ酸とタンパク質 脂質 核酸と核酸関連物質 医療と人間	①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。 ⑥医療技術の進歩についての基礎知識を学ぶ。
15	まとめ この講義の総集編と化学実験	①重要な事項の再確認と期末試験への対策 ②簡単な化学実験の実習

【心理学】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	宮部修一	実務経験	中学・高等学校社会科教諭第一種。養護学校教諭第一種。国際実在療法士。熊本大学教育学部養護学校教員養成課程熊本大学特殊教育特別専攻科非常勤講師障害児発達学担当、熊本学園大学非常勤講師心理学障害児保育論講師。
授業との関連性	大学等における心理学の教授をとおして、患者との良好なコミュニケーションを築くためにこころの在り方や捉え方の技法について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	この講義は、医療臨床の場で必要となる治療者を養成するのを目的とする。治療者はすべての患者の苦しみに共感し、その持てる職能を活かして患者の問題解決に力を尽くしていかねばならない。その際に最も大切なことは、全人的(身体、心、環境、実在的)に患者を病をもつ一人の人間として理解することである。この講義では、その中の心理的理解に焦点を当て、実際の歯科衛生の現場で患者の相談や心理的支援を実践してゆくにあたって基本となる姿勢を学ぶとともに、将来、活用できる心理学の理論と技法を修得するための心理学の基礎知識を習得するのを到達点としたい。心理臨床の場で活用されている援助法を学び、良好な患者—治療者関係を構築するために必要となるコミュニケーションスキルについても取り上げる。		
評価方法	講義中の参加態度(45%:配布用紙に授業成果を自己点検し毎回提出した内容から評価する。)、夏季休暇中に課題図書を読みレポート提出(25%)、試験(30%:四肢択一30問)の結果から評価する。		
教科書名	最新歯科衛生士教本「心理学」二宮克美著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	「ヒルガードの心理学 第15版」スーザン・ホークセマ他(金剛出版・学院図書室所蔵) 「新・心理学の基礎知識」中島義明他(有斐閣・学院図書室所蔵) 「夜と霧(旧訳・新訳)」V. E. フランクル(みすず書房・学院図書室所蔵) 「心理学大図鑑」キャサリン・コーリン(三省堂)		
履修上の注意	講義内容は、毎回プリントで配布する。回毎に配ったものは整理保存すること。受講に際しては、回毎の講義予定内容を前もってテキストで予習し、講義後は用語集と参考文献で復習を心掛ける。社会学、生物学、生理学、化学など人間に関係する学問は関連科目である。積極的に受講し学際性を養うことが求められる。また、絵画、純文学、音楽、映画も人間理解を深める窓口である。医療臨床職のための心理学の100冊を毎回テーマごとに紹介する。心の臨床に必要な学問を深く広く学んで人間理解に努めて欲しい。		
回	授業計画	到達目標	
1	自己紹介、オリエンテーション	歯科衛生臨床の場で対人支援職に求められている倫理、基本姿勢を学ぶ。心理学をこれから学ぶにあたっての心構えをつくる。	
2	心理学の歩みと方法 (テキスト15章、p200~208)	心理学がどのように成立してきたかを学ぶ。心理学は心をどのようなものとしてとらえ、心はどのように研究するかを理解する。	
3	見る・聞く・感じるこころ (テキスト1章 p2~14)	感覚と知覚にどんな特徴があるか、知覚はどのように成立しているかを学ぶ。	
4	学ぶ・覚えるこころ (テキスト2章 p16~26)	経験によって行動が変わる仕組みを知る。覚えること、忘れること、思い出すことの種類と仕組みを理解する。	
5	やる気の心理 (テキスト3章 p28~37)	人を動かしコントロールする動機づけの種類と仕組みにどのようなものがあるかを学ぶ。動機づけの基礎として働いている欲求の特徴を理解する。	
6	喜怒哀楽のこころ (テキスト4章 p40~51)	情動の種類と仕組みを理解する。コンフリクトとは何か、フラストレーション、ストレスの対処について学ぶ。	
7	その人らしさの心理—パーソナリティ (テキスト5章 p54~66)	人間のパーソナリティを調べる試みにはどのようなアプローチや方法があるかを理解する。パーソナリティの不適応とはどのようなものかを理解する。	
8	かしこさの心理 (テキスト6章 p68~80)	人間の知能を測定する方法でどの程度のことがわかるかを知り、今後の知能の捉え方で重要と思われる課題について考察する。	
9	考えるこころ (テキスト7章 p82~91)	考えるとはどういうことか、問題解決にはどのような方法があるかを理解する。	
10	発達するこころ(1) (テキスト8章 p94~110)	発達に影響を及ぼす要因を理解する。生涯にわたる発達の段階(特に乳幼児期のこころの発達)で果たさなければならない課題について学ぶ。	
11	発達するこころ(2) (テキスト9章 p112~124)	子どもから大人への成長していく思春期青年期の過程を理解する。中年期また老年期のこころの特徴を理解する。	
12	人と関わる心理 (テキスト10章 p126~134)	他者の印象をどのように形成するか、行動の原因をどのように捉えるか、人を好き嫌いになったりするなど、対人関係の手掛かりの要因を学ぶ。	
13	人と集う心理 (テキスト11章 p136~148)	集団が人の行動に及ぼす影響を学ぶ。人の態度が変わる要因を学ぶ。リーダーシップと、効果的なリーダーシップについて理解する。	
14	医療現場で求められるコミュニケーション技能「聞き上手のレッスン—人間関係をよくするヒント」視聴後コメント提出	相手の聞き役になるにはどうすればよいか。いかに共感と信頼関係を構築していくか、対人支援職に求められているコミュニケーションスキルと姿勢を学ぶ。	
15	映像「グロリアと3人のセラピスト—ロジャース来談者中心療法」視聴後コメント提出、レポート提出のプレゼンテーション	対人支援のコミュニケーションの考え方としてロジャースの基本姿勢を理解する。全人的医療の核としてのフランクルの実存分析を理解する。	

【 社会学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松田裕一郎	実務経験	熊本放送報道制作局次長、熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員(法務大臣委嘱)、熊本民事調停委員も務めている。
授業との関連性	報道製作での実績を活かし多様な現代社会について講義を行う。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	社会はどのような法則や仕組みで動いているのか。講師が解説するジャーナリズムの視点から地域社会の課題、震災からの復興等について学び、自立した歯科衛生士になることをめざす。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	講師資料		
参考文献			
履修上の注意	報道資料を多用するので可能な限り、テレビニュース等報道系番組を視聴し、また新聞の解説記事、コラム等にも目を通す習慣をつけてください。		
回	授業計画	到達目標	
1	オリエンテーション 自己紹介 地震アンケート作成	テレビニュース等、報道の仕組みや前期講義計画の概要について理解を深める。	
2	熊本地震から5年、震災体験を踏まえ、これからの地域社会のあり方を考える。	学生アンケート結果などを踏まえ、現状への理解を深めるとともに今後の復興、地域社会のありかたについて考える。	
3	選挙制度について学び、有権者としての意識を高める	今年秋にも実施される衆議院議員選挙を前に民主主義の根幹となる選挙全般について学ぶと共に制度の歴史も踏まえ理解を深める。	
4	人権と差別を考える ①ハンセン病問題から	ハンセン病に関する報道番組等を視聴、熊本の地域社会の大きな課題という視点からこの問題への理解を深め、人権について学ぶ。	
5	人権と差別を考える ②水俣病問題	熊本県政の重要課題で、地域社会の課題でもある水俣病問題について報道番組の視聴等を通じて理解を深める。	
6	危険から身を守るために～社会人としてのリスク管理	多発するストーカー犯罪、日常的に発生する交通事故等、現状について学び、自分の身を守るためどう行動すべきか等学ぶ。	
7	前期講義のまとめ	前期講義について復習する	
8	前期定期テスト	前期講義の総括と試験を実施	

【 行動科学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松田裕一郎	実務経験	(前)熊本放送報道制作局次長、(前)熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員(法務大臣委嘱)、熊本民事調停委員。
授業との関連性	報道製作や人権擁護委員、民事調停委員としての実績を活かし、多様化する社会と、人間と行動の関係を科学的視点から探り豊かな人間性の確立を目指し講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	LGBT、多分化共生等、多様化する社会状況について正しく理解を深めるとともに将来の医療人としての人格形成を確立すべく、学習する。
評価方法	定期試験(100点満点)
教科書名	講師資料
参考文献	
履修上の注意	前期で学んだ地域の課題等を踏まえ、日頃から問題意識を持って、ニュース等に接し、批評眼を養うよう心がけてください。後半のカリキュラムでは100人アンケート調査で実際に街頭に出て取材、調査を体験、結果をまとめるという作業を通して社会人としての洞察力を養う。

回	授業計画	到達目標
1	LGBTについて考える。	法務局作成のDVD、RKK制作のニュース番組等を視聴、自治体のパートナーシップの導入等、社会の動きに注目しつつ、理解を深める。
2	SNS、ネット社会について考える	情報化社会が急速に進展する中、ネット、SNS社会を賢く生きるために何が必要か、学生アンケート結果など踏まえ社会人としての対応などを学ぶ。
3	多分化共生について(外国人の人権等)	法務局作成のDVDなどを視聴、技能実習生の問題等喫緊の課題について考える。
4	戦争と家族	RKK制作のドキュメンタリー「祖父の日記」を視聴、戦争とは何か、戦争がもたらすものと平和について考察する。
5	熊本県民の行動(演習) 100人アンケートから	熊本県民はどんな時、いかなる行動を取るのか、学生自らテーマを設定し、次回まで調査する。
6	熊本県民の行動(演習) アンケート調査～	～
7	熊本県民アンケート調査から(最終回)と後期まとめ	前回作成した大判表をボードに掲示し、班のリーダーが発表する。
8	定期試験	講義まとめと定期試験

【 英語 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山本幹樹	実務経験	中学校教諭専修免許状外国語(英語)。高等学校教諭専修免許状外国語(英語)。大学など4校の非常勤講師。
授業との関連性	英語講師としての長年の経験を活かし、英会話をを用いた患者対応ができるよう講義する。		
講師名	浦島有希	実務経験	歯科診療所勤務後、英会話講師。
授業との関連性	英会話講師や歯科診療所での受付業務の経験を活かし、英会話をを用いた患者対応ができるよう講義する。		
履修学年・学期	1年前期・後期	授業方式	講義
		単位数	4単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	(山本幹樹) 基本的な英語の力及び身の回りや日常生活に必要な表現を身につける。更には、歯科衛生士として着任後に役に立つような、基本的な歯科英語や、現場で実際に起こりうる場面で必要な英語表現について学習し習得する。チームワークが重要となる職種なので、英語の学習活動を通して、チームワークも養う。 (浦島有希)英語を使って楽しくコミュニケーションをとる。		
評価方法	(山本幹樹)定期試験40%、中間試験30%、平常点(小テスト、宿題、レポート)30% (浦島有希)本試験(90%) 中間試験、出席日数、宿題、授業の積極的な姿勢・態度など(10%) (履修上の注意を必ず守ること)		
教科書名	『歯科医院での実用英会話』(第2版) 土田和範著 医歯薬出版KK		
参考文献	(山本幹樹)『最新歯科衛生士教本 歯科英語』川口陽子 医歯薬出版KK (浦島有希)適宜準備する		
履修上の注意	(山本幹樹) 1. 毎回小テストを行う。範囲は指定するので、しっかり準備しておくこと。 2. 教科書の音声ダウンロードし、事前・事後学習を行うこと(ダウンロードの方法は初回の授業で紹介)。 3. 必要に応じて別途資料を配布する。試験範囲にも入るので、しっかり見ておくこと。 4. 各章の治療内容を予習して授業に臨むこと。 (浦島有希) 1. 私話と居眠りを禁止する 2. 携帯電話やスマートフォンの使用を禁止する 3. 板書や授業風景を無断で撮影することを禁止する		
回	授業計画	到達目標	
1	<前期> 授業案内: 自己紹介、スケジュールの確認、自己評価チェックリストの作成、身近な表現を使った英語の使用、音声ダウンロードの案内	現時点での自分の英語の力を把握し、各々個別の目標を設定する。	
2	教科書Unit 1「受付での電話対応」	患者との電話対応の概要を理解し、必要な英語表現を身につける。	
3	教科書Unit 2「受付での初診対応」、受付に必要な表現のマニュアル作り(教科書の補足)	受付で行われる患者とのやり取りを確認し、問診対応に必要な英語表現を身につける。	
4	教科書Unit 3「問診」	問診対応に必要な英語表現を身につけるとともに、その他にも想定されるやり取りを会話形式で作成し、使えるようになる。問診対応で相手の情報を間違いなく確認できるようになる。	
5	教科書Unit 4「レントゲン室にて」	レントゲン室で行われる会話のやり取りを確認し、表現できるようになる。	
6	教科書Unit 5「抜髄」	「抜髄」について英語で説明できるようになる。また、「抜髄」を行う上で起こり得る患者とのやり取りを英語で表現できるようになる。	
7	教科書Unit 6「抜歯」	「抜歯」について英語で表現できるようになる。また、「抜歯」を行う上で起こり得る患者とのやり取りを英語で表現できるようになる。	
8	前半のまとめと中間テスト、自己チェックリストの確認	自己チェックリストで、到達度を確認し、今後の目標を独自に設定する。	
9	教科書Unit 7「受付にて」	清算や薬の説明についての英語表現を身につける。桁の大きい数について、即座に読んだり書いたりできるようになる。	
10	教科書Unit 8「むし歯の説明」	むし歯になる行程や予防の方法を英語で説明できるようになる。	
11	教科書Unit 9「レジン充填」(前半)	「レジン充填」について英語で説明できるようになる。また、「レジン充填」を行う上で起こり得る患者とのやり取りを英語で表現できるようになる。	
12	教科書Unit 9「レジン充填」(後半)	「レジン充填」について英語で説明できるようになる。また、「レジン充填」を行う上で起こり得る患者とのやり取りを英語で表現できるようになる。	

回	授業計画	到達目標
13	教科書Unit 10「感染根管治療」	感染根管治療とは何かについて理解し、治療手順を説明できるようになる。
14	教科書Unit 11「歯周病」	歯周病とは何か、また、治療手順について説明できるようになる。
15	まとめ、自己チェックリストの確認	これまでの学習を振り返り、自分の到達度を確認する。期末テストに向けて復習を行う。
16	<後期> 教科書12:Periodontal Examination 歯周検査 自己紹介シートの記入、アンケートの記入	歯周検査で使われる表現を理解し、実際に患者さまに問診をするように発話できるようになる。 外国人の患者さまとスムーズトークができるように、まずは日本語で自己紹介シートを記入する。
17	教科書13:Tooth Brushing Instructions ブラッシング指導 英語で自己紹介	ブラッシング指導で使われる表現を理解し、英語で説明できるようになる。 英語で自己紹介がスラスラ言えるようになる。
18	教科書14:Scaling スケーリング	スケーリングで使われる表現を理解し、患者さまに英語で説明することができるようになる。
19	教科書15:Crown Restoration 歯冠修復A・B	歯冠修復の各内容を必ず予習し、理解して授業に臨む。A:ポストコア、B:前装冠形成の場面を想定しながら、患者様に英語で説明できるようになる。
20	教科書15:Crown Restoration 歯冠修復C・D・E	歯冠修復の各内容を必ず予習し、理解して授業に臨む。C:色調、D:咬合調整、E:セットの場面を想定しながら、患者様に英語で説明できるようになる。
21	教科書16:Bridge ブリッジ	ブリッジで使われる表現を理解し、英語で説明できるように表現を身につける。
22	中間試験 映画鑑賞	中間試験で6割以上を取る。
23	中間試験の返却と解説 映画鑑賞、映画の感想の記入、アンケートの記入	試験で間違えた箇所を復習し理解する。 映画で出てきた表現を理解し発話できるようになる。
24	教科書17:False Teeth 義歯 英語でアクティビティ	義歯で使用される表現を理解し、英語で発話できるようになる。教科書の内容にはない、アクティビティを通して英語を理解する。
25	教科書18:Orthodontic Treatment 矯正治療	矯正治療の内容を想定し、英語で患者さまに説明できるようになる。
26	教科書19:Dental Implant Treatment インプラント	インプラントの内容を理解し、英語で説明できる表現を身につける。また支払いの場面を英語でできるようになる。
27	教科書20:Stomatitis 口内炎 英語でアクティビティ	口内炎の場面で使用する英語表現を身につける。教科書の内容にはない、アクティビティを通して英語を理解する。
28	教科書21:Bad Breath 口臭	口臭の説明で使用される英語表現を発話できるようになる。
29	教科書22:Temporomandibular Joint Disorders 顎関節症	顎関節症の治療場面を想定し、患者さまと英語で会話できるようになる。
30	重要表現のおさらい 後期期末試験対策と質問受け	今までに出てきた重要表現をさらい、身につけているかを確認する。期末試験に向けて、今までの内容を自主的に復習する。

講師名	八木俊晃	実務経験	歯科医師。愛知学院大学歯学部付属病院歯科口腔外科勤務。歯科診療所勤務。
授業との関連性	歯科診療所、大学病院勤務の歯科口腔外科医として手術等の経験を踏まえ、人体の構造や生体のメカニズムについて講義する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義	単位数	3単位(45時間)	授業回数	23
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	医療を修める上で、最初に学ぶ学問が解剖と生理である。この教科の理解なくして他教科の正確な理解は困難であると思われる。歯科衛生士教育でも全身との関わりのなかで、医療を実践していく姿勢が求められる。さらに近年の高齢化の進展により全身疾患をもつ患者が増加し、全身の理解は不可欠であることをよく考え理解を深めてもらいたい。						
評価方法	定期試験(100点満点)						
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社 ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 医歯薬出版株式会社						
参考文献	○「解剖生理をおもしろく学ぶ」 増田敦子著 サイオ出版 ○「いちばんやさしい生理学」 南沢 享、加藤 尚志著 成美堂出版 ○「読んでわかる解剖生理学」 竹内修二著 医学教育出版社						
履修上の注意	国家試験対策は重要な課題であり、履修の必要性の高い分野は、重点的に学習してもらいたい。この学科では、解剖と生理を1セットとし、1單元ごとに学習し理解することを基本としてほしい。また、量的に多いので、後でまとめて勉強しようとしても無理であるということに注意点としたい。						
回	授業計画			到達目標			
1	解剖・生理学概論 ・人体の区分 ・身体の方向用語 生理学概論 ・生理学とは何か			<ul style="list-style-type: none"> ・身体の部位と方向用語・解剖学的名称を理解できる ・解剖学・生理学の基本的な学習を理解する ・生物が生命を維持するメカニズムの概要を知る 			
2	〈骨格系〉			<ul style="list-style-type: none"> ・骨の基本構造と骨の形態、連結様式、骨の改造について概説できる ・主な骨格と解剖学的名称を理解できる ・骨の成長のメカニズムを概説できる 			
3	〈筋と運動 1〉			<ul style="list-style-type: none"> ・筋の形状と分類、筋の構造を説明できる ・体の各部位の筋系について概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる 			
4	〈筋と運動 2〉			<ul style="list-style-type: none"> ・心筋の構造と収縮のメカニズムを説明できる ・運動ニューロンの構成、反射、姿勢調節について理解し概説できる ・反射のメカニズムについて理解し概説できる 			
5	〈消化器系〉 消化・吸収 1			<ul style="list-style-type: none"> ・消化器のそれぞれの解剖的位置と基本構造を理解し説明できる ・小腸壁の組織学的な理解ができる ・それぞれの器官の分泌物の機能を理解できる 			
6	〈消化器系〉 消化・吸収 2			<ul style="list-style-type: none"> ・消化器運動とその調節機能を説明できる ・それぞれの消化器・臓器の機能について説明できる ・それぞれの器官の消化酵素の働きと栄養素の吸収について理解し説明できる 			
7	〈循環〉 血液 1			<ul style="list-style-type: none"> ・主な動脈・静脈の走行と解剖学的名称を理解し説明できる ・動脈・静脈及び毛細血管の構造を理解し説明できる ・肺循環・体循環における血管系を説明できる 			
8	〈循環〉 血液 2			<ul style="list-style-type: none"> ・血管の機能、血圧の調整を理解し説明できる ・血液成分の組成とその機能を説明できる ・血液の凝固の機序を理解し説明できる 			
9	〈循環〉 心臓の構造と機能			<ul style="list-style-type: none"> ・心臓の解剖学的構造について理解できる ・心臓の血管について理解できる ・心筋の拍動のコントロールを理解できる 			
10	〈循環〉 動脈系・静脈系 胎児循環 リンパ系			<ul style="list-style-type: none"> ・主な動脈・静脈の走行を理解できる ・門脈系とその機能が説明できる ・リンパ系の概要とその機能を説明できる ・胎児循環の特徴を理解できる 			
11	〈循環〉 心臓の活動と心電図			<ul style="list-style-type: none"> ・心電図の波形の意味を理解できる ・刺激伝導系と心電図、心臓の筋肉の活動について理解できる 			
12	〈神経系〉 神経系の構成と機能			<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の構成を理解できる ・神経系の基本的機能について理解し説明できる 			

回	授業計画	到達目標
13	〈神経系〉 脳と脊髄 中枢神経系	<ul style="list-style-type: none"> ・脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)と脊髄の解剖学的位置を理解し説明できる ・大脳の機能局在について説明できる ・それぞれの器官における中枢の機能を理解できる ・脳脊髄膜の構造と機能について理解できる
14	〈神経系〉 末梢神経系	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経系の分類と解剖学的分布を理解し説明できる
15	〈神経系〉 自律神経 求心性、遠心性伝導路	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経の特徴を理解できる ・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる
16	〈呼吸器系〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器の構成と構造を理解できる ・胸郭の構造を理解できる ・呼吸の中枢と調節について理解し説明できる
17	〈呼吸器系〉	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の生理学的意味について理解できる ・血液中のO₂とCO₂の運搬について理解できる ・呼吸の調節のしくみを理解し説明できる
18	〈感覚〉	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の基本的性質について理解できる ・皮膚の感覚装置について概説できる ・特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる
19	〈排泄〉	<ul style="list-style-type: none"> ・汗腺、泌尿器、腎臓の解剖学的構造などについて理解し説明できる ・尿生成のメカニズムについて理解し説明できる ・排尿のしくみを理解できる
20	〈体温〉	<ul style="list-style-type: none"> ・体熱の産生機序、体温放散などの調節メカニズムを理解できる ・体温の調節を理解できる ・体温の変動について理解できる
21	〈内分泌〉	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌器官の名称と解剖学的位置について理解できる ・内分泌器官から分泌されるホルモン、その作用機序について理解できる ・血中カルシウムや血糖値を調節するしくみを理解できる
22	〈生殖〉	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、女性 生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて理解できる ・分娩と乳汁分泌に関わるホルモンについて理解できる ・性周期と体温変化について説明できる
23	〈老化〉	<ul style="list-style-type: none"> ・老化の特徴について理解できる ・老化に伴う機能変化について理解できる ・老化と生体の機能(生理的)について理解できる

【 組織発生学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	関 祐紀	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から細胞の性質や組織の機能について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	組織・発生学を学ぶことにより、正常組織・構造を理解し、臨床の場で正常、異常を判断し患者様やスタッフに説明できるようになる。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社		
参考文献	「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 井出吉信著 医歯薬出版KK		
履修上の注意	各授業の確認テスト(小テスト)を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		

回	授業計画	到達目標
1	細胞①	①細胞の基本構造を説明することができる。 ②細胞の構成体の各機能を説明することができる。
2	細胞②	細胞の増殖と寿命について理解し、説明することができる。
3	組織①	組織を4つに分類し、それぞれの特徴を説明することができる。
4	組織②	それぞれの組織の特徴を説明することができる。
5	発生①	①染色体と減数分裂を説明することができる。 ②精子と卵子の発生を説明することができる。 ③受精と着床について説明することができる。
6	発生②	胚葉の形成とそれぞれの胚葉から分化する主な器官と組織について、説明することができる。
7	発生③	①歯の発生について説明することができる。 ②胎児の成長と発育について説明することができる。
8	発生④ まとめ	①顎裂など先天性奇形について説明することができる。 ②鰓弓について説明することができる。 ③まとめ。

【 口腔解剖口腔生理学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	矢毛石 玲	実務経験	歯科医師。久留米大学医学部解剖学講座・肉眼・臨床解剖学部門入局、歯科診療所院長。
授業との関連性	大学医学部解剖学講座での研究や臨床歯科医としての経験を踏まえ、口腔の解剖やしぐみについて講義する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義	単位数	3単位(45時間)	授業回数	23
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	口腔とその周囲組織の基本的な構造と機能を理解し説明できる。		
行動目標	口腔は全身の一部である事を忘れずに系統立てて理解する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk		
参考文献			
履修上の注意			
回	授業計画	到達目標	
1	口腔解剖総論 顔面と口腔の発生(1)	消化器系の入り口としての口腔およびその周囲の解剖学的構造の概要を理解し説明できる。 同時に口腔解剖を学ぶ意義を理解し説明できる。 鰓弓について説明できる。	
2	口腔付近の解剖	口腔の範囲と機能および各部の名称を説明できる。	
3	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨を説明できる。	
4	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨を説明できる。	
5	頭頸部の筋と作用	表情筋の働きと構成を説明できる。	
6	頭頸部の筋と作用	咀嚼筋の働きと構成を説明できる。	
7	頭頸部の筋と作用	頸部の筋について説明できる。 顎関節について説明できる。	
8	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する動脈系について説明できる。	
9	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する静脈系およびリンパ系について説明できる。	
10	神経系	脳神経の働きと名称および分布について説明できる。 三叉神経の分布と機能について説明できる。	
11	神経系	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の分布と働きについて説明できる。	
12	神経系	頭頸部に分布する脊髄神経について説明できる。 自律神経について説明できる。	
13	顔面と口腔の発生(2)	顔面、鼻腔、口腔の発生を説明できる。 舌、唾液腺の発生を説明できる。	
14	歯と口腔の感覚	歯と口腔粘膜の感覚について説明できる。	
15	味覚と嗅覚	味覚について説明できる。	
16	味覚と嗅覚	嗅覚について説明できる。	
17	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位と下顎の運動について説明できる。	
18	咬合と咀嚼・吸啜	顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜について説明できる。	
19	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。	
20	嚥下と嘔吐	摂食嚥下の流れとその概要について説明できる。 嘔吐について説明できる	
21	発声	発声と発声に関わる構造および仕組みについて説明できる。	
22	唾液	唾液腺の種類と解剖学的な位置および機能について説明できる。	
23	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。	

講師名	河端憲彦	実務経験	歯科医師。福岡大学病院歯科口腔外科入局、歯科診療所院長。		
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科など臨床歯科医としての様々な経験を踏まえ、歯牙の構造や特徴、役割について講義する。				
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	何が基礎なのかを理解し、応用力を身につける。				
評価方法	小テスト30点・定期試験70点(計100点満点)・出席状況 *小テスト[当日授業内容が対象の小テストを各回ごとに行う。6~8割[平均点による]以上で1回につき2点を定期試験に加算]				
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の機能と構造 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修著 他 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意	授業中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。				
回	授業計画			到達目標	
1	歯の各部の名称 歯の表示法			歯の表示法や記号について説明できる。	
2	歯の用語 根管の形態 ミュールライターの三徴候			歯の専門用語が使える。 歯の左右、近遠心、頬舌の識別が出来る。	
3	永久歯の形態学特徴 上顎中切歯・上顎側切歯 下顎中切歯・下顎側切歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
4	永久歯の形態学特徴 上顎犬歯・下顎犬歯 上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯 下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
5	永久歯の形態学特徴 上顎第一大臼歯 下顎第一大臼歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
6	永久歯の形態学特徴 上顎第二大臼歯・下顎第二大臼歯 上顎第三大臼歯・下顎第三大臼歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
7	永久歯との比較による乳歯の形態的特徴 乳歯の形態学特徴 上顎乳中切歯・上顎乳側切歯 下顎乳中切歯・下顎乳側切歯			乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
8	乳歯の形態学特徴 上顎乳犬歯・下顎乳犬歯 上顎第一乳臼歯・下顎第一乳臼歯 上顎第二乳臼歯・下顎第二乳臼歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。	
9	特色のある歯の形態			歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。	
10	歯列と咬合			歯列と咬合について説明できる。 歯の萌出と交換を説明できる。	
11	歯と歯周組織の発生			歯の発生の概要を概説できる。 エナメル質・象牙質・セメント質の形成の違いを説明できる。 歯の萌出過程とその機序を説明できる。 歯胚の形成時期、歯の萌出時期を説明できる。	
12	歯および歯周組織の構造と機能 エナメル質			エナメル質の物理化学的性状、構造物について説明できる。	
13	歯および歯周組織の構造と機能 象牙質・歯髄			象牙質の物理化学的性状、構造物について説明できる。 歯髄の構成要素、機能について説明できる。	
14	歯および歯周組織の構造と機能 歯根膜・セメント質歯・歯肉・歯槽骨			歯周組織について説明ができる。 セメント質の物理化学的性状、構造物について説明できる。 口腔粘膜の分類と組織学的相違について説明できる。	
15	口腔粘膜の感覚 口腔の加齢変化			口腔粘膜の感覚の変化を概説できる。 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。	

【 生化学口腔生化学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	関 祐紀	実務経歴	歯科医師。熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科での様々な研究や治療を踏まえ、生体やう蝕、歯周病のしくみについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	口腔内を中心に生体内の生命現象を生化学的に理解する。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の注意		
回	授業計画	到達目標
1	生命活動の概要①	生体の構成要素を理解する。
2	生命活動の概要②	生体内でおこる化学反応を理解する。
3	口腔組織の生化学 ー歯周組織ー	歯周組織について生化学的に理解する。
4	口腔組織の生化学 ー歯・骨ー	歯と骨について生化学的に理解する。
5	口腔組織の生化学 ー唾液ー	唾液について生化学的に理解する。
6	口腔組織の生化学 ーう蝕ー	う蝕について生化学的に理解する。
7	口腔組織の生化学 ー歯周病ー	歯周病について生化学的に理解する。
8	総復習	今まで学習したことを整理する。

【 病理学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	古田洋介	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての様々な診察、治療の経験から病的な機能変化について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	1単位(15時間)
		授業回数	8
授業目標	病理学の基本的な考え方や要点を国家試験及び実際の臨床現場に活かせることを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	新歯科衛生士教本(第2版)病理学 (医歯薬出版)		
履修上の注意	授業に集中し、しっかりノートを取り、試験前に見てすぐ理解できるようにしておくこと。専門用語は覚えるしかない。		
回	授業計画	到達目標	
1	病理学序論と病因論	①疾病の経過について説明できる。 ②脳死について説明できる。 ③内分泌疾患の代表例について説明できる。	
2	遺伝性疾患と奇形	①染色体、テロメアについて概説できる。 ②遺伝性疾患の代表例について説明できる。 ③染色体異常の代表例について説明できる。 ④奇形の発症と原因について説明できる。	
3	循環障害	①循環障害についてその種類と各々の定義について概説できる。 ②血栓症、塞栓症について説明できる。 ③動脈硬化症について概説できる。 ④側副循環について説明できる。	
4	代謝障害と退行性病変	①細胞傷害の転帰とその種類について各々列記できる。 ②変性の各種について列記できる。 ③萎縮の各種について列記できる。 ④壊死とアポトーシスの違いを説明できる。	
5	増殖と修復	①肥大の種類について概説できる。 ②化生の定義と代表例について説明できる。 ③細胞の再生能について列記でき代表例について説明できる。 ④創傷治癒、異物処理について分類、説明できる。	
6	炎症	①炎症の定義について説明できる。 ②炎症の経過について説明できる。 ③炎症に関連する細胞を列記、各々を説明できる。 ④急性と慢性の炎症の経過について特徴を説明できる。 ⑤炎症の分類とそれぞれの状態について説明できる。	
7	免疫応答異常	①免疫応答について説明できる。 ②液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 ③免疫応答の経時的変化について説明できる。 ④アレルギーの分類と各々について概説できその各々の代表例を列挙できる。	
8	腫瘍	①腫瘍の定義について説明できる。 ②腫瘍の原因、発声機序について説明できる。 ③腫瘍の種類とその代表例を列記できる。 ④良性と悪性の違いを列記できる。 ⑤前がん病変について説明できる。	

【 口腔病理学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	古川猛士	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部文部教官助手(口腔病理)。歯科診療所院長。
授業との関連性	大学歯学部での口腔病理の研究を踏まえ、顎口腔領域疾患の原因、機能の変化などについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	口腔病理学は、口腔組織の病気の原因、発生機序、経過及び転帰など、病気の本態について学ぶものである。発病のしくみを知り、判断能力を高めることを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	1. 口腔病理学 I、II (永末書店) 2. 独自のパワーポイント		
履修上の注意	カラー写真となり、慣れるまでは大変ですが、極端な例を目にしておくと臨床についてから大抵のことに対応できますので、しっかり学習して下さい。		
回	授業計画	到達目標	
1	1章 歯の発育異常	①大きさ、形、数、構造、色、萌出、位置、咬合などの異常について述べる事ができる。	
2	2章 歯の損傷と着色・付着物 3章 う蝕	①機械的損傷と化学的損傷の違いについて述べる事ができる。 ②プラーク、歯石、着色について述べる事ができる。 ③う蝕の病因、臨床的特徴と分類、病理組織的特徴などについて述べる事ができる。	
3	4章 象牙質、歯髄複合体の病態 5章 歯周組織の病態 ①根尖部歯周組織の病態	①象牙質、歯髄複合体の概念、特徴を理解する。 ②歯髄炎、退行性病変、進行性病変、創傷治癒などについて列記し説明できる。 ③根尖性歯周炎の原因、病理発生、分類について述べる事ができる。	
4	5章 歯周組織の病態 ②辺縁部歯周組織の病変 ③エプーリス ④セメント質増生・セメント粒	①歯周病の概念、分類、疫学について理解する。 ②歯肉病変、歯周炎について説明できる。 ③エプーリスについて説明できる。	
5	6章 口腔粘膜の病変 7章 口腔領域のう胞と腫瘍 ①口腔領域のう胞	①色調、物理化学的傷害、感染症、免疫異常、血液疾患、義歯装着に関する疾患、舌の病気などについて特徴あるものを理解する。 ②歯原性のう胞、非歯原性のう胞について列記し説明できる。	
6	7章 口腔領域のう胞と腫瘍 ②口腔領域の腫瘍 歯原性 ③口腔領域の腫瘍 非歯原性 8章 口腔癌	①歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍について分類し説明できる。 ②前癌病変、口腔癌について列挙し説明できる。	
7	9章 顎骨の病変 10章 唾液腺の病変	①顎骨の病変、創傷、顎関節などについて理解する。 ②退行性病変、唾石症、唾液腺炎、シェーグレン症候群について理解する。	
8	11章 口腔領域の奇形 12章 口腔領域の加齢変化	①顔面及び口腔の発生、披裂について簡単に説明できる。 ②口腔、舌、顎、顎関節、唾液腺の発育異常について簡単に説明できる。 ③加齢的变化について理解する。	

【 薬理入門 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。		
授業との関連性	薬学博士としての見識から薬物の組成や生体内での作用、取り扱いについて講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
授業回数	8				
授業目標	薬物の作用を理解するための薬理学の基本概念を理解する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK				
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。				
履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。				
回	授業計画	到達目標			
1	総論1. 薬物の作用	薬物の作用について理解する。			
2	総論2. 薬物動態	薬物が体内でどのように吸収・分布し排泄されるかを理解する。			
3	総論3. 薬物の適用方法の種類と特徴	薬物の適用方法にどのようなものがあるかを知り、適用方法による違いを理解する。			
4	総論4. 薬物の作用に影響を与える要因	薬物の作用に影響する要因を知り、連用・併用による影響を理解する。			
5	総論5. 薬物の副作用、有害作用	薬物の有害作用の種類を知り、その原因を理解する			
6	総論6. 医薬品を適用する際の注意	患者の状態による医薬品の適用法の違いを理解し、適切な服薬指導が出来るようになる。			
7	総論7. 薬物の取り扱い	医薬品の剤形、保存方法を知り、処方せんにしたがった調剤について理解する。			
8	総論8. 薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品等に関わる法律について理解する。			

【 薬理学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。				
授業との関連性	薬学博士としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。						
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
授業目標	①薬物の作用機序、効果、薬物動態、副作用などを勉強することにより、クスリを正しく使うことが出来るようになる。また、患者への、わかりやすい服薬指導が出来るようになる。 ②さまざまな疾病に対する治療薬とその作用機序が理解出来るようになる。						
評価方法	定期試験(100点満点)						
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK						
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。						
履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。						
回	授業計画			到達目標			
1	総論の総復習			薬理入門、で学習した薬理学の概念・用語を思い出し、各論を理解する準備を行う。			
2	各論1. ビタミンとホルモン			ビタミン、ホルモンの種類、働き、欠乏症などについて理解する。			
3	各論2. 末梢神経系に作用する薬物			末梢神経系の受容体と神経伝達物質について知り、それら受容体に関する作動薬と遮断薬について理解する			
4	各論3. 中枢神経系に作用する薬物			中枢神経系に作用する薬物として、全身麻酔薬、アルコール類、催眠薬・抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬などについて理解する。			
5	各論4. 循環器系に作用する薬物			高血圧、不整脈、心不全、狭心症、脂質異常症の治療薬について理解する。			
6	各論5. 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物			腎臓の機能と利尿薬について理解する。気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について理解する。 消化性潰瘍治療薬について理解する。			
7	各論6. 血液に作用する薬物			止血機構について理解する。 止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について理解する。			
8	各論7. 免疫と薬			免疫応答について理解する。 免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬、ワクチンについて理解する。			
9	各論8. 抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬			悪性腫瘍について知り、抗悪性腫瘍薬について理解する。 糖尿病、骨粗鬆症治療薬について理解する。			
10	各論9. 炎症と薬			炎症について理解する。 抗炎症薬、解熱鎮痛薬について理解する。			
11	各論10. 痛みと薬			痛みについて理解する。 鎮痛薬について理解する。			
12	各論11. 局所麻酔薬			局所麻酔薬について知り、作用機序を理解する。			
13	各論12. 抗感染症薬1			感染症と感染症治療について理解する。			
14	各論13. 抗感染症薬2			抗感染症薬について、分類と作用を理解する。			
15	各論14. 消毒に使用する薬			消毒薬の作用機序を知り、主な消毒薬を種類別に理解する。			

【 微生物学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	劉 隣	実務経験	歯科医師。熊本大学病院勤務。
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科医としての研究や治療経験を踏まえ、感染症の原因となる病原菌の性状や発達について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	う蝕や歯周病などの歯科疾患の多くは微生物による感染症である。微生物の概念、生態との関係について学び、微生物学的観点から各疾患を捉える知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 木村重信 著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	1. 戸田新細菌学 南山堂 2. 口腔微生物学 免疫学 医歯薬出版		
履修上の注意	教本、授業プリントを持参してください。		
回	授業予定	到達目標	
1	微生物学概論 ー微生物学の発達と歴史ー	微生物の概念と微生物学発展の歴史を理解する。	
2	微生物の一般的性状 (細菌とウイルスの違いについて)	微生物の種類を知り、その違いを理解する。	
3	微生物の培養法と観察方法 (各種培養法および顕微鏡の種類・使い分け)	微生物学における実験の手技を理解する。	
4	感染と発症 (微生物VS宿主、感染経路と感染症の種類)	感染の概念を理解する。	
5	免疫①(免疫のしくみとその種類)	免疫の概念を理解する。	
6	免疫②(免疫機構のバランスについて ーアレルギーや自己免疫疾患を中心としてー)	生体がどのような機構で免疫のバランスを保ち、それがくずれるとどうなるかを理解する。	
7	病原微生物各論①(グラム陽性、陰性菌)	一般病原菌について、その種類と違い、特徴を理解する。	
8	病原微生物各論②(ウイルス、その他の微生物)	ウイルスやその他の微生物について、その種類と違い、特徴を理解する。	
9	化学療法 (各微生物に対する化学療法とその作用機序)	化学療法の種類、使い分けとその作用機序を理解する。	
10	滅菌と消毒(各種滅菌法について)	滅菌・消毒の概念と違いを理解し、臨床現場で用いられている各種滅菌法を身につける。	
11	口腔内常在微生物 (口腔内の微生物と感染防御機構)	口腔内環境について知り、常在微生物と感染防御機構の関係について理解する。	
12	う蝕症(微生物学的観点からみとう蝕症)	う蝕症が細菌感染症であることを理解し、う蝕関連の感染症についても理解を深める。	
13	歯周病(歯周病の種類と病原菌)	歯周病の病態と病原菌の関わりについて知り、その予防法についてまで知識を広げる。	
14	全身の感染症と口腔内症状 (感染症と口腔症状の関係)	全身における感染症が口腔内症状にどのような影響を与えるか、その原因と実際の症状を知る。	
15	総まとめ(過去14回の講義の補足と試験対策)	国家試験対策も視野に入れた総まとめ。	

【 口腔衛生学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	新谷泰之	実務経験	歯科医師。麻生ビューティーカレッジ、九州医療スポーツ専門学校、九州医療専門学校非常勤講師。歯科診療所院長。	
授業との関連性	臨床歯科医師、専門学校非常勤講師としての経験を踏まえ、歯・口腔の健康と予防の基礎、う蝕・歯周疾患の発生機序、予防手段について講義する。			
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	
授業目標	国家試験に合格する学力を身につける。卒業後の臨床現場で戸惑わない基礎学力を修得する。		授業回数	15
評価方法	定期試験(100点満点)			
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可児徳子著他 医歯薬出版KK			
参考文献	「歯科衛生士国家試験問題集」			
履修上の注意				
回	授業計画	到達目標		
1	1章 1-1「歯・口腔の健康と予防」の定義 1-2「歯・口腔の健康と予防」の基礎 1-3「歯・口腔の健康と予防」の方法 1-4「歯・口腔の健康と予防」と健康づくり	①健康の定義を知る。 ②健康増進と疾病予防の3つの場を覚える。 ③1～3次予防の概念を理解する。 ④8020運動を理解する。		
2	1章 2-1 歯・口腔の構造 2-2 歯・口腔の発生と成長・発育 1)-2)	①歯及び口腔組織の構造と名称を覚える。 ②唾液の機能を理解する。 ③外胚葉、内胚葉、中胚葉及び間葉に由来する組織を知る。		
3	1章 2-2歯・口腔の発生と成長・発育 3)～9)	①歯の石灰化及び萌出時期を覚える。 ②五大栄養素やホルモンが口腔形成に及ぼす影響を理解する。 ③口腔の形成異常について理解する。		
4	1章 2-3歯・口腔の機能 2-4口腔の健康と全身の健康	①咀嚼・嚥下について理解する。 ②誤嚥性肺炎について理解する。 ③口腔と全身の健康(歯周病と糖尿病、早産)について理解する。		
5	1章 3-1 ペリクル 3-2 プラーク 3-3 歯石 3-4 舌苔 3-5 外来性色素沈着物	①プラークの生態について深く理解する。 ②ペリクルと細菌の付着機構について理解する。 ③バイオフィルムの概念を十分に理解する。 ④歯石について理解する。 ⑤S.mutansとGTFの関係を理解する。		
6	3章 歯科疾患の疫学 4章 1 う蝕発生メカニズム 2-1. 2 う蝕の発生要因	①う蝕、歯周病等の疫学を概説する。 ②う蝕発生メカニズムを脱灰のキーワードで理解する。 ③う蝕発生要因の宿主と歯、口腔細菌、発酵性糖質の関係性を理解する。		
7	4章 2-3 う蝕発生に関わる要因 2-4 う蝕発生機序	①う蝕感受性が高い年齢と性別、歯種と歯面、唾液の緩衝能について理解する。 ②ミュータンスレンサ球菌のう蝕誘発性を3つ挙げられる。 ③ステファンカーブを理解する。		
8	4章 3 う蝕活動性 4 う蝕の予防法	①各う蝕活動性試験の検体と評価内容を覚える。 ②う蝕発生の第1～3次予防を理解する。 ③発生要因に対する予防法を理解する。 ④MI(Minimal Intervention)について理解する。		
9	5章 1 我が国のフッ化物応用 2 フッ化物の一般性状と用語 3 人間生態系におけるフッ化物 4 フッ化物摂取量とその基準 5 フッ素の代謝	①日本のフッ化物応用の歴史と現状を理解する。 ②フッ化物の摂取量とその基準をはっきりと覚える。 ③フッ素の代謝を理解する。		
10	5章 6 フッ化物の毒性 7 フッ化物応用によるう蝕予防法	①急性毒性、致死量をはっきりと覚える。 ②慢性毒性を理解する。 ③ppmと%の関係、フッ素濃度に関する基礎を学ぶ。 ④フッ化物歯面塗布の手法と溶液の種類を理解する。 ⑤フッ化物洗口について習熟する。		
11	5章 7 フッ化物応用によるう蝕予防法 8 フッ化物のう蝕予防メカニズム 9 ライフステージに応じたフッ化物応用法	①フッ化物の局所と全身応用の方法について理解する。 ②フッ化物のう蝕予防機序を理解する。 ③ライフステージ別の新しいフッ化物応用法を学ぶ。 ④フッ化物配合歯磨剤に対する新しい考え方を学習する。		
12	6章 1 歯周疾患の症状と分類 2 歯周疾患の発生機序	①歯周組織の構造を覚える。 ②歯肉炎と歯周炎の定義と分類を覚える。 ③歯周疾患の症状を知る。 ④歯周疾患の発生機序を理解する。		
13	6章 3 歯周疾患の全身に与える影響 4 歯周疾患の予防手段と処置	①ペリオドンタルメディスンを理解する。 ②歯周疾患の予防手段と処置を理解する。 ③歯周疾患のリスクファクターについて理解する。 ④定期的予防処置の重要性について理解する。		
14	7章 1 口内炎 2 口腔癌 3 不正咬合 4 顎関節症 5 歯の形成不全 6 口臭症 7 口腔乾燥症	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。		
15	案①2章 1 口腔清掃の意義 2-1. 2. 3 口腔清掃法 3-1. 2. 3 人工的清掃法の分類と用具 4 不適切な口腔清掃法による有害作用 5 歯磨剤と洗口剤 案②アンケートなどでわからなかった所の復習	①刷掃用具の種類と使用法を習熟する。 ②染め出し剤の色素名を覚える。 ③不適切な刷掃法の有害作用を理解する。 ④歯磨剤と洗口剤の組成とその効能を覚える。		

【保健情報統計学】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	郷原賢次郎	実務経験	歯科医師。九州歯科大学大学院歯学研究科。歯科診療所院長。
授業との関連性	口腔衛生学に係る様々な研究を踏まえ、口腔健康管理に必要な評価のし方と管理について講義する。		
講師名	山川摩利子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院歯科を経て熊本市東区保健子ども課に勤務。
授業との関連性	熊本市に勤務する歯科医師としての経験を踏まえ、統計から地域集団の動向を探り県民の健康維持への介入の在り方を講義をする。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	国家試験担当範囲の習熟を最優先に、近年の歯科衛生士に求められる業務範囲の広がりに対して、その意義等を伝える。統計の意義について学び、歯科衛生士の仕事为国家各種行政機関が行う統計調査とどのように関わっているのかを知る。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」佐々木好幸著 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	1. 歯科疾患実態調査 2. 地域保健事業、健康増進事業報告書 3. 各種統計報告書
------	--

履修上の注意	PC使用によるスライド形式で行う
--------	------------------

回	授業計画	到達目標
1	(山川摩利子) ①行政歯科衛生士業務について ②自治体から国への事業報告としての「地域保健事業・健康増進事業報告」を理解する。 ③「歯科疾患実態調査」について概要を理解する。	①行政歯科衛生士の果たす役割を説明できる。 ②「地域保健事業・健康増進事業報告」の概略を説明できる。 ③「歯科疾患実態調査」について説明できる。
2	<郷原賢次郎> 歯科衛生統計総論	疫学概論 疫学の歴史 スクリーニング
3	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (カリエスについて)	各種指標の説明
4	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (歯周疾患について)	各種指標の説明
5	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (口腔清掃状態について)	各種指標の説明
6	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (不正咬合、フッ素症、その他)	各種指標の説明
7	<郷原賢次郎> 統計総論	統計の分類 各種統計指標 代表値について
8	<郷原賢次郎> 検定	各種統計指標に適した検定法 検定の重要性とその意義について

【 衛生公衆衛生学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	弘中美貴子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本口腔衛生学会認定医。日本抗加齢医学会専門医。九州歯科大学口腔衛生学講座臨床研修医、国立予防衛生研究所歯科衛生部、歯科診療所副院長。
授業との関連性	口腔衛生学会認定医、また抗加齢医学専門医としての様々な臨床経験を踏まえ、健康を守るための基礎的な知識や社会制度と社会の出来事が健康に与える影響について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	1. 健康とは何か。日本人と世界の健康の現状を知る。 2. 健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、個人レベルでの予防と集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。 3. 将来、自分と家族の健康をまもっていくための基本的知識と社会制度を習得する。 4. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点) Moodleの小テストの履修状況と評定、グループ発表の内容やパフォーマンスを加点評価する(0~10点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可見徳子著他 医歯薬出版KK		
参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
履修上の注意	・新聞をよく読み、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。 ・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。 ・Moodleを使用するのでネットにつながる端末を用意すること(スマートフォンでも可)		
回	授業計画	到達目標	
1	第1章:総論 Moodle導入 宿題:難病	①健康の概念 ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション ③予防医学と予防の段階	
2	小テスト(1) 第2章:疫学	①疫学とは何か ②難病といわれる疾病を覚える。	
3	小テスト(2) 第2章:疫学(2)	①罹患率と有病率 ②疫学の方法と倫理	
4	第3章:人口(1)	①動態統計と静態統計の違いを理解する。 ②人口統計と統計用語 ③出生・死亡の統計	
5	第3章:人口(2)	①平均寿命 ②世界の人口 ③まとめ	
6	小テスト(3) 第4章:環境(1) 宿題:グループ学習(環境)	①概念 ②空気と水 ③放射線	
7	第4章:環境(2)グループ学習の発表	地球環境と公害	
8	第4章:環境(3)グループ学習の発表	①まとめ ②廃棄物処理	
9	第5章:感染症(1)	①感染症の用語を覚える ②感染症の分類と分類された感染症を覚える。 ③感染症の予防と対策を知る。	
10	第5章:感染症(2) パワーポイント	①感染症に分類された病気について詳しく理解する。	
11	第5章:感染症(3) まとめ 小テスト(4)	①ニュースになった感染症を新聞記事で履修する ②予防接種 ③感染症についての理解を深める	
12	小テスト(5) 第6章:食品と健康(1) 計算機持参	①メタボリックシンドロームについて理解する。 ②BMIが計算できる。 ③食中毒の疫学、分類、原因を理解する。	
13	第6章:食品と健康(2) Ⅲ. 第7章:精神保健(1) 宿題:グループ学習(精神保健)	①食中毒の小テスト ②精神保健の意義を知る。 ③心の健康と行動を理解する。 ④精神保健対策の法律を理解する。 ⑤虐待について知る。	
14	Ⅲ. 第7章:精神保健 グループ学習の発表 全体の総括	①精神障害の分類と特性、病態を理解する。 ②発達障害の分類と特性を理解し、対応を考える。 ③最重要ポイントを再確認する。	
15	まとめ学習 わかりにくかったところを重点的に	①疫学 ②人口統計 ③感染症の分類などを予定	

【 歯科衛生学Ⅰ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全衛協認定歯科衛生士専任教員として、歯科衛生士法における法的業務と歯科衛生士の社会的使命や活躍の場面について講義や演習を行う。		

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士の系統専門学問である歯科衛生学について理解を深め、医療専門職としての認識を持つ。また、歯科衛生士法における法的業務の解釈を理解し、国家資格である歯科衛生士の社会における役割を理解する。 科学的根拠をもって歯科衛生活動を展開するためのツールである歯科衛生過程の概要を理解することができる。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点→岩切70点、野中30点) 提出物への厳守。減点対象になることもあります。
------	---

教科書名	①最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	1. 新歯科衛生士教本「歯科衛生学概論」江島房子著 医歯薬出版 2. 「歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション」中村千賀子著 医歯薬出版 3. 「生活の医療」大久保満男著 中央公論新社 4. 「いのちと食」大久保満男著 中央公論新社 ※その他は授業中に紹介します。 5. 最新歯科衛生士教本「心理学」医歯薬出版
------	---

履修上の注意	授業中は話している内容を聞きながら記録をとるようにしてください。 配布資料は毎回持参し綴じておくこと。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	(岩切恵子) 医療専門職になるにあたって 1章 「歯科衛生学」とは何か 健康とは何か 健康と疾病、病気の捉え方 5章 歯科衛生士とは何か。 歯科衛生士法の性格と業務内容 歯科衛生士の定義	1. 歯科衛生士になるための心構えが理解でき今後実践することができる。 2. 「歯科衛生学」とは何か、簡単に述べることができる。 3. 「健康」とは何か、説明することができる。 4. 「疾病」と「病氣」の違いを医療専門職の観点から説明できる。 5. 歯科衛生士とはどのような医療専門職か説明できる。 6. 歯科衛生士の社会的責任について説明できる。 7. 歯科衛生士の定義について説明できる。
2	(岩切恵子) 5章 歯科衛生士業務の法的性格 (1)歯科予防処置 (2)歯科診療の補助 (3)歯科保健指導 歯科衛生士の義務	1. 歯科衛生士法の要点を説明できる。 2. 「歯科医師の指導の下に」の意味が説明できる。 3. 独占業務(第2条)について説明できる。 4. 歯科予防処置としての歯石除去と歯科診療補助業務としての歯石除去の違いが説明できる。 5. 歯科診療「補助」と「介助」の違いが説明できる。 6. 絶対的歯科医行為と相対的歯科医行為が説明できる。 7. 歯科診療の補助業務としての妥当性について説明できる。 8. 歯科衛生士の義務を説明できる。
3	(岩切恵子) 歯科衛生士法の復習 5章 安全管理 2章 歯科衛生の歴史と発展	1. 前回学んだ歯科衛生士法の重要な事項を再確認することができる。 2. 医療事故とは何か定義を説明できる。 3. リスクマネジメントについて歯科衛生士の対応を説明できる。 4. 歯科衛生士の教育、発展について年次を追って簡単に説明できる。
4	(岩切恵子) 7章 歯科衛生士の活動と組織 (1)歯科衛生士の動向 (2)歯科衛生士の就職先 歯科医療保健に携わる人(マンパワー)と多職種連携	1. 全国の就業歯科衛生士数を知り自身の役割を考える。 2. 全国の就業歯科衛生士数と就業先分布を把握する。 3. 行政が関わる国民健康増進のための施策を列記し、簡単に説明することができる。 4. 歯科医療に関わるマンパワーを列記できる。 5. 多職種の名称と法的業務や役割を簡単に説明できる。
5	(岩切恵子) 7章 歯科衛生士と組織 8章 諸外国の歯科衛生士 これからの歯科衛生士	1. 歯科衛生士の能力向上のための組織や各種認定制度を知る。 2. 諸外国の歯科衛生士の業務について知る。

回	授業計画	到達目標
6	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①) 歯科衛生過程の概要1 歯科衛生過程の必要性とは 3章 歯科衛生活動のための理論 (教本①P20~31) 資料 1. 歯科衛生過程の概要1要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生過程を活用する意義を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 3. 歯科衛生過程のプロセスと構成要素を列挙できる。 4. クリティカルシンキングについて説明できる。 5. ヒューマンニーズ理論について説明できる。 6. DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念モデルについて説明できる。
7	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①) 歯科衛生過程の概要2 歯科衛生過程の構成 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生診断の概要を説明できる。 2. 歯科衛生計画立案の概要を説明できる。 3. 歯科衛生介入の概要を説明できる。 4. 歯科衛生評価の概要を説明できる。
8	4章 歯科衛生過程(教本①) 書面化の意義とは POS理論の概要 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. POS理論について概説できる。 2. SOAPについて概説できる。
9	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①②③) 書面化の導入問題提示、説明	1. SOデータの基本的な分類法を説明できる。 2. 練習問題のSデータを抽出することができる。 3. 練習問題のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例の情報を読み込むことができる。
10	(野中友紀子) 情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例:佐藤詩音 資料1~3 症例を読み込み個人ワーク	1. 模擬症例のSOデータを読み込むことができる。 2. 模擬症例のSデータを抽出することができる。 3. 模擬症例のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生介入計画を立案することができる。
11	(野中友紀子) 情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 SOAP内容の再計画 症例:佐藤詩音 資料1~3	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
12	(野中友紀子) ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表①	1. 模擬症例の情報と問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。
13	(野中友紀子) 情報収集と分析方法2 POS理論とその応用 相互演習	1. 学生相互のSOデータを読み込むことができる。 2. 学生相互のSデータを抽出することができる。 3. 学生相互のOデータを抽出することができる。 4. 学生相互のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 学生相互の歯科衛生介入計画を立案することができる。
14	(野中友紀子) 情報収集と分析方法2(教本①②③) POS理論とその応用 相互演習にてSOAP分類	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
15	(野中友紀子) ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表②	1. 学生相互の情報をもとに、SOデータ、問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。 4. 歯科衛生評価までの流れを説明することができる。

【 歯科衛生学Ⅱ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をととして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。						
評価方法	定期試験(課題レポート 配点約10点) 提出物(記録方法)・出席状況・・・減点対象とすることもある。						
教科書名	①最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可児徳子著他 医歯薬出版KK						
参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」						
履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. ライフステージ別のレポート課題 〆切 夏季休暇中登院日・調べ学習 OR 穴埋め問題 4. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 5. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 6. 学科目「地域歯科保健」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。						
回	授業計画			到達目標			
1	1章 歯科衛生過程の基礎 (教本②) 1年次流れ復習(スライド等)			1. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。 3. 歯科衛生診断について説明できる。			
2	1章 歯科衛生過程の基礎(教本②) 歯科衛生過程の各構成要素			1. 歯科衛生計画立案について説明できる。 2. 歯科衛生介入について説明できる。 3. 歯科衛生評価について説明できる。 4. 歯科衛生過程における書面化の意義について説明できる。			
3	ライフステージ別の口腔保健管理1 (妊産婦・乳幼児期・学齢期) 教本③ 配布資料 レポート課題			1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 学校歯科保健法に基づく健診内容を説明できる。 5. COの定義を説明できる。 6. GOの定義を説明できる。			
4	ライフステージ別の口腔保健管理2 (思春期・成人期・老年期・特別に配慮が必要な方) 教本③ 配布資料 レポート課題			1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 歯周炎の原因菌を説明できる。 5. フレイル予防について説明できる。 6. 専門的口腔健康管理法について説明できる。			
5	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習① (口腔内精密検査表・カリオグラム・スタディモデル・口腔内写真)			1. 対象者の口腔保健管理を行うために役立つ情報を収集することができる。 2. 収集した情報を分析し、問題点を抽出できる。 3. POS理論の説明ができる。			
6	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習② 強み・データ不足→提出			1. 対象者の主観的情報と※客観的情報から問題点を抽出できる。 ※すでに履修済資料から読み取り(精密検査表2枚、模型、臼歯部標準型、PCR結果、カリエスリスク検査表) 2. 指導計画を立て、目標設定ができる。			
7	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習③ (追加訂正指導後)			1. 歯科衛生計画を歯科衛生士業務記録に、SOAP形式で記録することができる。(SOAP記入練習) 口腔内観察・ミラー、エキスポローラー、ピンセットを紙パックにて滅菌、染め出しセット・対象者資料一式準備 服装:制服+エプロン			

回	授業計画	到達目標
8	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ①症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) 個人ワーク	1. 対象者の情報を収集し、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類することができる。 2. 問題点とその原因に分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 (※1～3事前学習含む)
9	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ②症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) グループワーク	1. 収集した情報をもとに、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類し、他者へ説明することができる。 2. 問題点とその原因を分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 4. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
10	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ③ 発表 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析)	1. 対象者の情報と問題点をヒューマンニーズ概念に基づき分類し、発表できる。 2. グループの発表を聴き、クリティカル思考で疑問点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。
11	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ④症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 個人ワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。
12	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑤症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
13	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑥症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
14	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑦発表 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案	1. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定し発表できる。 2. グループの発表を聴き、改善点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。 4. 発表のための資料を作成することができる。
15	歯科衛生過程のまとめ 「事例でわかる歯科衛生過程5章」 臨床での実践	1. 歯科衛生過程を学ぶ理由を自身の考えで説明できる 2. 歯科保健医療と歯科衛生過程について説明できる 3. 多職種連携における歯科衛生過程の概要を説明できる 4. 歯科衛生士の記録(書面化)内容の4原則【目的・方法・結果・方針】を説明することができる。

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をととして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。
------	---

評価方法	定期試験(90点満点)・提出物(記録方法)・歯科衛生アセスメント内容のルーブリック評価(10点加点)・歯科衛生過程一斉ワーク活動内容を加点する場合があります。(5~10点)
------	--

教科書名	①最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」可児徳子著他 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」
------	---

履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 4. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 5. 学科目「保健指導法」「歯科診療補助法」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。
--------	---

回	授業計画	到達目標
---	------	------

1	保護者対面実習1 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断 ～クリティカル思考にて検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生アセスメントおよび目標の立案ができる。
---	---	---

2	保護者対面実習2 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断の完成 ～クリティカル思考にて検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる 3. 班員と協調しながら目標の立案ができる。
---	--	---

3	保護者対面実習3 歯科衛生計画立案(長期目標・短期目標の設定) ～クリティカル思考にて検討	1. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 2. 短期目標の達成期日の設定ができる。 3. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(O-P, E-P, O-P)ができる。 2. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
---	---	---

4	保護者対面実習4 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士法の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(O-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
---	--	---

5	保護者対面実習5 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士法の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(O-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
---	--	--

6	保護者対面実習6 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士法の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(O-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
---	--	--

7	保護者対面実習7 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(O-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
---	---	--

回	授業計画	到達目標
8	保護者対面実習8 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
9	保護者対面実習9 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者対面実習オリエンテーション後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
10	保護者対面実習10 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者対面実習ロールプレイ後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
11	保護者対面実習11 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者対面実習ロールプレイ後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
12	保護者対面実習12 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。
13	保護者対面実習13 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。
14	保護者対面実習14 症例発表 歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの概要説明	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。
15	保護者対面実習15 症例発表 歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの概要説明 演習時の活動貢献度の相互評価を実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。 3. 班員の演習時の活動貢献度について相互評価を行うことができる。 4. 自身の演習への貢献度を振り返ることができる。

【 医療倫理 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	伊藤明彦	実務経験	(一社)熊本県歯科医師会会長。歯科医師。歯科診療所院長。		
授業との関連性	歯科医師会会長の重責を担う立場から医療人としての倫理観について講義する。				
講師名	牧 正仁	実務経験	本学院学院長。歯科医師。医学博士。歯科診療所副院長。		
授業との関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。				
講師名	秋山 清	実務経験	本学院副学院長。歯科医師。歯科診療所院長。		
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療での経験を踏まえ、患者中心の医療や歯科衛生士として必要な倫理観について講義する。				
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
				授業回数	8
授業目標	1. 医療人としての使命を確認し、どのようにすればそれが果たせるか自分の気持ち、行動を確認、修得する。 2. 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる医療人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーションやその基礎となる行動科学を学ぶ。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理 第2版」 櫻 則章著他 医歯薬出版KK				
参考文献	歯科医療倫理Q&A 大井賢一、木坂昌知 著 太陽出版 倫理学入門 品川哲彦著 中公新書				
履修上の注意	1. 医療人としてだけでなく、人として自分の倫理観に照らし合わせながら、自分の中で消化し取り入れてゆく。 2. 素直で純粋な心で学ぶ。 3. 将来の様々な場面で他者との関係を踏まえて正しい行動をとれるように学ぶこと。 4. 私語の禁止。 5. 素直な気持ちで聴く。				
回	授業計画			到達目標	
1	(伊藤明彦) 一般的な心構え 医療人としての心構え			1. 自分を見つめ直し、使命を果たす力を習得する。 2. 社会貢献について考える。色々な患者さんの背景を考える力を習得する。 3. 患者と向かい合う姿勢(心と態度)を習得する。 4. 守秘義務と世の中とのかかわり方を習得する。	
2	(牧 正仁) 歯科衛生士としての倫理観			1. 患者に対していたわりをもって接することができる。 2. プライバシーの厳守ができる。 3. 医療人としての身だしなみができる。 4. 自己の健康管理ができる。	
3	(秋山 清) なぜ医療倫理を学ぶのか ○伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ ○患者中心の医療			時代とともに変化してきた医の倫理について学び、歯科衛生士として必要な倫理観を身につけ、医療倫理、患者中心の医療とは何かを理解する。	
4	(秋山 清) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス(生命倫理学) 研究と医療倫理			医療従事者の職業倫理に関する規範、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理、生命倫理学、生と死に関する倫理、医療技術の発達に伴う問題を理解する。	
5	(秋山 清) インフォームド・コンセント			インフォームドコンセント・インフォームドチョイスなどについて説明できる。これらの倫理的意義、倫理的な要求について述べる事ができる。 セカンドオピニオンについて説明できる。	
6	(秋山 清) QOL、クオリティ・オブ・ライフ (生活の質)			歯科医療に於けるQOLの向上について説明ができ、歯科衛生士としてQOLにどのようにかかわるかを理解する。	
7	(秋山 清) 行動科学			生活行動に於ける中で保健行動とは何か。また患者をどのように理解するかを学ぶ。	
8	(秋山 清) コミュニケーション 総まとめ(試験対策)			歯科衛生士として個々の患者及び他職種とのチームアプローチについてコミュニケーションをどのようにとるかを説明できる。	

【 歯科臨床総論 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	五島嘉人	実務経験	歯科医師。福岡歯科大学附属病院総合歯科勤務を経て歯科診療所院長。		
授業との関連性	大学病院在籍と臨床歯科医療の経験を通して、臨床歯科医療の一連の流れについて講義する。				
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	「歯科とは」「歯科医師とは」「歯科衛生士とは」何かを理解していく。また、初めて耳にする言葉、態勢について、まずは耳に慣れてもらうように学習する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」 石川達也著 医歯薬出版KK 「イラストで学ぶ デンタルオフィス入門」 対馬ゆか 他 著 医歯薬出版KK 「歯科衛生士臨床のすべて(パーシクパート)」Antonella Tani Botticelli著 エルパ社				
参考文献					
履修上の注意	必要に応じ、パワーポイント、模型を使用します。				
回	授業計画			到達目標	
1	歯科診療とは			歯科診療の概要を理解する	
2	歯科診療所について			歯科診療所のスタッフ、設備費比、安全管理を理解する	
3	歯科診療所における業務			全体的な業務・歯科衛生士の業務を理解する	
4	診査・検査・前処置について			歯科診療の全体的な流れ・診査・検査・前処置を理解する	
5	小児歯科・矯正歯科について			小児歯科・矯正歯科における歯科衛生士の役割を理解する	
6	口腔外科について			口腔外科とは何かを理解する	
7	歯科保存について①			う蝕と保存修復治療を理解する	
8	歯科保存について②			歯内療法を理解する	
9	歯周治療について①			歯周疾患、歯周治療の流れを理解する	
10	歯周治療について②			歯周治療における歯科衛生士の役割を理解する	
11	歯周治療について③			歯周治療における歯科衛生士の役割を理解する	
12	歯科補綴について①			歯科補綴の種類を理解する	
13	障害者歯科・高齢者歯科について①			障害者と高齢者の特性を理解する	
14	障害者歯科・高齢者歯科について②			障害者歯科と高齢者歯科における歯科衛生士の役割を理解する	
15	総括			全体的なまとめ	

【 保存修復学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	金本良久	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部第一保存科を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	大学保存科在籍と臨床歯科医師としての経験を踏まえ、直接修復、間接修復などの手順、基礎知識、歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	教科書を基に日常歯科臨床と結びつけつつ、保存修復学の基礎について学ぶ。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 千田 彰著他 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の注意			
回	授業計画	到達目標	
1	歯の保存療法の種類 口腔検査(歯および歯周組織)	歯科保存学の役割と歯および歯周組織検査を理解する。	
2	保存修復の概要	保存修復学全般について理解する。	
3	直接法修復①	直接法修復について理解する。	
4	直接法修復②	直接法修復について理解する。	
5	間接法修復①	間接法修復について理解する。	
6	間接法修復②	間接法修復について理解する。	
7	保存修復における歯科衛生士の役割①	検査、修復の手順および注意点を理解する。	
8	保存修復における歯科衛生士の役割②	検査、修復の手順および注意点を理解する。	

【 歯内療法学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	船津雅彦	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯内療法の基礎知識と歯科衛生士の役割について講義する。		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義
	単位数	1単位(15時間)	授業回数
授業目標	歯内療法学の目的及び診断とその処置法を理解する。		
評価方法	定期試験(90点)、授業中の質問に対する答え(10点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織 歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 千田 彰著他 医歯薬出版KK		
参考文献	授業中に配るプリント		
履修上の注意	前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。		
回	授業計画	到達目標	
1	歯内療法学とは何か。 歯髄保存療法とは何か。 歯髄除去療法とは何か。	歯内療法の目的と診断及び処置方法を理解する。 歯髄を保存する意味とその処置方法を理解する。 歯髄を除去する意味とその処置方法を理解する。	
2	歯内療法における歯科衛生士の役割とは何か。	歯科衛生士には、初診で来院した患者さんの状況を把握して、その情報を歯科医師に伝える重要な役目がある。歯内療法においてのその手順と方法を理解する。	
3	根管形成・根管洗浄・根管充填とは何か。	抜髄・感染根管治療の各ステップと、それら処置に用いる器具の名称、使用目的について理解する。	
4	1. 2. 3回の理解度を確認する。	前回までの内容を理解して、歯内療法を一連の流れで理解する。	
5	歯内療法における安全対策とは。 歯の外傷とは何か。 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法について	治療の際、起こりえる偶発症・トラブルに対する対処法・予防法について理解する。 歯の外傷の分類・処置方法・事故時の患者さんへの対処法を理解する。 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法について理解する。	
6	歯内療法の診断から根管充填までの流れを理解する。	それぞれのステップで必要な知識が有り、必要な器具の準備ができるか確認する。	
7	歯内療法のケーススタディー	患者さんからの情報(問診)から必要な検査を行い、処置の準備ができるか確認する。 授業でわからないところを質問する。自分のわからないところを書いて提出する。	
8	歯内療法全般の学生からの質問に答える。	今まで分からなかったところ、誤解していたところを解決する。	

【 歯周療法学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	東 克章	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	日本歯周病学会の指導医、専門医の立場から正常な歯周組織や歯周病についての基礎知識、治療法、更に歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	1. 歯周病とはどのような病気を健康な歯周組織と比較することによって理解する。 また、それらの知識を活用して患者さんの指導法を学ぶ。 2. 組織病理、発生等の基礎知識を通して歯周病の原因、治療メンテナンスについて理解する。 3. 歯周治療のゴールを知る。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯周病学 第2版」 申 基結著他 医歯薬出版KK		
参考文献	プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて ベーシックパート Antonella Tani Botticelli 著 エルバ		
履修上の注意	1. 講義に集中すること 2. 講義内容はノートをとること 3. できるだけ予習、復習しておくこと		
回	授業計画	到達目標	
1	I編 歯周治療の基礎知識 1章 歯科治療とは	歯周病になると具体的にはどうなるのか、歯周治療で現在ほどまで歯を残すことができるかを知る。	
2	I編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(1)	歯周組織の構造がどのようなになっているかをイメージすることができる。	
3	I編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の構造と名称を自分自身で図示することができるようになる。	
4	I編 3章 歯周病の分類と原因	歯肉炎と歯周炎の違い 原因は何か 歯周医学について理解する。	
5	I編 まとめ 小テスト	3章までの理解度を自ら把握し、更に理解を深める。	
6	II編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方	歯周治療の基本的な進め方を理解し、その流れを説明できる。	
7	II編 2章 歯周病の検査	歯周組織検査のそれぞれの意味を理解し、健康からどれだけ破壊されているかを知る。	
8	II編 3章 歯周基本治療	歯周基本治療の目的と手段について説明できる。	
9	II編 4章 歯周外科治療	歯周外科処置の目的、適応症、種類、使用する器材を理解する。	
10	II編 まとめ 小テスト	II編の歯周外科治療までの全体の理解度をチェックする。	
11	II編 5章 歯周治療としての口腔機能回復 6章 メンテナンス	歯周治療としてのリハビリテーションやメンテナンスの目的と方法について理解する。	
12	II編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割①～③	歯周治療における歯科衛生士の業務を理解し、その役割がいかに大きいかを自覚する。	
13	III編 1章 ④スケーリング・ルートプレーニング ⑤歯周外科治療	スケーリング・ルートプレーニングと歯周外科についてその内容の理解を深める。	
14	III編 1章 ⑥口腔機能回復治療 ⑦メンテナンス、SPT ⑧診療室と器具・器材の管理	リハビリテーションとメンテナンスについてその内容の理解を深める。 質の高い診療室と器具器材の管理の仕方と重要性について理解する。	
15	III編 まとめ 小テスト	III編 5章から8章までの理解度をチェックする。 また、全編にわたっても再チェックを行う。	

【 歯科補綴学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	椿 賢	実務経験	歯科医師。歯学博士。福岡歯科大学附属病院勤務を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師として、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。		
講師名	(愛歯)渡邊裕士	実務経験	歯科技工士。歯科技工所に在籍し教育マネージャーとして活躍。
授業との関連性	大手歯科技工所に勤務し自らも歯科技工士として補綴物製作にあたりながら後輩への指導を実践している視点から、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期 2年前期 授業方式 講義・技工物製作見学 単位数 2単位(30時間) 授業回数 15

授業目標	<p>〈椿 先生〉 顎口腔機能について理解するとともに、歯科補綴とは何かを理解し、歯科衛生士としての関わり合いを学習する。</p> <p>〈渡邊先生〉 補綴装置の分類・特徴を理解・整理することで、補綴治療の意義と目的への理解を深める。 補綴装置の仕組み・構造と使用材料を理解することで、補綴治療の実際への理解を深める。 補綴物の製作過程を学ぶことで、補綴治療の実際における歯科衛生士の役割を理解する。</p>	
評価方法	定期試験(100点満点)・提出物…小社(愛歯)作成試験への質疑・回答とワークシート記入	
教科書名	最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」赤川安正著 医歯薬出版KK	
参考文献	第3版 歯科補綴学専門用語集 (日本補綴学会編) 医歯薬出版	
履修上の注意	<p>〈渡邊先生〉 小社(愛歯)見学プログラム進行とワークシート記入により、学習を深め、その評価を行いたい為黄色のマーカーと赤・黒のボールペンをご持参願います。</p>	
回	授業予定	到達目標
1	補綴治療の意義と目的	①補綴の意義と目的を理解する。 ②歯科衛生士の役割について説明できる。
2	補綴歯科治療の基礎知識	歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。
3	補綴歯科治療における検査	口腔内や顎機能の検査について説明できる。
4	クラウン・ブリッジ治療①	クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説でき、治療の流れを説明できる。
5	クラウン・ブリッジ治療②	①クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる。 ②クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。
6	全部床義歯治療①	①全部床義歯治療の特徴を概説できる。 ②全部床義歯治療の流れの説明やそれに伴う材料の準備ができる。
7	全部床義歯治療①	①全部床義歯治療の患者への説明、指導が実施できる。 ②全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。
8	部分床義歯治療①	①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。
9	部分床義歯治療②	①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。
10	インプラント治療	①インプラント治療の特徴を概説できる。 ②インプラント治療の流れなどの説明や器材の準備などが実施できる。
11	特殊口腔内装置を用いる治療と補綴歯科治療における器材の管理	①特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。 ②補綴歯科治療の器材管理の概説と器材別の滅菌などを実施できる。
12	(愛歯にて)補綴物の製作過程	補綴物の仕組み・構造・使用材料について説明できる。
13	(愛歯にて)部分床義歯、総義歯の製作過程	有床義歯による欠損補綴処置について説明できる。
14	(愛歯にて)補綴物製作の見学1 (歯科技工の流れと、その使用材料・器材)	補綴物製作過程の実際と必要な材料・器材を理解する。
15	(愛歯にて)補綴物製作の見学2 (歯科技工の流れ 従来法とCAD/CAM技工)	補綴物製作過程の実際において必要な加工プロセスの従来技法とデジタル技法を理解する。

【 歯科矯正学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	上村裕希	実務経験	歯科医師。鹿児島大学大学院歯科矯正学分野にて13年勤務。その後、矯正専門クリニックを開設
授業との関連性	歯科矯正治療を専門にクリニックを開設し、日本矯正歯科学会認定医として日々診療を行っている経験と大学で学んだ知識を基に、歯科矯正治療の目的、治療方法、歯科衛生士の役割、口腔保健管理について講義を行う		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科矯正学における基本的な事項を説明し、理解させることによって、歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割について学び、将来、歯科矯正治療を行うチームの一員として活躍できるようにする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「歯科矯正」 水室利彦著 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の注意			
回	授業予定	到達目標	
1	矯正歯科治療の概要について	①歯科矯正学の定義について説明できる。 ②矯正歯科治療の目的を説明できる。 ③歯科矯正治療のベネフィットとリスクについて説明できる。	
2	成長発育について	①成長発育の4つの型の名称とその特徴を説明できる。 ②上顎・下顎の成長発育について説明できる。 ③骨の成長の3つの様式を説明できる。	
3	正常咬合と不正咬合について	①正常咬合を説明できる。 ②不正咬合を説明できる。 ③Angleの不正咬合分類を説明できる。	
4	歯科矯正診断について	①矯正歯科診断に必要な検査項目を列挙し、その意義を説明できる。 ②模型分析の方法とその意義を説明できる。 ③頭部エックス線規格写真分析の方法とその意義を説明できる。	
5	矯正歯科治療と矯正力・顎整形力について	①矯正力と移動する歯、固定の関係を説明できる。 ②歯が移動する際の歯周組織反応を説明できる。 ③器械的矯正力と機能的矯正力を説明し、利用する装置をあげることができる。	
6	矯正歯科治療と矯正力・保定について	①固定の3つの種類を説明できる。 ②保定の定義と主な装置を説明できる。 ③矯正歯科治療の再発の定義とその要因を説明できる。	
7	矯正装置について	①矯正装置の分類について説明できる。 ②矯正装置の種類とその構成を説明できる。 ③矯正装置装着時の指導ができるようになる。	
8	上下顎の前後的関係の不調和について 上下顎の垂直的関係の不調和について	①Ⅰ級Ⅱ級Ⅲ級の不正咬合を説明できる。 ②過蓋咬合を説明できる。 ③開咬を説明できる。	
9	成人矯正について	①補助的矯正歯科治療と包括的矯正歯科治療の相違を説明できる。 ②成人患者の矯正歯科治療の注意点を説明できる。 ③歯周治療や補綴処置のための矯正歯科治療を説明できる。	
10	口腔顎顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数の異常について 矯正歯科治療時のトラブルへの対応について 健康保険が適用される矯正について	①口唇・口蓋裂の咬合異常とその治療について説明できる。 ②不正咬合をもたらす主な症候群をあげることができる。 ③顎変形症の治療の流れを説明し、骨切り手術の必要性を説明できる。 ④埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について説明できる。	
11	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診断にかかわる業務	①矯正歯科診断に必要な資料について説明できる。 ②顔面写真、口腔内写真撮影の要点を説明できる。 ③模型製作のための印象採得の要点を説明できる。	
12	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診療時の業務、矯正歯科患者と口腔保健管理	①矯正歯科治療に用いる器具の用途について説明できる。 ②各種矯正装置装着時における補助について説明できる。 ③各種矯正装置装着時における注意点を説明できる。 ④ブランクコントロールに使う器具について説明できる。	
13	口腔筋機能療法	①口腔筋機能療法の訓練について説明できる。 ②口腔周囲組織のアセスメントについて説明できる。 ③吸指癖の指導について説明できる。 ④口腔筋機能療法の効果について説明できる。	
14	矯正治療全般についてのまとめ ①	13回までの講義において分かりにくかったところ、説明不足であった点について再確認。	
15	矯正治療全般についてのまとめ ②	全体で不明な点の再確認	

【 口腔外科学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	久保 隆太	実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科医員。熊本大学医学教育部博士課程。		
授業との関連性	歯科口腔外科医としての臨床経験を踏まえ、顎・口腔領域に発現する疾患や口腔外科診療における歯科衛生士の役割について講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
					授業回数
授業目標	口腔外科の基礎知識及び临床上必要となる関連知識の習得を目指す。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 山根源之著他 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意					
回	授業計画			到達目標	
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常			①口腔外科領域の主な疾患と概要について説明できる。 ②口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。 ③口腔領域の先天異常と発育異常について簡単に説明できる。	
2	顎・口腔領域の損傷および機能障害			口腔領域の損傷について説明できる。	
3	口腔粘膜病変			口腔粘膜疾患の主な疾病を挙げ、それぞれの疾患について簡単に説明できる。	
4	顎・口腔領域の化膿性炎症 顎・口腔領域の嚢胞性疾患			顎、口腔領域の炎症・嚢胞について分類し説明できる。	
5	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患			口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について分類し、説明できる。	
6	唾液腺疾患			唾液腺疾患について説明できる。	
7	口腔領域の神経疾患			口腔領域の神経疾患について説明できる。	
8	口腔外科診療の実際			口腔外科診療の流れについて理解する。	
9	歯科治療と歯科麻酔①			患者管理について理解する。	
10	歯科治療と歯科麻酔②			局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔について理解する。	
11	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり①			手術各論について理解する。	
12	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり②			手術各論について理解する。	
13	まとめ①			学習確認 手術イメージビデオ等	
14	まとめ②			学習確認 手術イメージビデオ等	
15	まとめ③			学習確認 手術イメージビデオ等	

【 小児歯科学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	森奈千子 実務経験 歯科医師。福岡歯科大学小児歯科学教室入局、歯科診療所副院長。		
授業との関連性	長年の小児歯科医としての経験を踏まえ、小児口腔疾患やう蝕予防、歯科衛生士の役割について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	小児歯科医療は病気に対する治療や予防に限らず、健全な小児を育成するという目的を持っている。そのため保健学、予防歯科学の知識も重要となる。胎生期から成人にいたる間の小児の正常な口腔領域の発育を促し、これを阻害する口腔疾患について種類と治療を知ることによって、歯科衛生士が小児のライフステージに応じた対応方法、口腔衛生指導、う蝕予防、小児口腔疾患及び障害児の診療補助業務および疾患の予防を理解することを目標とする。また小児歯科診療における歯科衛生士の役割の大きさも理解することを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「小児歯科」大嶋 隆著他 医歯薬出版KK		
参考文献	新小児歯科学 第3版 クインテッセンス出版株式会社 2009年		
履修上注意	教科書に沿った講義を臨床スライド、ビデオを用いて行う。しっかりと講義を聴き、ノートをとること。評価は期末試験で行うが、出席率・授業中の態度の悪い者は減点するので注意するように。		
回	授業計画	到達目標	
1	小児歯科学概論 心身の発育 1	発育段階と口腔の変化を説明できる。 発育の概念と分類を説明できる。 年齢と身体発育の特徴を説明できる。	
2	心身の発育 2 小児の生理的特徴	生理的年齢について説明できる。 器官の発育・精神機能の発達について説明できる。 バイタルサインと生理的特徴を説明できる。 薬剤処方と薬物療法を説明できる。	
3	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常1	脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる。 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる。 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。	
4	歯の発育とその異常2 歯列・咬合の発育と異常1	歯の発育段階を説明できる。 歯の発育時期と形成異常を説明できる。 乳歯・永久歯の萌出時期と順序を説明できる。 歯の萌出異常を説明できる。 歯列・咬合の発育段階を説明できる。	
5	歯列・咬合の発育と異常2 小児の歯科疾患 1	歯列・咬合の異常を説明できる。 口腔習癖に起因する不正咬合を説明できる。 歯性不正咬合について説明できる。 小児にみられるう蝕・歯周疾患について説明できる。	
6	小児の歯科疾患 2 小児虐待	小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について説明できる。 小児虐待について、種類・背景について説明できる。 身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見について説明できる。 ネグレクトとう蝕について説明できる	
7	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法1	乳幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 小児歯科における患者との対応法について説明できる。	
8	小児歯科における患者との対応法2	歯科治療時の対応法について説明できる。	
9	小児歯科における診療体系 1	小児歯科診療とその特徴・原則について説明できる。 診察・検査・診断について説明できる。	
10	小児歯科における診療体系 2	小児の歯の健康教室について説明できる。 小児歯科における麻酔法について説明できる。 小児の歯冠修復について説明できる。 小児の歯内療法について説明できる。	
11	小児の歯科における診療体系 3	小児の外科的処置について説明できる。	
12	小児の歯科における診療体系 4	咬合誘導を説明できる。 フッ化ジアンミン銀塗布について説明できる。 リコール(定期健診)を説明できる。	
13	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応法を説明できる。 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる。 障害児への対応法を説明できる。 小児の摂食・嚥下障害の特徴を説明できる。	

回	授業計画	到達目標
14	う蝕予防	ブレークコントロールについて説明できる。 フッ化物の応用・小窩裂溝填塞法について説明できる。 う蝕予防のための食生活指導ができる。
15	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理	診療補助と歯科衛生士の役割を説明できる。 成長時期に応じた口腔健康管理ができる。 口腔健康管理に必要な検査と指導ができる。 診療室・待合室・受付・器材の管理について説明できる。

【 障害者歯科学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山川摩利子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院歯科、熊本市東区保健子ども課勤務。
授業との関連性	日本障害者歯科学会指導医としての経験を活かし、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境や障害の種類・特徴、また歯科医療の関わりや歯科衛生士の役割について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義
		単位数	1単位(15時間)
		授業回数	8
授業目標	障害を理解し、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境を理解する。そのうえで、将来、歯科医療人として当たり前の診療行為を提供するために必要な知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「障害者歯科 第2版」 向井美恵著 医歯薬出版KK		
参考文献	スペシャルニーズデンティストリー-障害者歯科 第二版 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版KK		
履修上の注意	パソコン、プロジェクターを使用します。 補助資料のプリントを配布する予定です。		
回	授業計画	到達目標	
1	第1章 障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ ②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を要する人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	①歯科医療におけるスペシャルニーズを説明できる。 ②国際生活機能分類を説明できる。 ③障害児・者のQOLが説明できる。 ④ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。 ⑤障害のある人と福祉制度について説明できる。 ⑥障害者歯科医療の仕組みが説明できる。	
2	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害 1 精神遅滞(知的障害) 2 広汎性発達障害 3 注意欠陥/多動性障害(ADHD) 4 学習障害(LD)	①精神遅滞(発達障害を含む)と関連する疾患・障害を説明できる。 ②DSM-5に基づく、障害名の変更について説明できる。 ③精神遅滞のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
3	②運動障害(神経・筋系疾患) 1 脳性麻痺 2 重症心身障害 3 筋ジストロフィー 4 脊髄損傷 5 関節リウマチ 6 脳血管障害 7 筋萎縮性側索硬化症 8 その他の障害	①運動障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ②運動障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
4	③感覚障害 1 視覚障害 2 聴覚障害 3 嚥咽 4 その他の障害 ④音声言語障害 ⑤精神および行動の障害 ⑥その他 障害のある人への虐待	①感覚障害について説明できる。 ②感覚障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。 ③精神障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ④精神障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
5	第3章 障害者の歯科医療と行動調整 ① コミュニケーションの方法 ② 行動療法 ③ 体動のコントロール ④ 薬物的行動調整法	①障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる。 ②障害者歯科で応用される行動調整法について説明できる。 ③行動療法における歯科衛生士の役割を説明できる。	
6	第4章 健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔ケアへの支援 ②専門的口腔ケア ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	①障害のある人の口腔のケアを説明できる。 器質的口腔ケアと機能的口腔ケアについて説明できる。 ②専門的口腔ケアを説明できる。 ③障害や疾患に応じた口腔衛生管理について説明できる。	
7	第5章 リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制	①障害者歯科におけるリスクについて説明できる。 ②障害者歯科におけるリスク評価について説明できる。 ③医療機関における安全管理の概要を説明できる。 ④障害者歯科における感染対策の基本を説明できる。 ⑤障害者歯科における感染予防対策の留意点を列挙することができる。	
8	第7章 地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携 ②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク ④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科 ⑥三次医療機関における障害者歯科	①障害者歯科と関連する職種について理解し、歯科衛生士の対応について説明できる。 ②一次医療機関と高次医療機関の役割を理解し、それぞれにおける歯科衛生士の役割について説明できる。	

【 歯科口腔放射線学 】 令和3年度 授業シラバス 熊本歯科衛生士専門学校

講師名	瀬々良介	実務経験	歯科医師。日本歯科放射線学会放射線認定医。口腔病院画像診断部長。福岡歯科大学臨床准教授。
授業との関連性	日本歯科放射線学会放射線認定医、また口腔病院における画像診断部長の経験を踏まえ、歯科放射線の知識、画像診査法と画像診断について、また歯科衛生士の法的役割について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技
		単位数	1単位(15時間)
		授業回数	8
授業目標	歯科衛生士として必要な歯科放射線の知識を習得する。特に歯科放射線診療における適切な補助、放射線防護を行うための基礎知識および画像診査法と画像診断学の基本を習得し歯科医療に大いに貢献できる歯科衛生士を育成することを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版」飯久保正弘・香川豊宏著他 学建書院		
参考文献	最新「歯科放射線」岡野友宏著 医歯薬出版KK		
履修上の注意	積極的に学び取ろうとする姿勢で臨んでください。また、講義中の私語は厳禁。		
回	授業計画	到達目標	
1	歯科放射線学序論(歯科放射線学の概要、歯科放射線学の役割、エックス線の発見) 目標:歯科放射線学の概要を理解し、本教科を学ぶ意義や必要性を理解する。	歯科放射線学の概要を把握し歯科衛生士として本教科を学ぶ意義や必要性を述べることができる。	
2	放射線物理学(放射線とその性質など)[放射線とは何か。(細項目:電磁波、エックス線)、エックス線の発生(細項目:発生原理、エックス線管の構造)、エックス線と物質の相互作用(細項目:エックス線の減弱)、エックス線画像の形成(細項目:エックス線透過像、エックス線不透過像)] 目標:エックス線の性質やエックス線画像の形成を理解する。	エックス線の性質やエックス線画像の形成について説明できる。	
3	放射線生物学、放射線防護(放射線の人体への影響と防護) [生物へ与える影響(細項目:早期障害、晩期障害、確定的影響、確率的影響)、放射線防護の基本概念(細項目:被爆のカテゴリ、放射線防護の体系)、放射線防護の実際(細項目:医療従事者の被爆軽減、患者の被爆軽減)] 目標:放射線の人体への影響と防護の重要性を理解する。	放射線の人体への影響や放射線防護について説明できる。	
4	エックス線撮影法(1)[口内法撮影(細項目:二等分法、平行法、咬翼法、咬合法、口内法エックス線写真の正常解剖)] 目標:口内法撮影の各撮影法を理解する。	口内法撮影の各撮影法の特徴と手技を説明できる。	
5	エックス線撮影法(2)[パノラマエックス線撮影法(細項目:パノラマエックス線撮影の原理、短所、長所、パノラマエックス線写真の正常解剖)] 目標:パノラマエックス線撮影法を理解する。	パノラマエックス線撮影法の特徴と手技を説明できる。	
6	エックス線撮影法(3)[その他の画像検査法(細項目:頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査)] 目標:その他の画像検査法を理解する。	頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査の特徴を説明できる。	
7	写真処理法[写真機材(細項目:エックス線フィルム、増感紙、カセット)、写真処理(細項目:現像、定着、水洗、乾燥)、デジタル化(細項目:IP方式、CCD方式)] 目標:写真処理法を理解する。	エックス線写真の処理法を説明できる。	
8	エックス線写真の整理、エックス線写真の読影およびまとめ[口内法エックス線写真の正常解剖と病変、パノラマエックス線写真の正常解剖と病変、写真の整理(マウント)] 目標:口内法エックス線写真を見て撮影部位を認識する。基本的な病変のエックス線像を理解する。	エックス線写真の整理(マウント)ができる。基本的な病変のエックス線所見を説明できる。	

【 歯科予防処置法Ⅰ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	4単位(120単位)	授業回数	60
---------	-------	------	----------	-----	------------	------	----

授業目標	(前期)口腔の2大疾患である「う蝕」と「歯周疾患」の予防の重要性を理解し、継続管理を行うために必要な知識、技術、態度を身につける。 (後期)予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために、必要な知識、技術を修得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験
------	-----------------------

教科書名	最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第3版 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(講義)Ⅱ編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造②歯周組織 Ⅲ編 2章 ①口腔の器質的問題の把握 ②口腔の機能的問題の把握 口腔の基礎知識1 口腔の構造・歯周組織	口腔の構造、名称および歯式について理解する。
2	(講義)Ⅱ編 1章 ③歯冠と歯根の形態②口腔の機能 口腔の基礎知識2 歯周組織・口腔の機能・小テスト	口腔の構造を理解したうえで、口腔の機能や摂食嚥下の流れの概要を理解する。
3	(講義)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物	①口腔内の付着物、沈着物の種類と成分が説明できる。 ②プラークの形成過程と成分を説明できる。 ③歯石の形成過程と成分を説明できる。
4	(講義)Ⅱ編 2章 ②う蝕	う蝕がどのように起こるのか、またう蝕の特性について理解する。
5	(講義)Ⅱ編 2章 ③歯周病	歯周組織を理解したうえで、歯周病とはどのような病気か、原因や進行のメカニズムを理解する。
6	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 診査用具の把持法・使用方法(エキスプローラー・プローブ)	歯周診査用器材の使用法、特徴について理解する。
7	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 手用スケーラー・機械的スケーラーの概要	①各種スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
8	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シクルスケーラーの概要・把持法	シクルスケーラーの把持法を修得する。
9	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シクルスケーラー机上操作(前腕回転運動)	シクルスケーラーを用いて、前腕回転運動の操作ができる。
10	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シクルスケーラー机上操作(手根関節運動)	シクルスケーラーを用いて、手根関節運動の操作ができる。
11	(実技・演習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 基本設定 ポジショニングについて 人工歯石の取り扱い	①スケーリング操作時のポジション・姿勢を理解することができる。 ②人工歯石を歯牙に的確に塗布することができる。
12	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シクルスケーラー操作復習(前腕回転・手根関節運動)	①シクルスケーラーを用いて、スムーズに前腕回転運動の操作ができる。 ②シクルスケーラーを用いて、スムーズに手根関節運動の操作ができる。
13	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスプローリング・ミラー操作	口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し、操作できる。
14	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング1	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。
15	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング2	同上
16	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング3	同上

回	授業計画	到達目標
17	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング4	同上
18	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーについて	各種スケーラーの特徴、使用方法、操作方法が説明できる。
19	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーでの偶発事故	安心・安全に院内実習に取り組むことができるように、偶発事故の予防と対策について理解を深め説明できる。
20	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング(復習)	各部位に適したポジションでスケーリングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
21	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて	①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。
22	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスケーリング 204SD取り扱い	シクルスケーラー204SDの特徴を理解し操作できる。
23	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い	超音波・エアスケーラーの基本的な取扱いが行えるように各々の特徴を理解し、セッティングができる。
24	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 1回目	これまでに履修した口腔内洗浄、パキュウム操作、ハンドスケーリングに超音波・エアスケーリングを加え、ファントムにて一連の流れを理解し操作ができる。
25	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 2回目	同上
26	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 3回目	同上
27	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 1回目	同上
28	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 2回目	同上
29	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 3回目	同上
30	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査1	患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。
31	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査2	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。
32	(実技)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査3プロービング操作ファントム実習	患者の口腔内の状況を把握するために、ファントムの口腔内の状態を観察、検査し記録することができる。
33	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 1人目	①患者の口腔内の健康状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察することができる。 ②相互にて実習し実習し、その手技および結果から口腔内状況を
34	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 2人目	同上
35	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 3人目	同上
36	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラーの把持法、使用方法について	スケーリング・ルートプレーニングを確実に実践するためにキュレットスケーラーの特徴や使用目的を理解する。
37	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラー机上操作	①キュレットスケーラーの部位別種類と特徴が判断できる。 ②キュレットスケーラーの挿入角度と操作角度の違いがわかり操作できる。 ③キュレットスケーラーの操作方法を説明し実施できる。
38	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・ポジション・キュレット操作	各部位に応じたポジショニングでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングができる。
39	(実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作1	キュレットスケーラーの特徴を把握し、各部位に合わせたスケーラーを選択し操作することができる。

回	授業計画	到達目標
40	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作2	同上
41	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作3	同上
42	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作4	同上
43	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作5	同上
44	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作6	同上
45	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング1	刃の原形を維持しながら、もとの切れ味に復元することができるよう正しいシャープニング方法を習得できる。
46	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング2	同上
47	(試験)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作実技試験	指示された歯牙を間違えることなく、正確なポジショニング、適切なスケーラーを用い、歯肉溝内の歯石を除去できる。
48	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・シクル・キュレット操作復習	各部位に適したポジションでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
49	(講義)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験とは	う蝕活動性試験の必要な知識について理解する。
50	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験①	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③患者に適した予防プログラムを立てることができる。
51	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験②	同上
52	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生士セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。
53	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 2人目	同上
54	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 3人目	同上
55	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 1人目	同上
56	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 2人目	同上
57	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 3人目	同上
58	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ③フッ化物の応用 フッ化物総論・実験	フッ化物応用を実践するために、フッ化物局所応用の手順について理解する。また、フッ化物の毒性についても理解する。
59	(演習)Ⅲ編 3章 ③フッ化物の応用 フッ化物の基礎知識1	講義・実習前の事前学習として、各文献を参考に、フッ化物によるう蝕予防処置法を理解する。
60	(講義) 歯科予防処置分野 まとめ 模擬試験解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる

【 歯科予防処置法Ⅱ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期 2年前後期 授業方式 講義・演習・実技 単位数 2単位(90時間) 授業回数 45

授業目標	(前期)臨床実習に対応するために、学院内実習を通して技術、及び患者への対応を修得する。 (後期) 現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、実践力を養うために、様々な場面に 対応できる能力を身につける。	
評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験	
教科書名	①最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」 医歯薬出版KK	
参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社	
履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。	
回	授業計画	到達目標
1	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用	①グループ内での役割分担ができる。 ②他者の意見も聞き入れ資料を作成することができる。
2	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 発表①	①積極的に意見を述べ、疑問を解決することができる。 ②他者の意見を聞き、自己の知識を深めることができる。
3	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 発表②	①積極的に意見を述べ、疑問を解決することができる。 ②他者の意見を聞き、自己の知識を深めることができる。
4	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物の基礎知識(まとめ)	①フッ化物の応用法を説明できる。 ②フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。
5	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物について1 溶液測定・中毒量算出	①フッ化物の正しい取扱いと安全な使用量がわかる。 ②フッ化物綿球塗布法の術式を説明することができる。 ③フッ化物塗布後の注意事項を説明することができる。
6	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物について2 中毒量算出・フッ化物洗口液の調整	同上
7	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法の作製・使用法 イオン導入器の取扱い	①イオン導入法の術式を理解し、機器の操作、注意や配慮すべき点を理解する。 ②フッ化物洗口液を正しく作製できる。
8	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物綿球塗布法	①フッ化物の正しい取扱いと安全な使用量がわかる。 ②フッ化物綿球塗布法の術式を説明することができる。 ③フッ化物塗布後の注意事項を説明することができる。
9	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTGについて1	バイオフィルムを物理的に取り除くためにはどのような器材があるか理解し、それぞれの目的、種類を理解する。
10	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTGについて2 エアフロー・超音波ブラシ	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択を理解できる。
11	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)右側	①適切な超音波・エアースケーラーの操作ができる。 ②術式を理解しスムーズに操作ができる。
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)中央	同上
13	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)左側	同上
14	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 PTC	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。
15	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 コードレスハンドピースPTC	正常な歯列の口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。
16	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 PTC	歯列不正な口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。
17	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～超音波ブラシ操作実習 示説・1人目	器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行う操作を習得する。

回	授業計画	到達目標
18	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作実習 2人目・3人目	同上
19	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 示説・1人目	①歯面研磨・歯面清掃の目的と特徴を踏まえ、適切な器材を選択し操作できる。
20	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 2人目・3人目	同上
21	(講義)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 小窩裂溝填塞法総論・フッ化ジアンミン銀総論	①小窩裂溝填塞法の作用機序と適応症を理解し手順を説明できる。 ②フッ化ジアンミン銀溶液の特徴・作用機序・注意事項・取扱い方
22	(演習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝填塞法 小窩裂溝填塞法剖面スケッチ	①小窩裂溝填塞法を術式に沿って行うことができる。 ②酸処理面の状況を観察し説明することができる。 ③填塞状態を確認し評価することができる。
23	(演習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 フッ化ジアンミン銀 指・布への着色	フッ化ジアンミン銀溶液の作用について理解を深めるとともに、患者および術者の皮膚や手指ならびに衣類を汚染した場合の処置
24	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法について術式を理解し、必要な器材の取り扱い及び填塞法を習得する。
25	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝填塞法 示説・1人目	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法について一連の術式を理解し、必要な器材や材料の的確な取り扱い及び操作方法を学ぶ。
26	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝填塞法 2人目・3人目	同上
27	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング キュレットスケーリング 復習	各部位に適したポジションでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
28	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)1・2人目	口腔内の状況に応じた研磨用器具を選択し、対象者に配慮した確実なPTCの一連の操作を実践することができる。
29	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)3人目	同上
30	(相互実習)Ⅲ編 2章②口腔内の情報収集 口腔内観察～口腔内精密検査2 高齢者模擬患者 示説・1人目	日頃は同級生という若い世代で実習しているが、高齢者模擬患者にみためた症例の口腔内を観察、精密検査ができる。
31	(相互実習)Ⅲ編 2章②口腔内の情報収集 口腔内観察～口腔内精密検査2 高齢者模擬患者 2人目・3人目	同上
32	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術により、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法についてイメージトレーニングして臨むことができる。
33	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
34	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
35	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)1人目	同上
36	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
37	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
38	(講義) 歯周疾患とう蝕の指数	口腔内の状態を評価するために、歯周疾患とう蝕の状態を数値化し、その変化を観察できる。
39	(講義)歯周病に関連する検査 う蝕活動性試験③	①う蝕活動性試験の結果から、前回と比較した分析ができる。 ②患者への説明、予防するためのプログラムをたてることができる。
40	(講義・演習) う蝕活動性試験④	同上
41	(講義・演習) ダイアグノデントペン取り扱い	カリエスの進行状態を数値化し、う蝕の状態を患者にわかりやすく説明することができる。
42	(講義) う蝕抑制効果評価とスクリーニング	①う蝕活動性試験の有効性、種類を述べることができる。 ②スクリーニング検査に使用する検査法の信頼性の指標の説明ができる。 ③敏感度および特異度を計算できる。
43	(講義・演習) 予防プログラム①う蝕カリオグラム	う蝕レーダーチャート、歯周病レーダーチャートに結果を入れ口腔内の問題点を読み取ることができる。
44	(講義・演習) 予防プログラム②歯周疾患	同上
45	(講義)歯科予防処置法 模擬試験 解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる

【 歯科予防処置法Ⅲ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	1単位(40時間)	授業回数	20
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士という専門職としての実技能力を高めるために、今まで学んだ知識、技術を踏まえ、歯科衛生士業務についてさらに理解を深め、患者管理、予防業務の知識、技術を修得する。対象者の問題を科学的な思考をもって解決するために歯科衛生過程の基本的な考え方や展開する方法を修得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	①最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。
2	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。
3	(相互実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・PTC 1、2人目	患者の口腔内の状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。
4	(相互実習・演習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・介入計画立案・記録 3人目	患者の口腔内を確実に観察し歯肉の状態や等を把握したうえで、患者と会話をしながら時間内にできる介入計画を立案し実施することができる。
5	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 拡大鏡の取り扱い・拡大鏡使用でのSRP・シャープニング	1. 拡大鏡を使用し、より精度の高いスケーリング・ルートプレーニングを実施できる。 2. 手用スケーラーの操作方法、シャープニングについて復習し自身の履修度を確認できる。
6	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人バキューム ポケット測定～スケーリング～歯面研磨(PMTC)	1. 機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。 2. エバチップの使用目的を再確認し準備から操作法について説明できる。 3. 痛みを与えることなくエバチップを使用することができる。
7	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人バキューム ポケット測定～スケーリング～歯面研磨(PMTC)	同上
8	(実技)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 CPIプローブ操作・ファークーションプローブ実習	①CPIプローブの目的を理解し、操作できる。 ②ファークーションプローブの目的を理解し、操作できる。
9	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物の応用(復習)症例に応じた準備器材	1. 症例に応じてフッ化物応用の器材が準備できる。 2. フッ化物の取り扱いを正確に行うことができる。
10	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎/下顎 PTC	1. コードレスハンドピースをスムーズに操作することができる。 2. 器材の管理ができる。
11	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法(復習)	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法について術式を理解したうえで、必要な器材の取り扱い及び填塞を実施できる。
12	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作1人目	1. エキスプローリング、スケーリング、ルートプレーニングまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 2. 器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 3. インストルメントの管理ができる。
13	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作2人目	同上
14	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作3人目	同上
15	(模擬試験・講義) 歯科予防処置法 模擬試験解説	模擬試験にて、いままで学んだ内容の理解度を知る。

*ファントム実習か相互実習かは、状況により変更することもあります。

【 保健指導法 I 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経歴	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	2単位(60時間)	授業回数	30
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい保健行動へと変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び地域歯科保健活動の中で対象者への適切な支援の実践ができるよう基礎知識、技術や健康に関する行動変容のあり方を学ぶ。また、自身の口腔健康管理も実践できるようになる。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	授業計画に記載されている教本は以下番号の書籍を示す <①>最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK <②>「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院 <③>最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」藤原愛子著 医歯薬出版
------	--

参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション(中村千賀子) 歯プラン辞典 (松田裕子) 歯科保健関係統計資料 その他、授業の中で紹介します。
------	--

履修上の注意	時間に余裕がある時は、確認小テストを実施するので毎回の復習を行うこと。 新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	<①>P2～第1章 歯科保健指導の概要 I 1.歯科保健指導の必要性 2.歯科保健指導の定義 3.歯科衛生士法における位置づけ 4.健康教育、行動科学、行動変容 5.個人を対象とする歯科保健指導 6.集団を対象とする歯科保健指導	1.保健指導の必要性について説明できる。 2.歯科保健指導が名称独占であることを説明できる。 3.生活行動、保健行動、行動変容の言葉の意味を各々説明できる。 4.個人を対象とする歯科保健指導を行うために必要な学びを理解できる。 5.集団を対象とする歯科保健指導にどのような場面があるか説明できる。
2	<①>P8～ 1.健康の概念(歯科衛生学にて履修済み) ①健康の定義 ②プライマリヘルスケア ③ヘルスプロモーション ④健康管理 2.日本の健康推進施策 ①健康日本21 3.予防の概念	1.WHOの健康の定義について説明できる。 2.健康とは何か、自身の考えを述べるができる。 3.プライマリヘルスケアについて説明できる。 4.ヘルスプロモーションの定義、目標実現のための5つの活動を列記できる。 5.健康教育とヘルスプロモーションの違いを説明できる。 6.口腔健康管理の概念を説明できる。 7.口腔ケアと口腔健康管理の違いを説明できる。
3	<①>Ⅱ編 第1章 P16～ <②>P4～ (歯科予防処置にて履修済) 1.口腔の基礎知識 2.口腔の機能 3.摂食・嚥下の仕組み Ⅲ編 2章 口腔内の情報収集 次回の演習の説明	1.口腔内の名称と役割、特徴を理解する。 2.口腔の正常像を理解する。 3.口腔の機能について説明できる。 4.摂食、嚥下のしくみを簡単に説明できる。
4	<①>P131 Ⅲ編第2章 自己の口腔内観察 検査項目 1.口腔周囲 2.歯 3.口腔粘膜の観察 4.舌の観察 5.歯肉の観察	1.自己の口腔内状況を観察し、名称と部位の確認を行う。 2.各々の部位の名称を漢字で正確に書くことができる。 3.正常像と比較した自身の口腔粘膜の状況を把握する。
5	<①>P86 4章 保健行動支援のための基礎知識 <③>P26～ 行動変容に関連する理論 ①健康信念モデル ②学習理論(オペラント条件づけ) ③社会的認知理論(自己効力感) ④変化のステージモデル	1.健康信念モデルを説明できる。 2.学習理論の3つの基本的要素を列記できる。 3.社会的認知理論(自己効力感)とは何か説明できる。 4.行動変容ステージを列記しそれぞれの意味を説明できる。
6	<③> P22～ 1.ICF国際生活機能分類 2.EBM 3.批判的思考2.ヒューマンニーズ理論 ①マズローの欲求階段理論 ②ヒューマンニーズ概念モデル	1.ICFとICIDHの違いを説明できる。 2.EBMとは何か説明できる。 3.批判的思考とは何か説明できる。 4.ヒューマンニーズとは何か説明できる。 5.マズローの欲求階層理論について説明できる。 6.DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念の4項目を列記できる。

回	授業計画	到達目標
7	<p><①>P44～3章 食生活指導の基礎知識 <②>P178～ ※栄養素の役割、働き、消化吸収については栄養指導で履修する</p> <p>1.国民の健康課題 2.エネルギー、栄養素、食品摂取の変遷 3.近年の食生活の特徴 4.食品とう蝕誘発性 5.う蝕予防のための食品の摂取方法</p>	<p>1.食生活・食習慣の背景を知り現代の問題点を説明できる。 2.国民のエネルギー、栄養素の摂取変化について簡単に説明できる。 3.近年の食生活の特徴(問題点)について説明できる。 4.う蝕が生活習慣病である理由を説明できる。 5.しよ糖とう蝕の関係について説明できる。 6.食品のう蝕誘発性を示す指数について説明できる。 7.う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。</p>
8	<p><①>P77～食生活指導の基礎知識 <②>P178～</p> <p>1.歯周病と食生活 2.酸蝕症と食生活 3.咀嚼と食品 4.特別用途食品と保健機能食品</p>	<p>1.歯周病患者へ食事摂取の指導内容を列記できる。 2.酸蝕症患者への食事摂取の指導内容を列記できる。 3.咀嚼の目的、効用について説明できる。 4.「特別用途食品」「保健機能食品」「歯に信頼マーク」とは何か説明できる。</p>
9	<p><①>P138～Ⅲ編 2章 オーラルヘルスケア事典P169～ ブラーク 歯垢染色法</p> <p>1.歯垢染色剤の使用法と特徴 2.歯垢染色剤の所要条件 3.色素の種類</p>	<p>1.歯垢染色剤の使用目的について説明できる。 2.歯垢染色剤の使用法と特徴を列記できる。 3.歯垢染色剤の所要条件を列挙し種類について分類列記できる。 4.染色時の注意事項を説明できる。</p>
10	<p><①>P156～ 分析のためのデータ</p> <p>1.指標 口腔衛生状態の指標 1.(PCR)O'Learyのブラークコントロールレコード (演習) 各自歯垢染色後PCRによる記録</p>	<p>1.(PCR)オレリーのブラークコントロールレコードの特徴を理解する。 2.PCRの判定基準、計算方法を列記することができる。 3.判定時の注意点を述べる事ができる。 (演習時) 1.自身の口腔内染色が正確にできる。 2.PCRの記録及び評価が適切にできる。 3.評価に基づき自身の口腔清掃の反省点を改善することができる。</p>
11	<p><①>P156～ 1.OHI (DI CI)</p>	<p>1.OHIとは何か説明できる。 2.OHI-DIとOHI-CIの違いを説明できる。 3.ブラークと歯石の判定基準をそれぞれ述べる事ができる。 4.OHIの計算方法を修得する。</p>
12	<p><①>P157～ 1.OHI-S (DI-S・CI-S)</p>	<p>1.OHI-Sとは何か説明できる。 2.OHI-SとOHIの違いを説明することができる。 3.OHI-Sの対象歯を列記する事ができる。 4.OHI-Sの計算方法を説明できる。</p>
13	<p><①>P264～4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 <②>P16～</p> <p>1.口腔衛生管理に関わる指導 ブラッシング (1)歯ブラシ ①手用ブラシの構造 ②毛先の形状と適応例 ③歯ブラシの毛の硬さに影響する因子 ④理想的な歯ブラシの具備すべき条件 ⑤歯ブラシの管理と交換時期</p>	<p>1.歯ブラシの各部の名称が言える。 2.歯ブラシの特徴、利点、欠点を知る。 3.刷毛の種類と利点、欠点を説明できる。 5.毛先の硬さに影響する因子を列記できる。 6.理想的な歯ブラシの具備すべき条件を説明できる。 7.歯ブラシ使用後の管理について説明ができる。 8.歯ブラシの交換時期について説明できる。</p>
14	<p><①>P269～ <②>P18～ ブラッシングの方法 1.歯ブラシの把持法 2.各種ブラッシング法 毛先を使う方法と脇腹を使う方法 3.適切な歯磨き圧について説明できる。 4.毛先を使う方法 I ①水平法 ②垂直法 ③スクラッピング法</p>	<p>1.ブラッシングの特徴に応じた歯ブラシの持ち方がわかる。 2.歯ブラシの毛先と脇腹を用いたブラッシング法を列記できる。 3.適切な歯磨き圧について説明できる。 4.毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。</p>
15	<p><①>P269～ <②>P18～ 毛先を使う方法 II ①フォーンズ法 ②1歯ずつの縦磨き法 ③パス法</p>	<p>1.毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。。</p>
16	<p><①>P272～ <②>P19～ 脇腹を使う方法 ①ローリング法 ②パス改良法 ③スティルマン法 ④チャーターズ法 総まとめ</p>	<p>1.脇腹を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。</p>

回	授業計画	到達目標
17	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ・義歯清掃剤 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。</p>
18	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習2回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。</p>
19	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習3回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。</p>
20	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機</p>	<p>課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)</p>
21	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ</p>	<p>課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)</p>
22	<p><①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>1. 課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。(発表10分、質疑5分) 2. 質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3. 教員による質疑、補足説明、復習を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。</p>
23	<p><①>P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス <②>P178～ デンタルフロスの使用方法 フロッシング相互実習(上顎)</p>	<p>上顎におけるフロッシング操作 1. フロスの把持法を修得する。 2. フロスの挿入と操作方法を修得する。 3. 歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4. 患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>
24	<p><①>P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス <②>P178～ フロッシング相互実習(下顎)</p>	<p>下顎におけるフロッシング操作 1. フロスの把持法を修得する。 2. フロスの挿入と操作方法を修得する。 3. 歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4. 患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>
25	<p><①>P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス <②>P178～ フロッシング相互実習(上下顎)</p>	<p>全顎におけるフロッシング操作(復習) 1. フロスの把持法を修得する。 2. フロスの挿入と操作方法を修得する。 3. 歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4. 患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>

回	授業計画	到達目標
26	<①>P303～IV編 1章 <②>P100～ P70～ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 1.生涯を通じた歯科保健対策の概要 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴	1.生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科的特徴、歯科的問題を列記できる。 2.生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。 3.妊産婦期における一般的特徴を列記できる。 4.妊産婦期における口腔の特徴を説明できる。
27	<①>P303～IV編 1章 <②>P100～、P70～ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ③歯科衛生介入 ④栄養指導	1.妊産婦期におけるプロフェッショナルの目標を学び実践に生かすことができる。 2.妊娠初期、中期、後期の母体の変化や目標、対策について知る。 3.つわりの症状がある時の口腔清掃のポイントを学び説明できる。 4.妊産婦期の栄養管理について学ぶ。
28	<①>P314～ <②>P70～ 乳児期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 ④栄養指導	1.乳児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.乳児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.乳児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.離乳食の進め方を説明することができる。 5.食行動と食機能の発達について説明できる。
29	P324 IV編 1章 幼児期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 1歳6か月健康診査における保健指導 3歳児健康診査における保健指導	1.幼児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.幼児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.幼児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.1歳6か月歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 5.3歳児歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。
30	P330～ IV編 1章 幼児期における歯科衛生介入 ④食生活の特徴と栄養、間食 (小テスト) ライフステージに対応した歯科衛生介入	1.幼児期の前期並びに後期の口腔内の状況と食生活指導のポイントを述べることができる。 2.これまでに履修したライフステージの歯科衛生介入の学びについて小テストを通して復習し理解を深めることができる。

【保健指導法Ⅱ】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(60時間)	授業回数	30
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動の中で対象者に寄り添った適切な支援等ができるよう基礎知識、技術を学ぶ。また、2年次は特に超高齢社会における歯科医療の重要性や多様な全身疾患を持った高齢者、介護を要する対象者への係わり方や健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔管理ができるようになる。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院		
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション 中村千賀子 著 歯科保健関係統計資料		
履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	シラバスの説明 対象別保健指導 学童期の歯科保健指導①	1. 学童期の身体の発達を説明できる。 2. 学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3. 学童期における口腔内の状況を説明できる。 4. 学童期の歯科保健指導のポイントを説明できる。	
2	対象別保健指導 学童期の歯科保健指導②	1. 学童期(小学生)の歯科保健指導のポイントを説明できる。 2. 学童期(中・高校生)の歯科保健指導のポイントを説明できる。	
3	対象別保健指導 青年期の歯科保健指導	1. 青年期の一般的特徴を説明できる。 2. 青年期の口腔の特徴を説明できる。 3. 青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。	
4	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導① 歯科的な問題 歯周疾患のある患者への歯科保健指導	1. 成人期の生活の背景を理解する。 2. 口腔内の特徴を述べることができる。	
5	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導①	1. 各種補綴物にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。	
6	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導① 高齢期の身体的特徴 歯科的な問題 口腔内の特徴	1. 清潔な口腔が何故QOLに繋がるのか説明できる。 2. 高齢者の身体的特徴や口腔の特徴について説明できる。	
7	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導② 基本的な口腔清掃	1. 義歯の取扱いについて説明できる。 2. 義歯安定剤、義歯洗浄剤の特徴や取扱いについて説明できる。 3. 高齢者の口腔清掃時のポイントについて説明できる。	
8	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導③ 口腔乾燥症とその対応 まとめ	1. 口腔乾燥症の定義と原因を説明できる。 2. 口腔乾燥症の対処法を説明できる。 3. 口腔乾燥症の対処としての唾液腺マッサージについて説明、指導ができる。	
9	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導② 禁煙指導	1. 禁煙指導の必要性について説明できる。 2. 喫煙者の口腔に現れる状態を説明できる。 3. 禁煙指導の進め方について知る。	
10	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導① 要介護高齢者の一般的特徴 日常生活自立度(寝たきり度)判定基準 口腔内の特徴	1. 要介護高齢者の特徴について簡単に説明ができる。 2. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準(寝たきり度)を説明できる。 3. 認知症高齢者の日常生活自立判定基準を説明できる。	
11	対象別保健指導 全身疾患別グループ学習① ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	
12	対象別保健指導 全身疾患グループ学習② ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	

回	授業計画	到達目標
13	対象別保健指導 全身疾患グループ学習③ ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(GKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾病の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。
14	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答①	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
15	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答②	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
16	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答③	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
17	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答④	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
18	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答 予備	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
19	対象別保健指導 全身疾患についてのまとめ	これまで発表された全身疾患について確認復習を行い理解を深める。
20	症例別口腔衛生指導 グループ学習① ①片麻痺などで上手に磨くことができない方 ②認知症患者 ③がん患者 ④口腔機能の低下している方 ⑤出血傾向のある方 ⑥口腔カンジダ症患者 ⑦矯正治療中の方 ⑧インプラント装着の方 ⑨口腔乾燥症患者	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
21	症例別口腔衛生指導 グループ学習② 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
22	症例別口腔衛生指導 グループ学習③ 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。

回	授業計画	到達目標
23	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答①	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
24	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答②	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
25	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答③	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
26	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答④	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
27	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答⑤	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
28	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導② ①自力で口腔清掃が可能な方 ②介助の必要な方 体位の設定 介護予防(口腔機能の維持・向上)、まとめ	1. 要介護高齢者の口腔清掃時の体位やケアの方法、注意等について説明できる。 2. 介護予防における歯科衛生士の役割について説明できる。 3. 介護を要する人への歯科保健指導に係る重要な項目の復習をし理解の再確認をすることができる。
29	特別な介護を要する方への口腔保健管理 がん患者への口腔健康管理①	1. がんの基本的な知識を理解する。 2. がんの治療法について簡単に説明することができる。 3. がん治療患者の口腔内に現れる症状について説明できる。 4. 口腔清掃方法を説明できる。
30	特別な介護を要する方への口腔保健管理 がん患者への口腔健康管理② これまでのまとめ	1. 症状に応じた口腔清掃方法を説明できる。

【 保健指導法Ⅲ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士・栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、人の口腔健康管理実践のための科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動において対象者への適切な支援や介入ができるよう基礎知識、技術を学び、健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また歯科衛生過程の学習においては、口腔保健の視点から、予防歯科や健康増進を図るため、科学的根拠に基づいた知識や技術を応用し、情報の収集から解釈分析を行い、それを基に歯科衛生介入計画を立案でき実践することができるようになる。また実践したことの最終的評価を行うことを学ぶ。						
評価方法	定期試験(100点満点 岩切70点 野中30点)・提出物(記録方法)						
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 「よくわかる歯科衛生過程」全国歯科衛生教育協議会編 医歯薬出版KK オーラルヘルスクエア事典 麻賀多美代著 学建書院 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」可児徳子著 他 医歯薬出版KK						
参考文献	口腔保健管理 可児徳子著 医歯薬出版KK 歯科衛生ケアプロセス 佐藤陽子著 医歯薬出版KK 事例でわかる歯科衛生過程 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版KK						
履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 歯科衛生過程演習の前は、科学的根拠に基づいた必要な知識を必ず各自で調べ参加すること。						
回	授業計画			到達目標			
1	(岩切恵子) 個人保健指導 1年生への口腔衛生指導の概要説明 問診とは何か。			1. 対象者への口腔衛生指導の概要を知る。 2. 自身の役割分担を確認する。 3. 患者情報を得るための効果的な手法を説明できる。			
2	(岩切恵子) 対象者把握 I 患者の行動観察と記録方法			1. 患者各々の事例に対して、患者の行動観察の推測ができる。 2. 事例に対して患者への理想的なアプローチ方法を推測し、適切に声をかけることができる。			
3	(岩切恵子) 個人保健指導 指導原稿案作成			1. 効果的な指導原稿案を概要に沿って作成できる。			
4	(岩切恵子) 医療面接 I 問診と医療面接についての概要			1. 問診と医療面接の違い、目的について説明できる。 2. 医療面接の流れについて説明できる。 3. 開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問について説明できる。 4. 医療面接時の注意点について説明できる。			
5	(岩切恵子) 医療面接 II 模擬患者による医療面接			1. 患者が話しやすい雰囲気をつくることができる。 2. 医療面接の流れを実践することができる。 3. 適切な誘導、座位の指示ができる。 4. インタビューの際、開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問を適宜活用することができる。 5. 患者の主訴や伝えたいことを正確に把握、記録することができる。			

回	授業計画	到達目標
6	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習1	1. 保護者対面実習での自身の説明内容と手技を振り返ることができる。 2. 他班の説明と反省点を情報共有し振り返ることができる。 3. 歯科衛生アセスメントの立案ができる。 4. 収集したSOデータをヒューマンニーズ理論に分類することができる。
7	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習2	1. 歯科衛生アセスメントの立案ができる。 2. 収集したSOデータをヒューマンニーズ理論に分類することができる。 3. ニーズ分類した際の解釈、分析内容を説明することができる。 4. 歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。
8	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習3	1. 問題点とその原因を抽出することができる。 2. 対象者の情報となる資料を準備することができる。 3. 全てのニーズの関連を考え歯科衛生診断文を作成することができる。 4. 歯科衛生診断文までを書面化することができる。
9	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習4	1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. 歯科衛生介入の優先順位付けができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 6. 見直した内容を書面化することができる。
10	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習5	1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. 歯科衛生介入の優先順位付けができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 6. 見直した内容を書面化することができる。
11	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習6	1. 歯科衛生アセスメント内容を見直すことができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. 歯科衛生介入の優先順位付けができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。
12	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習7	1. 自身の考えを積極的に発言することができる。 2. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 3. 自己評価チェックシートの評価ができる。 4. 専任へ対象者情報と合わせアセスメント表を提出することができる。
13	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習8	1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を完成することができる。 3. 問題解決のための長期目標を立案することができる。 4. 長期目標達成の期間を立案することができる。
14	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習9	1. 歯科衛生介入の必要性を説明することができる。 2. 専任へ歯科衛生介入計画内容を説明することができる。 3. 専任の助言をもとに歯科衛生介入計画内容を見直すことができる。
15	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習10	1. 専任へ歯科衛生介入計画内容を説明することができる。 2. 全てのニーズの関係性を考慮し歯科衛生介入計画の立案ができる。 3. 自己評価チェックシートの評価ができる。

【 栄養指導Ⅰ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松下美由紀 実務経験 管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士		
授業との関連性	地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。		
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	①健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を考える。 ②栄養素の消化・吸収、体内代謝、エネルギー代謝等の基本の知識を習得する。		
評価方法	定期試験(80点), 提出物(20点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行		
参考文献	NutritionCare「消化・吸収・代謝のしくみと栄養素のはたらき」山中英治編 メディカ出版 2016年 秋季増刊 自分で作る「生化学ワークノート」医学博士 中元伊知郎 メディカ出版		
履修上の注意	授業中に小テストの実施または、終了後にレポート提出あり。提出物は評価に反映する。		
回	授業計画	到達目標	
1	栄養の基礎知識 食生活と栄養	1. 栄養の知識を学ぶ理由を理解する。 2. 日本人の栄養摂取状況を知る。	
2	栄養素の消化・吸収	1. 栄養素の消化・吸収の基本を知り、理解する。	
3	栄養素の役割	1. 栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関係を知る。	
4	食事摂取基準 基礎代謝 エネルギー必要量	1. 食事摂取基準とは何かを知る。 2. 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価法を知る。	
5	日本人の食事摂取基準	1. 「日本人の食事摂取基準」を知り、理解する。	
6	栄養素の働き 糖質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
7	栄養素の働き 糖質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
8	栄養素の働き タンパク質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
9	栄養素の働き タンパク質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
10	栄養素の働き 脂質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
11	栄養素の働き ビタミンの種類 水溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
12	栄養素の働き 脂溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
13	栄養素の働き ミネラルの種類 ミネラルの作用と欠乏・過剰症	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
14	栄養素の働き 個々のミネラルの作用と欠乏・過剰	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
15	栄養素の働き 水と食物繊維 1年のまとめ	1. 種類と働き、代謝について理解する。	

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・実技	単位数	3単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK		
参考文献			

履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。		
--------	--	--	--

回	授業計画	到達目標
1	ユニットの構造について1(取り扱い実習) *2階で演習がない日は教室にて課題学習	①歯科診療室にある歯科用ユニットの構造を理解し、歯科診療室にある歯科用ユニットを、患者を不安にさせずに操作できる
2	ユニットの構造について2 総論	①診療設備について説明ができる。 ②診療室の環境、整備について説明ができる。 ③共同動作のポジショニングについて説明ができる。
3	感染予防の概念	①医療人として感染予防について正しい知識を理解し説明ができる。
4	手指消毒の一般的な手技	①医療人として手指を介しての微生物の伝播があることを理解し、手指消毒の目的を説明できる
5	カット綿・綿球・防湿ロール・綿栓作製	①臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。
6	綿球・綿栓作製試験(グローブ装着なし)	①各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。(グローブ装着なし)
7	感染防止対策と消毒、滅菌①	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。
8	感染防止対策と消毒、滅菌②	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。
9	薬品・材料の管理、医療廃棄物の取り扱い	①薬品の取扱いについて理解し説明できる。 ②診療室から排出される廃棄物の分別、処理について理解し説明できる。
10	共同動作について1 総論①	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。
11	共同動作について1 総論②	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。
12	共同動作について2 患者誘導・ポジション・ライティング実習	①必要な知識を身に付け患者を安全にチェアまで誘導できる。 ②患者・術者・補助者の役割を疑似体験し役割と責任を理解し説明できる。 ③術者を側面的に助ける技術を修得できる。
13	共同動作について3 フォーハンドテクニック・バキューム操作	①診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むように口腔内洗浄とフォーハンテッドデンティストリーを実施できる。
14	ミラー操作1	①ヒト口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し操作できる。
15	印象材取扱いについて	①各種印象材について、その特徴と用途、取扱い法を理解し説明できる。
16	印象材練和	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、ひとまとめにできる。
17	印象材練和～盛り付け	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、トレーへ盛り付けができる。

回	授業計画	到達目標
18	模型材料取扱いについて・石膏注入(上顎・下顎)	①印象への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
19	印象採得1 片顎	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
20	印象採得2 下顎	①口腔内を観察し、下顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
21	印象採得3 上顎	①口腔内を観察し、上顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
22	印象採得～模型作製①	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
23	印象採得～模型作製②	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
24	印象採得～模型作製③最終仕上げ	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
25	スタディモデル作製概要説明(トリミング・模型調整)	①印象採得後、気泡混入のない模型を作製し、平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する
26	スタディモデル作製(台つけ)	①スタディモデルの作製方法を理解し、管理・保管までができる
27	印象採得(片顎)復習	①これまでの反省を踏まえ、口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
28	口腔内洗浄、バキューム操作(相互)1	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。
29	口腔内洗浄、バキューム操作(相互)2	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。
30	口腔内洗浄、バキューム操作(相互)3復習	①基礎実技試験の評価項目に沿って実習し振り返り後、未達成部分について各自が確認し操作できる
31	合着材取扱いについて	①合着材と接着材の性質、練和方法を理解し、説明できる。
32	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和	①合着材の性質を理解し、各種セメントの練和ができる。
33	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和復習	①リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント・ガラスアイオノマーセメントの取り扱い、特徴、用途を理解し練和操作ができる。
34	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和試験	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。
35	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和再試験/綿球・綿栓作製試験(グローブ装着)/合格者は自主計画立案～自主練習	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。 ②各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。(グローブ装着)
36	仮封について	①仮封の意義を理解し、各種仮封材の性質、特徴、用途を理解し説明できる。
37	仮封材取り扱い①テンポラリーストップング・水硬性仮封材・酸化亜鉛ユージノールセメント・軟質レジン(机上)	①診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材の机上での取扱いを習得する。
38	仮封材取り扱い②テンポラリーストップング・水硬性仮封材(ファントム)	②診療室における仮封の意義を理解し、水硬性仮封材・テンポラリーストップングのファントム上で取扱いを習得する。
39	仮封材取り扱い③酸化亜鉛ユージノールセメント・軟質レジン(ファントム)	②診療室における仮封の意義を理解し、酸化亜鉛ユージノールセメント・常温重合型軟質レジンのファントム上で取扱いを習得する。
40	寒天印象1(1級窩洞)	①寒天印象材とアルジネート印象材との適合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い法を習得する。
41	寒天印象2(2級窩洞)	①寒天印象材とアルジネート印象材との適合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い法を習得する。
42	ゴム質印象	①ゴム質印象材について特徴および手順を理解し、取扱い法を習得する。
43	ラバーダム防湿について・ラバーダム防湿操作1 ファントム1歯有翼	①ラバーダム防湿法の意義を理解し説明できる。 ②ラバーダム防湿の意義を理解し、迅速、確実に操作できるように習得できる。
44	ラバーダム防湿操作2 ファントム1歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、有翼法との操作法の違いを理解し説明できる。
45	ラバーダム防湿操作3 ファントム数歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、操作法の違いを理解し説明できる。 ②操作法の違いを理解し、数歯露出の技術を習得できる。

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・実技	単位数	3単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。	
評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時	
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。	
回	授業計画	到達目標
1	成形修復材について	①修復材の種類と特徴について述べるができる。
2	修復物の研磨について	①研磨用具の種類、研磨の目的を理解し術式を述べるができる。 ②ハンドピースへ研磨用具を取り付けることができる。
3	器具の受け渡し1	それぞれの目的に応じた準備や手渡しを、留意点を考えて行うことができる。
4	グラスアイオノマーセメント修復～修復物研磨	①グラスアイオノマーセメント修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
5	コンポジットレジン修復①(光重合レジン・ペースト)～修復物研磨	①コンポジットレジン修復の術式を理解し、酸処理材の取り扱いができる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
6	コンポジットレジン修復②(光重合レジン・フロー)～修復物研磨	①光重合型レジン修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②可視光線ライトの取り扱い方を修得できる。 ③研磨の意義を理解し、修復物の研磨ができる。
7	保存修復における歯科診療補助①成形修復	①各種修復法の流れに応じて準備ができる。
8	歯肉圧排、歯間分離、隔壁について	①歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の目的を理解し、種類を述べるができる。
9	歯肉圧排、歯間分離、隔壁操作について	歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
10	歯肉圧排(相互)	歯肉排除法の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
11	口腔外科における歯科診療補助1 器具の種類と用途①	口腔外科における歯科衛生士の役割について述べるができる。
12	口腔外科における歯科診療補助2 器具の種類と用途②	カートリッジ式注射器、替刃メス、縫合用器材の種類と用途を理解し、取扱い方を修得できる。
13	歯科補綴における歯科診療補助① 個人トレー作製	個人トレーの作製を学び、個人トレーを使用した印象採得ができる。
14	歯科補綴における歯科診療補助② 義歯	有床義歯の着脱の指導法と衛生管理を理解し、患者指導ができる。
15	歯科補綴における歯科診療補助③ 咬合採得	クラウン、ブリッジ治療における流れを理解し、治療前、治療中、治療後の患者指導ができる。
16	小児歯科における歯科診療補助(乳歯冠作製)	乳歯の歯冠修復の目的を理解し、乳歯用既製冠の手順に沿って作製できる。
17	歯周治療における歯科診療補助①	歯周基本治療と歯周外科治療における歯科診療補助の役割について述べるができる。
18	歯周治療における歯科診療補助② 歯肉包帯	①歯肉包帯(歯周バック)の目的を理解し、準備と取扱い方を修得できる。
19	歯周治療における歯科診療補助③ GTR法・エムドゲイン	①組織再生誘導法、エムドゲインの目的・術式を理解し説明できる。
20	歯内療法における歯科診療補助①	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明ができる。

回	授業計画	到達目標
21	歯内療法における歯科診療補助②	同上
22	口内法・口外法撮影の補助	①上下顎臼歯部における正確なX撮影ができるように撮影装置の位置づけができる。 ②適切な自動現像法を修得する。 ③パノラマ撮影の手順を理解できる。 ④撮影したフィルムをマウント整理し解剖学的指標で観察できる。
23	口内法・口外法撮影の補助	同上
24	口内法・口外法撮影の補助	同上
25	口内法・口外法撮影の補助	同上
26	口内法・口外法撮影の補助	同上
27	臨床実習(歯科矯正学分野)の事前学習課題説明・各自まとめ	矯正歯科医院の臨床実習を円滑に進めるために、必要な基礎的知識を各自調べ、理解できるようにする。
28	口腔内写真撮影1(1人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	①口腔内写真の意義を考え、各部位の撮影ができる。 ②アシスタントの役割を考え、口角鉤の把持、口腔内の乾燥ができる。
29	口腔内写真撮影1(2人目、3人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	同上
30	口腔内写真撮影(復習)	口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。
31	暫間被覆冠について(講義)	暫間被覆冠・仮着材を理解し、取り扱いの方法を理解する
32	暫間被覆冠作製①(1歯既製冠・机上)	①暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について理解する。 ②既製冠を用い暫間被覆冠を作製できる。
33	暫間被覆冠作製②(筆積み法・机上)	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を作製できる。
34	暫間被覆冠③(直接法・ファントム)	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を作製できる。
35	暫間被覆冠作製④(Xブリッジ)印象法・ファントム)	印象材を用いた方法でブリッジの暫間被覆冠を作製できる。
36	口腔咽頭吸引(相互)/静脈内採血	①吸引の手順を理解し、安全かつ適切に吸引することができる。 ②採血法の準備、手順を理解しトレーニングモデルを使用し採血できる。
37	その他の歯科材料について	リベース材、ティッシュコンディショナー、適合検査材の役割について理解し取り扱い方法を習得する。
38	症例に応じた歯科診療補助 (主に器材準備の確認)	各種治療の手順に沿った器材を準備することができる ①直接法修復(光重合型コンポジットレジン修復)②間接法修復(メタルインレー)③麻酔抜髄法④根管充填(側方加圧充填法)⑤部分床義歯治療⑥前歯部前装製造冠(既製冠を用いたテンポラリークラウン製作含む)⑦難抜歯
39	寒天印象採得復習(相互)	顎模型上で実習した寒天印象採得が口腔内でスムーズに操作できる
40	バキューム操作復習1(相互)	口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減する。
41	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助1	全身疾患をもつ患者に対し、安全かつ確実に歯科診療補助を行うために、疾患の概要や口腔所見を理解し、診療での注意点を説明することができる。
42	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助2	同上
43	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助3	同上
44	保護者対面実習ロールプレイ①A 保護者対面実習説明資料媒体の作成	①保護者対面実習のアセスメント場面を想定し、習得した知識や技術の確認ができる。 ②患者役からの意見を聞き、問題点や課題を探ることができる。
45	保護者対面実習ロールプレイ①B 保護者対面実習説明資料媒体の作成	対面実習に必要な器材と資料の準備ができる。

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。						
------	--	--	--	--	--	--	--

評価方法	定期試験(100点満点)※暫間被覆冠作製試験は、定期試験実施後に実施予定、提出物随時						
------	--	--	--	--	--	--	--

教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK						
------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

参考文献							
------	--	--	--	--	--	--	--

履修上の注意	予習を必ず行い講義・実習に臨む。 授業の復習は必ず行うこと。 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 到達目標は履修状況において変更することがあります。						
--------	---	--	--	--	--	--	--

回	授業計画	到達目標
1	暫間被覆冠作製1(直接法)前歯～左上1～3ブリッジ	暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について復習し作製できる。
2	印象採得1 水平位操作(全顎)	口腔内観察後、的確にトレーを選択し練和から水平位での印象採得までの操作を対象者に不快感を与えないよう配慮しながら行うことができる。
3	酸化亜鉛ユージノールセメント練和(用途別①仮封用、②覆髄用)～受渡し(2人1組)	酸化亜鉛ユージノールセメントの用途別における取り扱い法を修得し指導ができる。
4	ゴム質印象(相互)	顎模型上で実習したゴム質印象採得が口腔内でスムーズに操作できる。
5	セメント取り扱い(接着性レジンセメント)	接着性レジンセメントの性質を理解し、臨床での取扱い方法を修得する。
6	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。
7	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。
8	周術期における歯科診療の補助	周術期において、安全かつ確実に歯科診療補助を行うために、口腔機能管理の概要や各期の病態および治療法を理解し、診療での注意点を説明することができる。
9	嚥下機能評価/車椅子移乗・義歯着脱(マナポット)	①嚥下機能評価について理解し実践できる。 ②安全・安楽に配慮しながら、車椅子に移乗し、目的の場所に移送できる。 ③安全・安楽に配慮しながら、口腔内状況の確認、義歯の着脱ができる。
10	印象採得2(寒天印象採得 コア)	①寒天印象材とアルジネート印象材を用いたコアの連合印象の手順と材料の取扱いができる。 ②印象採得後、気泡混入のない模型を作製できる。
11	(自主練習)口腔内写真撮影	保護者対面実習にあたり、口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。
12	保護者実習オリエンテーション	①1回目の問題点を2回目の患者対面実習に向けて課題を踏まえ、介入実施記録(SOAP形式)の記載方法の確認ができる。介入計画の立案ができる。
13	保護者対面実習オリエンテーション	介入計画の確認ができる。
14	保護者対面実習ロールプレイ②A	①保護者対面実習の介入場面を想定し、習得した知識や技術の確認ができる。 ②患者役からの意見を聞き、問題点や課題を探ることができる。
15	保護者対面実習ロールプレイ②B	対面実習に必要な器材と資料の準備ができる。

【 歯科材料学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	清村龍朗	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科診療に用いる歯科材料の基礎知識と取り扱いについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科医療従事者として知っておくべき材料の知識や歯科衛生士としての作業並びにその結果に関わることについての知識と取扱いを学ぶ。
------	--

評価方法	定期試験(92点)・出席点8点(1回欠課1点減点) *授業の1/3以上の欠席は試験の受験資格なし
------	--

教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK
------	---------------------------------

参考文献	
------	--

履修上の注意	私語禁止
--------	------

回	授業計画	到達目標
1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	①歯科医療と歯科材料の進歩を概説できる。 ②歯科材料の特性を添付文書から読み取ることが出来る。 ③歯科処置の中で使用される材料の特性を理解した上で取り扱うことが出来る。 ④歯科材料の素材を説明できる。 ⑤歯科材料・無機材料・有機材料の一般の特徴を説明できる。 ⑥口腔内外で使用する歯科材料の性質を説明できる。 ⑦歯科材料の所要性質・評価について説明できる
2	DHに関わる材料 印象材	①小窩裂溝充填塞材の種類をあげ、使用上の注意点を説明できる。 ②歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。 ③印象材の種類と適応例を説明できる。 ④弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズムを説明できる。 ⑤印象採得時の印象材の変形の重要性を説明できる。
3	模型材料	①模型用材料として使用されるものを説明できる。 ②石膏の種類と用途を説明できる。 ③石膏の取扱い・一般的性質を説明できる。 ④石膏の硬化反応・混水比を説明できる。 ⑤石膏の硬化時間に与える事象を説明できる。 ⑥石膏の硬化膨張と吸水膨張に与える事象を説明できる。
4	合着材・接着材	①合着材・接着材の種類と成分及び特性を説明できる。 ②合着材・接着材の所要性質を説明できる。 ③合着材の組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 ④接着性レジンセメントの組成と硬化反応及び特徴を説明できる。
5	成形修復材	①成形修復材の種類と用途を説明できる。 ②成形修復材の取扱いを説明できる。 ③成形修復材の成分・組成と硬化機構を説明できる。 ④成形修復材の歯質との接着機構を説明できる。
6	仮封材・暫間修復材・仮着セメント	①仮封材の種類と用途を説明できる。 ②仮封材の取扱いを説明できる。 ③仮封材の組成と特徴を説明できる。 ④暫間修復について説明できる。 ⑤暫間修復に使用される種類・材料を説明できる。 ⑥仮着用セメントの目的を説明できる。 ⑦仮着用セメントの種類を説明できる。
7	WAX・金属・セラミックス	①ワックスの種類と用途を説明できる。 ②ワックスの性質を説明できる。 ③歯科で使用する金属の安全性について説明できる。 ④歯科で使用する金属の性質を説明できる。 ⑤歯科で使用する合金の種類と用途を説明できる。 ⑥セラミックスについて概説、用途・性質を説明できる。 ⑦セラミックスの用途・性質を説明できる。 ⑧乳歯の被覆冠を列挙できる。 ⑨乳歯用既製金属被覆冠の目的を説明できる。 ⑩歯周パックの目的と性質を説明できる。
8	保存材料・矯正	①ホワイトニングに使用される材料を説明できる。 ②人工歯の種類を説明できる。 ③義歯床の種類を説明できる。 ④ブリッジ・インプラントに使用される材料を説明できる。 ⑤義歯用裏装材を説明できる。 ⑥CAD/CAMIに使用される材料を説明できる。

【 感染予防学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	田尻瑠衣	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	病院勤務の歯科口腔外科医の経験を踏まえ、感染経路や対策について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	感染症および感染予防に関して正しい知識を修得し、自身にとって安全な医療行為ができるようにする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	講師資料 「感染対策マニュアル」 熊本歯科衛生士専門学校作成		
参考文献	歯科医療における院内感染予防対策マニュアル		
履修上の注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。		
回	授業予定	到達目標	
1	感染予防学総論	感染予防学を学ぶ意義を理解する。	
2	感染経路・院内感染症	①感染経路について説明できる。 ②院内感染症について理解する。	
3	滅菌・消毒	①消毒・滅菌について説明できる。 ②消毒・滅菌法の種類および適応を理解する。	
4	日和見感染・予防接種	①日和見感染症について理解する。 ②ワクチンの種類について理解する。	
5	針刺し事故及び対策	針刺し事故の予防法および事故後の対応について理解する。	
6	災害医療	①トリアージについて理解する。 ②災害時に歯科医療従事者ができる事について自分なりに考える事ができる。	
7	口腔内の感染症	口腔内における感染症の特徴および原因菌について理解する。	
8	まとめ	これまでに学習した内容について、大切なポイントを再認識する。	

講師名	松岡拓治	実務経験	歯科医師。東京医科歯科大学歯学部冠矯正歯学講座入局。熊本県歯科医師会前理事。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医、熊本県歯科医師会前理事としての知識、経験を踏まえ、介護保険制度の概要、居宅や施設への訪問診療・口腔健康管理と介護保険の関わりについて講義する。		
講師名	中川真樹	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医としての経験を踏まえ、日常診療に係る医療保険制度の概要やコンピューターを活用した歯科診療について講義する。		
講師名	一瀬智美	実務経験	株式会社医療事務部勤務。
授業との関連性	医療事務としての長年の実績をもとに医療保険制度概要や診療報酬制度の基本的な知識について講義する。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	<p><松岡拓治></p> <ol style="list-style-type: none"> 介護保険の内容を理解する。 介護保険報酬請求の実務を行える。 居宅や施設での口腔ケアの実施にあたり、他職種との連携を図るための知識を獲得する。 <p><一瀬智美></p> <ol style="list-style-type: none"> 医療保険制度の概要から診療報酬制度の基本的なしくみ、諸業務のよりどころとなっている法令との結びつき、請求・支払いの流れに至るまでの必要な知識を理解する。 <p><中川真樹></p> <ol style="list-style-type: none"> 医療保険を理解する。 保険医療の実務を理解し、レセコンを使ってレセプトが発行できるようになる。 居宅や施設での口腔ケア等の実施にあたり、他職種との連携を踏るために必要な介護保険の知識を獲得する。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第9版」末高武彦著 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	厚労省のホームページ 介護支援専門員基本テキスト 新訂 医療事務の手引き 令和2年度版 社会保険研究所 保険診療ハンドブック 熊本県歯科医師会
------	--

履修上の注意	
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	(松岡拓治) 社会保険 P91～93 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 高齢者の医療福祉の流れと介護保険を理解する。
2	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 居宅や施設への訪問診療と介護保険の関わりを理解する。
3	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 請求の実務を理解する。
4	(松岡拓治) 居宅、施設での口腔ケアと介護保険	居宅、施設での口腔ケアの流れと介護保険との関わりを理解する。
5	(松岡拓治) 介護保険の復習	ケアマネージャー資格試験を使用しての演習
6	<中川真樹> 社会保険制度 医療保険制度	国家試験の内容を理解する。 医療保険の給付について理解する。
7	<中川真樹> 保険医療の実務 保険証の種類と記載内容の理解 手書きレセプト用紙の項目説明	国家試験問題の内容を理解する。 社会保険行政の組織と法規を理解する。
8	(一瀬智美) 保険医療制度と法規	国家試験の内容を理解する。 医療保険制度について理解する。
9	(一瀬智美) 診療報酬制度の基本的な仕組み 請求・支払いについて	国家試験の内容を理解する。 診療報酬制度の仕組みについて理解する。
10	<中川真樹> 保険診療のハンドブックを用いての説明	指導管理を理解する。
11	<中川真樹> 保険診療のハンドブックを用いての説明	各種交付文書等を理解する。 歯周治療の算定要件を熟知する。 ～SPTによるメンテナンスまで
12	<中川真樹> 保険診療のハンドブックを活用しての説明 レセプトの総括表の作成	レセプト請求の総括表を理解する。 医療事務の概略 各項目の説明と再確認
13	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習①	レセコン操作について学ぶ①
14	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習②	レセコン操作について学ぶ②
15	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習③	レセコン操作について学ぶ③

【 介護技術法 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	吉田 司	実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。高齢者総合福祉センターに勤務。
授業との関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助において、高齢者の心身の状態を理解し、身体的ハンディを抱えた要介護者等へ対応できる基本的な介護技術、知識および態度を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著他 医歯薬出版KK		
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。		
履修上の注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習(実技)も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。		
回	授業予定	到達目標	
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて	①社会福祉法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における各サービス内容を理解できる。	
2	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて	①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。	
3	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について	①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる。 ③訪問介護に必要な資格とは何か説明できる。	
4	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解	①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応を覚える。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	
5	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について	①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	
6	介護に関する知識と方法(衣生活) 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助	①衣類のいろいろな役割を理解する。 ②身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ③高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
7	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法	①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗。	
8	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助	①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	
9	介護に関する知識と方法(食事) 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法	①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	
10	介護に関する知識と方法(排泄・身体保清) 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法	①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	
11	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助	①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	
12	要介護者の介護技術(演習) 1. 食事介助 2. 衣類介助	①演習を通じ食事介助の方法を習得する。 ②麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
13	要介護者の介護技術(演習) 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助	①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	
14	視覚障がい者の介護技術(演習) 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助	①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	
15	要介護者の介護技術(演習まとめ) 1. 実践的な演習 2. 確認テスト(予定)	①車椅子での移動介助、移乗介助全般を歯科衛生士活動で対応できるように、ユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	

【 摂食機能訓練法 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	我那覇生純	実務経験	歯科医師。摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。歯科診療所院長。		
授業との関連性	摂食嚥下リハビリテーション学会認定士としての知識や経験を踏まえ、摂食嚥下機能の基礎知識や評価方法、介入のし方、また多職種との連携について講義・演習する。				
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	歯科衛生士の職業に対して、夢と希望と可能性を感じ、自らがそのミッションを果たして行くという想いを描けるようになる。 口腔機能に対するアプローチ、口腔リハビリテーションについて、知識と技術を学ぶ。 チーム医療の中で多職種との協働を果たす役割を知る。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	講師資料 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科 第2版」 秋山正子著 他 医歯薬出版				
参考文献	必要に応じて参考資料を準備して配布します。				
履修上の注意	初めて聞く言葉、用語に関心を持ち、予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。解らない事は講師を尋ねて質問をして理解する。				
回	授業計画			到達目標	
1	歯科衛生士の働き リハビリテーション医学とは 口腔のリハビリテーションとは 障がいのみかた チーム医療 高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点			在宅歯科医療・訪問歯科医療、病棟、介護施設、障がい者施設において、歯科衛生士に必要とされる口腔機能に対するアプローチに対して、知識、技術を学ぶスタート地点に立つ。	
2	口腔機能の評価方法について 観察 診察 スクリーニング			口腔機能の評価方法について学ぶ	
3	口腔リハビリテーションに必要とされる口腔生理学、口腔解剖学の理解 嚥下内視鏡(VF) 嚥下造影検査(VF)			摂食嚥下機能を理解する為に、口腔・咽頭・喉頭の解剖学と生理学を学ぶ。 嚥下造影検査(VF)、嚥下内視鏡検査(VE)についての理解をする。	
4	誤嚥と誤嚥性肺炎 誤嚥、窒息への対応			高齢者に多い誤嚥性肺炎についての原因、症状、治療法を理解する。 歯科衛生士が関わり誤嚥性肺炎の予防について理解する。	
5	嚥下訓練について 間接訓練			嚥下訓練の間接訓練の方法と手技について相互実習を通して理解する。	
6	嚥下訓練について 直接訓練			食べ物を使い行う直接訓練について相互実習を通して理解する。	
7	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション			在宅における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	
8	小児の摂食嚥下リハビリテーション1			乳幼児の摂食機能についての理解を深める。	
9	小児の摂食嚥下リハビリテーション2			乳幼児、小児の口腔機能に対するリハビリテーションについて学び、バンケード法について相互実習を通して理解する。	
10	介護施設における摂食嚥下リハビリテーション			介護保険施設における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	
11	介護保険制度について			介護保険制度が出来た事の理解する。 介護保険施設とは、介護サービスの種類の理解する。 歯科医療が関わる介護保険サービスについて理解を深める。	
12	在宅患者へのリハビリテーションの実際			在宅で療養していく方々に関わる職種と一緒に教室に来て、実際の口腔機能に対するアプローチを見ながら、これからの歯科衛生士に求められる知識と技術を学ぶ。	
13	認知症の方へのアプローチ			歯科医療が認知症の方々にどのように関わり合えば良いのか、歯科衛生士としての関わり方について理解する。	
14	多職種との連携について、ケアマネとの連携 管理栄養士との連携 薬剤師との連携 NSTについて			在宅、施設、介護施設において、また、地域の行政や関連機関との連携を通して、一人の患者に対してどのような支援が歯科衛生士として行う事が出来るのかを理解する。NSTにおける歯科衛生士の役割について理解する。	
15	まとめ これまでの講義の重要事項の確認 実際の現場における歯科衛生士の働き			実際の摂食嚥下訓練の様子と口腔リハビリ、歯科衛生士の活動の様子を紹介して、これから求められる歯科衛生士像を提示する。	

【 歯科衛生学実習・臨床実習 】 令和3年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨床実習指導歯科医師、歯科衛生士	実務経験	各病院歯科口腔外科、各歯科診療所の歯科医師・歯科衛生士
授業との関連性	臨床歯科医師並びに臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、医療人の基本姿勢や歯科衛生士として必要な知識、技術について指導を行う。		

臨床実習の目的

1年次、見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。
その後、2年次において、基礎実習及びすでに履修している臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。
また3年次においては、これまでに修得した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確かなものとするを目的とする。

臨床実習の評価

出席状況の評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。

名称	歯科衛生学実習	臨床実習 I
該当学年	1年生(第57期生)	2年生(第56期生)
日程	令和2年 9月7日(月)～令和2年9月11日(金)	令和2年 2月1日(月)～令和2年2月27日(土)
総日数	5日間	20日間
単位数(総時間)	1単位 (45時間)	4単位(180時間)
実習時間	8:30～17:30 (1日 9時間) * 昼食時間を含む	8:00～17:00 又は 8:30～17:30(1日 9時間) * 昼食時間を含む
実習機関及び学生割り振り	一般歯科医院・歯科口腔病院 1歯科医院 1～2名 * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。	一般歯科医院・歯科口腔病院 1歯科医院 2～3名 * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。
目的	見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。	1年次に学んだ基礎実習及び、すでに履修した臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。
一般目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 (2)受付から処置、退室までの歯科医療の概要を学ぶ。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。
行動目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 ①医療人として身だしなみは清潔・機能的である。 ②患者さんやスタッフに対して、挨拶ができる。 ③相手に応じた正しい言葉遣いができる。 ④謙虚な姿勢で実習に取り組むことができる。 ⑤わからないことを積極的に質問できる。 ⑥自己の健康管理ができる。 ⑦担当者に報告・連絡・相談ができる。 (2)受付から処置、退室までの歯科医療の概要を学ぶ。 ①見学内容の理解を深めるために、実習手帳に記録することができる。 ②わからないことは自分で調べ記録することができる。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。 ①歯科衛生士の歯科診療における役割を説明することができる。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 ①対象者の心理を理解し、配慮ができる。 ②適切な診療器材を選択し、準備ができる。 ③対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 ①患者が快適な診療を受けられるように環境を整備することができる。 ②滅菌・消毒の意義を考えながら適切な方法で滅菌、消毒を行うことができる。 ③器械、器具、材料、薬品の用途を理解することができる。 ④医療廃棄物の取り扱いについて担当者の指導のもとに適切に処理することができる。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。 ①意欲的に取り組むことができる。 ②疑問点について列挙し、積極的に調べることができる。 ③疑問点についてわからないことは質問することができる。 ④必要な文献や資料を収集し、適切にまとめることができる。

(備考) 1. 歯科衛生学実習は臨床実習扱いではなく、学科目「歯科衛生学」の扱いになります。

名称	臨床実習Ⅱ	
該当学年	3年生(第55期生)	
日程	令和2年6月1日(月)～令和2年7月11日(土) / 令和2年9月28日(月)～令和2年12月11日(金)	
総日数	70日間	
単位数 (総時間)	14単位(630時間)	
実習時間	8:00～17:00 又は 8:30～17:30 (1日 9時間) * 昼食時間を含む	
実習機関 及び 学生割り振り	熊本大学病院 4名ずつ 上記以外の病院・歯科口腔病院 2名ずつ 一般歯科医院 1～2名ずつ 矯正歯科医院 1～2名ずつ * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに履修した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとする。 ・外来・入院患者に応じた対応を学び、対象者を包括的に評価、理解する能力を身につける。 ・歯科衛生士の担う役割を理解し、歯科診療、専門的口腔ケアを通じ、全身の健康維持増進、生活の質の向上に貢献できる能力を身につける。 	
該当施設	一般歯科医院/矯正歯科医院	病院(歯科外来・病棟)/歯科口腔病院
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)医療職としての基本姿勢を身につける。 (2)学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)医療職としての基本姿勢を身につける。 (2)対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 (5)口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)医療職としての基本姿勢を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> ①自己の健康管理に努めることができる。 ②安心・安全な医療を理解し、感染予防に努めることができる。 ③与えられた業務に対して、報告・連絡・相談ができる。 ④自己を客観的に評価し、自ら向上するために、知識と技術の研鑽に努めることができる。 ⑤対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> ①必要な器械、器具、材料、薬品の準備管理をすすめることができる。 ②診療の補助・介助業務ができる。 ③資料収集のための補助・介助業務ができる。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ①口腔と全身疾患との関連を説明することができる。 ②正確な口腔内観察ができる。 ③記録の必要性を自覚し正確な記録ができる。 ④対象者へ適切な予防処置ができる。 ⑤対象者へわかりやすい保健指導ができる。 ⑥歯科衛生過程の流れを理解し実施できる。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ①対象者へ補綴物の取り扱いと装着後の指導ができる。 ②対象者へ外科手術前後の注意事項を説明できる。 ③口腔筋機能療法の介助ができる。 ④対象者へ矯正装置装着の取り扱い、撤去後の指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)医療職としての基本姿勢を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> ①自己の健康管理に努めることができる。 ②安心・安全な医療を理解し、感染予防に努めることができる。 ③与えられた業務に対して、報告・連絡・相談ができる。 ④自己を客観的に評価し、自ら向上するために、知識と技術の研鑽に努めることができる。 ⑤健康状態が変化しやすい疾病を持つ対象者の身体的・心理状態に配慮したコミュニケーションをとることができる。 (2)対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ①対象者の病期を理解し、疾患の特徴に応じた配慮ができる。 ②対象者に起こるインシデントを予測し、安全に対応できる。 ③周術期の対象者に与える侵襲を説明することができる。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ①口腔と全身疾患との関連を説明することができる。 ②正確な口腔内観察ができる。 ③記録の必要性を自覚し正確な記録ができる。 ④対象者へ適切な予防処置ができる。 ⑤対象者へわかりやすい保健指導ができる。 ⑥歯科衛生過程の流れを理解し実施できる。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ①対象者へ補綴物の取り扱いと装着後の指導ができる。 ②対象者へ外科手術前後の注意事項を説明できる。 (5)口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ①個別性に応じた口腔のケアのアセスメントを立案できる。 ②急性期・周術期・回復期・維持期・終末期の口腔のケアの必要性と手技の説明ができる。 ③口腔機能向上の手技の説明ができる。 ④口腔機能診断・訓練・評価の介助ができる。 ⑤チーム医療において歯科衛生士の役割を説明することができる。 ⑥多職種の役割を説明することができる。 ⑦多職種と積極的にコミュニケーションを図り連携をとることができる。

【 臨地実習 】令和3年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導担当	実務経験	①各障害者施設、高齢者施設における社会福祉士、介護福祉士、保育士、作業療法士、歯科衛生士。 ②各区役所における歯科医師、歯科衛生士。 ③口腔保健センターにおける歯科医師、歯科衛生士。
	授業との関連性	①各障害者施設、高齢者施設において各専門職の経験を活かし、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方、口腔保健の支援ができる態度と技能を教育する。 ②各区役所での歯科医師、歯科衛生士などの経験を活かし、区役所保健子ども課の概要を理解し、多職種との連携における口腔保健サービスの展開を教育する。 ③口腔保健センターにおける歯科医師、歯科衛生士の経験を活かし、障害の特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学び、専門的立場から対象者にあった口腔保健の支援ができるように教育する。	

項目	障がい者施設実習	高齢者施設実習
実施期間	3年次 令和2年8月17日(月)～9月2日(水) 施設によっては日程が変更の場合もあります。	
実習曜日	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習
実習時間	8:30～17:00(7.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。	8:30～17:00(7.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。
時間数	22.5	22.5
施設数	5施設	5施設
単位数	1単位	
評価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
目的	心身障がい者施設において、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また専門的立場から心身の機能に合った口腔保健の支援をすることができる能力を養うことを目的とする。	高齢者施設の現場において、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から本人又は介助者へ口腔保健の支援が実践できる能力を養い、生活の質の向上に寄与する能力を身につけることを目的とする。
一般目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 (2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 (3)障がいの種類と特徴を学ぶ。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 (2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 (3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。
行動目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②障がい者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④歯科に関わる福祉サービスについて簡単に説明できる。 ⑤他職種と連携のあり方を理解することができる。 (2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②障がい者の対応に必要な声掛けやコミュニケーションがとれる。 (3)障がいの種類と特徴を学ぶ。 ①障がいの種類について説明することができる。 ②各種障がいについて身体的・精神的特徴について説明できる。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①障がい者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④障がい者に対する口腔ケアが実践できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べるができる。 ⑥歯磨きの自立を援助することができる。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②高齢者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④他職種と連携のあり方を理解することができる。 (2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②対象者に応じたスピードで話すことができる。 (3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 ①加齢に伴う身体の特徴を説明できる。 ②対象者の抱える疾病と特徴を簡単に説明できる。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①高齢者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②口腔衛生時に適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④高齢者や介助者に対する口腔ケアが実施できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べるができる。

項 目	区役所実習	口腔保健センター
実施期間	令和2年8月17日(月)～8月31日(木)	令和2年6月2日(火)～月日()
実習曜日	1人当り4日間(月～木曜日)	1人当り2日間(火・木曜日)
実習時間	8:30～17:00(7.5時間)	9:00～17:30(7.5時間)
時間数	32	13
施設数	5施設(うち5施設受入れ未定)	—
単位数	1単位	
評価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
目的	<p>1. 地域における保健福祉サービスの拠点である区役所保健子ども課の概要を理解する。</p> <p>2. 多職種との連携における歯科保健サービスの展開を理解する。</p>	<p>地域医療としての口腔保健センターにおいて、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から対象者にあった口腔保健の支援ができる能力を養うことを目的とする。</p>
一般目標 行動目標	<p>(抜粋)</p> <p>(1)区役所保健子ども課の概要を理解する。</p> <p>(2)歯科口腔保健の推進に関する法律、地域保健法及び健康増進法に基づく保健福祉活動を理解する。</p> <p>(3)全身の健康と口腔の健康の関連を理解し、総合的に対象者の状態を把握する能力を身につける。</p> <p>(4)対象者に応じた話し方や言葉遣いを修得する。</p> <p>(5)集団に対する健康教育の方法と技術を実践を通して身につける。</p> <p>(6)フッ化物についての有効性、安全性及び注意点を正しく理解する。</p> <p>(7)フッ化物塗布及び洗口法の各種実施方法を修得する。</p>	<p>(1)障がいの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>(2)障がい者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。</p> <p>(3)障がい者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。</p> <p>(4)口腔保健センターの特徴を学ぶ。</p> <p>(1)障がいの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>①障害の種類・程度について説明することができる。</p> <p>②障がいに応じて投与される主な服用薬剤の各種作用・副作用を述べることができる。</p> <p>(2)障がい者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。</p> <p>①障害者の医療に対する理解と適応行動の困難性を踏まえて声掛けができる。</p> <p>②運動と姿勢抑制の困難性をふまえて治療時の歯科衛生士の補助ができる。</p> <p>③行動変容法の技法を説明できる。</p> <p>④体動コントロールの補助ができる。</p> <p>⑤精神鎮静法について説明できる。</p> <p>(3)障がい者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。</p> <p>①障がい者の家族、介護者から情報収集ができる。</p> <p>②障がい者に対する口腔ケアが実践できる。</p> <p>③障害者歯科における業務記録の作成ができる。</p> <p>(4)口腔保健センターの特徴を学ぶ。</p> <p>①地域医療機関としての役割が説明できる。</p> <p>②障がい者を取り巻く歯科医療環境を説明できる。</p>

【 総合歯科学 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	各分野担当講師 実務経験 各歯科診療所歯科医師、歯科衛生士。大学教授。管理栄養士。本学院専任教員(歯科衛生士)。
授業との関連性	夫々の経験を活かし、これまで学んだ歯科衛生士としての必要な知識をさらに確認することで歯科衛生士国家試験に合格できるように講義を行う。

履修学年・学期	3年後期	授業方式	講義	単位数	5単位(150時間)	授業回数	75
---------	------	------	----	-----	------------	------	----

授業目標	広範囲にわたる歯科医療に関する知識を再確認し、歯科衛生士国家試験に合格するための知識を習得することを目的とする。	
評価方法	定期試験(220点満点) 歯科衛生士国家試験に合わせた出題とし132点以上を合格とする。	
教科書名	各科目の教本 国家試験のための問題集	
履修上の注意	1. 講義の前には、わからないことなどを確認し、講義は質問などをして積極的に受講すること。 2. 事前に配布された問題等は、必ず解答し受講すること。 3. 教本、ノート、問題集など指示されたものは忘れず持参すること。 4. 歯科衛生士国家試験合格を目指し、講義で行われる小テスト等は良い点がとれるよう努力すること。	
回	授業計画	到達目標
1	(生理学分野) 口腔生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
2	(病理学分野) 第1章～第5章	病理学の大切なポイントを理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
3	(歯科補綴学分野) 歯科補綴学の概論	歯科補綴の概要について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
4	(解剖学分野) 人体解剖学の総論 国家試験問題解説	人体解剖学の総論について再度確認する。 国家試験問題を解き、理解を深め、国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
5	(歯内療法学分野) 歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解	歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
6	(高齢者歯科学分野) 高齢者の現状、健康と疾病、高齢者の口腔の特徴、高齢者と薬剤について、高齢者の歯科疾患と歯科衛生士の関わりについて	高齢者、高齢者歯科に関わる基礎知識を理解する。 国家試験に出題されている関連事項を理解する。
7	(障がい者分野) 国家試験問題の疑問点確認、復習	国家試験に関わる疑問点について理解する。
8	(歯科予防処置法分野) 歯科予防処置の概要、口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握	口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
9	(栄養指導分野) 国試の麗人 8-1 生化学の解説 8-2 栄養素の解説	生化学の概要、栄養素について理解を深める。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
10	(口腔衛生学分野) 口腔衛生学テキスト第1章～4章 国家試験問題の解説 質疑応答	口腔衛生学の領域において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
11	(歯科臨床総論分野) 復習① 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要ポイントを理解する。
12	(解剖学分野) 人体解剖学の各論 国家試験問題の解説	解剖学分野について過去の国家試験問題を解きながら出題の傾向を確認する。
13	(歯内療法学分野) 歯内療法に関する疑問点、不明な所の質疑応答と国家試験問題の解説	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
14	(栄養指導分野) 国試の麗人 8-3 食生活 8-4 食生活指導の基礎	食生活、食事摂取指導の基礎について理解する。 国家試験に出題された問題を解き、再確認する。
15	(微生物学分野) 国家試験問題解説①	これまでに出版された国家試験の問題を解き理解力を身につける。
16	(歯周療法学分野) 歯周療法の概要	歯周療法の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
17	(保存修復学分野) 保存修復各論	保存修復の各論について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
18	(歯科診療補助法分野) 主要材料の種類、取り扱いと管理	主要材料の種類と取り扱いについて理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。

回	授業計画	到達目標
19	(歯科予防処置法分野) ブローピング、スケーラーの種類と用途、スケーリング 国家試験問題解説	ブローピング、スケーラーの種類、スケーリングの重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
20	(歯科口腔放射線学分野) 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解いて、国家試験に合格できる理解力を身につける。
21	(口腔衛生学分野) 口腔衛生学テキスト第1～4章 国家試験問題の解説	口腔衛生学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
22	(歯科衛生士概論分野) 歯科衛生士法と業務、歯科衛生士義務等について	歯科衛生士法について重要な項目を再度確認し理解する。
23	(生理学分野) 口腔生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
24	(歯科補綴学分野) 歯科補綴各論 各補綴物の長所、短所など	各補綴物の長所や短所を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
25	(歯科予防処置法分野) 歯面研磨、PMTTC	歯面研磨、PMTTCについて再確認する。 国家試験に関する出題を解き大切なポイントを理解する。
26	(歯科臨床総論分野) 復習① 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
27	(生理学分野) 生理学全般①	生理学において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
28	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 歯牙 国家試験問題解説	歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。
29	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 歯周組織 国家試験問題解説	歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。
30	(微生物学分野) 国家試験問題解説②	微生物学分野について重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。
31	(歯周療法学分野) 歯周治療 イニシャルプレパレーションの準備と補助 外科的歯周療法用器具の種類と説明	歯周治療、イニシャルプレパレーションの準備と補助、外科的歯周療法用器具と用途について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
32	(保存修復学分野) 保存修復の概要について	保存修復の概要について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
33	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
34	(歯科保健指導法分野) 対象把握 歯科衛生過程の進め方、生活自立度、 BDR指標 全身状態の把握	国家試験の出題基準である対象把握と全身状態把握のポイントを理解することができる。
35	(歯科口腔放射線学分野) 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解き、予想問題を理解する。
36	(小児歯科学分野) 小児の発育 小児歯科疾患 国家試験練習問題	小児の発育、小児歯科疾患の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
37	(衛生公衆衛生学分野) 新しく変わった部分の解説 プリント解説 小テスト	衛生公衆衛生学分野において、新しく変更になったり、追加された項目について理解する。 国家試験によく出題される大切なポイントを確認する。
38	(病理学分野) 第6章～第8章	病理学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
39	(歯科診療補助法分野) 保存治療時の診療補助 補綴治療時の診療補助	保存、補綴治療時の歯科診療補助分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
40	(保健指導法分野) 保健指導概要 保健教育 ヘルスプロモーション 国家試験のための練習問題と解説	保健指導の概要、ヘルスプロモーション、保健教育等言葉の意味を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
41	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題解説	組織発生学分野について概要を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
42	(歯科材料学分野) 印象材、歯冠修復材	印象材、歯冠修復剤について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。

回	授業計画	到達目標
43	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患① 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
44	(生理学分野) 生理学全般②	生理学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
45	(口腔病理学分野) 歯の発育異常 う蝕 象牙質・歯髄・複合体の病変 国家試験問題	歯の発育異常、う蝕等の大切なポイントを理解する。 国家試験問題により、出題ポイントを認識する。
46	(歯科予防処置法分野) 小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布	小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布の重要なポイントについて再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
47	(歯科診療補助法分野) 口腔外科治療時の診療補助 矯正歯科治療時の診療補助	口腔外科、矯正治療時の歯科診療補について重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
48	(歯科衛生統計学分野) 2年次講義の復習② 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
49	(歯科器械学分野) 各種診療器材② 国家試験問題の解説残り	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。
50	(保健指導法分野) 歯・口腔の状態把握 歯垢染色剤 口腔汚染度評価 国家試験のための練習問題と解説	口腔の汚染度の確認手段、評価方法について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
51	(公衆歯科衛生学分野) 歯磨剤について 指数(特にCPI) 国家試験過去問、テキストに沿った解説補足	歯磨剤、統計指数について理解を深める。 過去の国家試験問題を解き関連する重要ポイントを理解する。
52	(薬理学分野) 総論 中枢神経系作用薬 末梢神経作用薬 呼吸・循環器作用薬	総論、中枢神経系作用薬、末梢神経作用薬、呼吸・循環器作用薬について大切なポイントを再確認する。 国家試験問題を解き知識を深める。
53	(小児歯科学分野) 小児期の特徴と歯科疾患 小児歯科における診療補助 国家試験問題解説	小児期の特徴と歯科疾患、小児歯科における診療補助について再確認する。 国家試験を解き解説を理解する。
54	(衛生公衆衛生学分野) 小テスト解説 プリント解説(残り) ポイントチェック	小テストを解説することで重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
55	(歯科診療補助分野) 小児歯科治療時の診療補助 エックス線写真撮影時の診療補助	小児歯科治療時およびエックス線写真撮影時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
56	(保健指導法分野) 口腔清掃用具の知識 補助清掃用具の知識 ブラッシング法 国家試験のための練習問題と解説	口腔清掃用具、補助清掃用具、ブラッシングの方法の利点、欠点について再確認する。 保健指導法に関する国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
57	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題	組織発生学分野の重要ポイントを再確認する。 組織発生学に関する国家試験に出題されたポイントを理解する。
58	(歯科材料学分野) 合着材、接着材、仮封材	合着材、接着材、仮封材について理解する。 国家試験に関する大切なポイントを確認する。
59	(生化学分野) 糖質、脂質、タンパク質の代謝 歯・口の生化学	糖質、脂質、タンパク質の代謝について再確認する。また、歯、口の生化学についても理解する。 国家試験問題を解き大切なポイントを認識する。
60	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患② 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
61	(口腔病理学分野) 根尖性歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 口腔癌 のう胞 顎骨病変 他 国家試験練習問題	根尖性歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、口腔癌、のう胞、顎骨病変について再確認する。 国家試験問題を解き、大切なポイントを理解する。
62	(口腔解剖学分野) 口腔解剖学のポイント 解説	口腔解剖学の大切なポイントを過去の問題を解きながら再確認する。
63	(口腔解剖学分野) 国家試験問題集の質疑応答	口腔解剖学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。

回	授業計画	到達目標
64	(歯科衛生統計学分野) 2年次講義の復習① 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
65	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。
66	(保健指導法分野) 対象別歯科保健指導 全身疾患と歯科保健指導 国家試験のための練習問題と解説	対象別歯科保健指導、全身疾患と保健指導の具体的内容について再度確認する。 国家試験に出題された内容を解き出題傾向を理解する。
67	(公衆歯科衛生学分野) 歯科疾患実態調査 健康日本21 国家試験に出やすいグラフの確認読み取り テキストに沿った解説と補足	歯科疾患実態調査、健康日本21、グラフに関する理解を深める。 国家試験に出題された重要なポイントを再確認する。
68	(薬理学分野) 止血材 抗炎症薬 ビタミン ホルモン 消毒薬 化学療法薬 腐食・収斂薬	薬理学に関する重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された問題の傾向と対策を確認する。
69	(衛生行政社会福祉分野) 衛生行政の概要とポイント整理	衛生行政の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
70	(衛生行政社会福祉分野) 社会保障・社会福祉の概要とポイント	社会保障と社会福祉について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
71	(歯科矯正学分野) 歯科矯正の総論 不正咬合の種類と原因	不正咬合の種類や原因について過去問題を解きながら理解を深める。
72	(歯科予防処置法分野) う蝕活動性試験、う蝕予防処置法の基礎知識、フッ化物歯面塗布	う蝕活動性試験、う蝕予防処置の各方法、フッ化物の応用について再確認する。 国家試験に出題された問題を解きポイントを理解する。
73	(歯科診療補助法分野) 臨床検査法 救急蘇生法	臨床検査、救急蘇生時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
74	(生化学分野) 歯の構成成分 唾液 歯の堆積物 国家試験問題解説	歯の構成成分、唾液、歯の堆積物について再確認する。 過去の国家試験問題を解き、重要なポイントを理解する。
75	(歯科矯正学分野) 歯科矯正の各論 各不正咬合の処置法と使用器材 など	矯正歯科学についての国家試験問題を確認し、重要なポイントを確認する。

【 接遇 I 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	橋本ゆかり	実務経験	中学校英語教員一級免許。高等学校英語教員二級免許。日本航空や大学などで接遇講師。
授業との関連性	日本航空CAや大学の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。		
講師名	山本直子	実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接遇の講師を務めている。
授業との関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義、実技	単位数	2単位(60時間)	授業回数	30
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	ビジネス社会で働く上で必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を身につける。
------	---

評価方法	定期試験(90点)、提出物(レポートなど)(5点)、ロールプレイ(5点)など総合的に評価
------	--

教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)
------	--------------------------------------

参考文献	講師資料／①実社会で求められるビジネスマナー (株式会社 専門教育出版) ②実践ビジネスマナー (株式会社 ウイネット) ③歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)
------	---

履修上の注意	①資料をファイルするための「接遇専用ファイル」を用意する。 ②意思表示をはっきりする。 ③授業中の挨拶や返事、姿勢などの基本動作を常に意識しきちんと行う。 ④ロールプレイを積極的に行う。 ⑤理解度確認と伝える力をつけるため、毎回、授業のまとめを書き提出する。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(1～10回までは橋本ゆかり先生) 接遇マナーの5つの基本 ①第一印象の重要性 ②始業・終業のあいさつ ③返事の仕方 ④遅刻・中座のマナー ⑤職員室の入退室のマナー	①接遇の大切さを理解する。 ②第一印象の重要性を理解する。 ③正しい姿勢で始業、終業のあいさつができる。 ④元気な声で返事ができる。 ⑤遅れてきたとき、中座するとき、職員室の入退室で、きちんとあいさつができる。
2	身だしなみの基本 表情は思いやりを表す ①声でも「おもてなし」 ②ヴォイストレーニング(滑舌の練習) ③スマイルトレーニング	①非言語的コミュニケーションの重要性を知る。 ②正しい口の開け方、声の出し方を知る。 ③正しく、気持ちの良い声であいさつや話ができる。 ④滑舌練習で、正しくきちんと伝わる話し方を知る。 ⑤応対に重要な素敵な笑顔ができるようになる。 ⑥好感をもたれる身だしなみ、化粧、立ち振る舞いができる。
3	①廊下のマナー ②階段のマナー ③ドアのマナー ④エレベーターでのマナー ⑤職場でのマナー	①様々なシーンで気持ちの良いあいさつができる。 ②きちんとした立ち方、座り方、歩き方などの基本姿勢ができる。 ③様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④出る人と入る人の優先順位を理解し実践できる。
4	来客対応の流れ ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～お茶の出し方～見送り ②席次	①来客対応の流れを知る。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の上り下りなど様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④様々な状況での上座下座を知る。
5	敬語の基本① ①敬語の復習(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	①尊敬語と謙譲語の違いを理解し、使い分けができる。 ②間違った尊敬語と謙譲語を指摘し、訂正することができる。 ③内部と外部の呼称の使い分けができる。
6	敬語の基本② ①クッション言葉 ②職場用語、接客用語 ③否定表現、肯定表現、依頼形	①クッション言葉を使用した言い回しを学ぶ。 ②仕事の現場でよく使用する言葉遣いを知る。 ③同じ言葉でも、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。 ④依頼形や肯定語などで話すことができるようになる。
7	様々な場面での言葉遣い ①使ってはいけない言葉遣い ②好ましい言い回し ③陳謝の言葉、依頼するときの言葉	①様々な場面の応対において、最適な言葉遣い、言い回しを考える。 ②相手に、より真意が伝わる言い回しを知る。 ③陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。
8	電話対応の基本 ①かけ方のポイント ②受け方のポイント ③名乗らないとき、聞き直すとき、聞き取りにくい時、携帯電話のとき など	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け応え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。
9	電話対応の応用 ①名指し人がいない場合の応対 ②伝言を受けるときのポイント ③伝言メモの取り方、処理の仕方	①名指し人がいない場合の様々な応対ができるようになる。 ②伝言受時のメモの取り方、復唱の仕方を知る。 ③伝言メモを実際に書くことができる。 ④名指し人不在時に何が必要なのかを確実に知る。

回	授業計画	到達目標
10	まとめ ①接遇に対する自分の考えをまとめる ②今後の目標を設定する	①1年間学んだことを通して、接遇に対する考えを整理する。 ②目標を設定し、有言実行していけるよう相互激励する。
11	(11～30回までは山本直子先生) 接遇マナーの心構え1 ①気持ちの良い挨拶の仕方 ②挨拶時の声の出し方 ③「知行一致」と「体得」	①「接遇」の意味を知り、日々の行動への落とし込む。 ②自己紹介するときのポイントを知り、できるようになる。 ③他己紹介の方法とメリットを知り、お互いをより深く知る。
12	接遇マナーの心構え2 ①マナーとエチケットの違い ②身だしなみとおしゃれの違い ③私たちの身だしなみは？	①マナーとエチケットの違い、身だしなみとおしゃれの違いを知り、自らを振り返る。 ②「接遇」の本質を知る。 ③身だしなみとはなんなのか、身だしなみのポイントを知り、学院生活に生かす。
13	接遇マナーの心構え3 ①気持ちの良いコミュニケーション ②非言語的コミュニケーションの色々 立ち居振る舞いを見直す ③身だしなみの基本	①コミュニケーションに不可欠な気持ちの良い挨拶ができるようになる。 ②様々な場面での非言語的コミュニケーションを知り、日常生活で意識して行動できるようになる。
14	自らを知る ①タイプ別診断 ②感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	①感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える
15	言葉遣い1 ①正しい敬語 ②敬語の分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語)	①正しい敬語の基本を知る。 ②尊敬語、謙譲語などをワークを通して正しく使うことができるようになる。
16	言葉遣い2 ①敬語の使い分け	①ワークシートを通して、様々な敬語の使い分けを理解する。
17	言葉遣い3 ①様々な言い回し(肯定形、依頼形、マイナスプラス法、サンドイッチ法ほか) ②相手に伝わる言い方	①言い回しを変えることで、同じ内容でも伝わり方が変化することをワークを通して知る。 ②ロールプレイを通して、同じ言葉遣いでも言い方の違いで伝わり方が変わることを知る。
18	言葉遣い4 ①敬語の総復習(ワーク)	①これまでの授業内容の理解度をはかる。 ②不足部分を認識し、意識して使えるようになる。
19	来客対応1 ①名刺とは ②名刺の取扱い方、名刺交換の仕方 ③来客対応の手順(受付～名刺の授受～誘導)	①名刺の役割、取扱いで気を付けることなどを知り、実際に授受を体験する。 ②来客対応の一連の流れをロールプレイで経験する。
20	来客対応2 ①来客対応の手順(お茶の接待～見送り) ②応対時の様々な言葉かけ ③ビデオ視聴	①美味しいお茶の入れ方、スマートなお茶の出し方、接待時のポイントを知る。 ②心が伝わる環境設営、声掛けを考える。 ③ビデオを視聴し、現場での動き方を確認する。
21	来客対応ロールプレイ<練習> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。
22	来客対応ロールプレイ<実践> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。
23	電話対応1 ①電話の仕組み ②電話対応の心構え ③電話対応の流れ ④取次の練習	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け応え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。
24	電話対応2 ①不在時の様々な電話対応 ②こんなときどうする？	①名指し人に取り次がない場面での様々な対応を知る。 ②文章を読まなくても言えるようになる。 ③声には表情も態度も必要であることを体験する。
25	電話対応3 ①職場での様々な電話対応 ②伝言の受け方・伝え方 ③伝言メモの書きかた ④間違い電話の対応	①様々な場面での対応の仕方、言葉遣いを知る。 ②ロールプレイで実際に体験する。 ③自分の声を聞いて、さらに気持ちの良い電話対応を目指す。

回	授業計画	到達目標
26	電話応対4 ①電話のかけ方 ②かけるときの気遣い	①電話をかけるときのポイントを知る。 ②かけるときの気遣いを考える。
27	電話応対5 ①自分の声を確認する ②ロールプレイ(2人組)	①2人組で名指し人が不在の場合のロールプレイをする。 ②自分の応対を実際に聴き、言い方・話し方・言葉遣い・口調・スピードなどを確認する。
28	ビジネス文書 ①文書の受発信 ②宛名の書きかた ③手紙の書きかた	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。
29	指示・命令の受け方 ①聴き方 ②受け方 ③相談・連絡の仕方	①聞き上手の基本と共感することの重要性を理解する。 ②業務遂行の基本である指示命令の受け方を知る。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して自分の足りない部分を知る。
30	報告・連絡の仕方 ①報告・連絡時のポイント ②事例による報告・連絡ロールプレイ	①業務遂行の基本である指示命令の受け方、報告連絡相談の仕方を知る。 ②学院生活でもきちんとした報告連絡相談ができるようになる。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して、自分が足りていないところを確認し、実践する。

【 体育 I 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	若松壽子	実務経験	中学校教諭一級免許。高等学校教諭二級免許。高等学校講師。		
授業との関連性	高等学校の体育教諭としての長年の経験を踏まえ、各自の生活習慣に運動を取り入れることを目標に実技を行う。				
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	実技	単位数	1単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	健康・安全や運動についての理解と、生涯スポーツに親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
評価方法	出席状況				
教科書名	なし				
参考文献	なし				
履修上の注意	1. 授業には進んで自主性を持ち積極的に参加する。 2. 体育の服装、体育館シューズの使用(見学者も同じ) 3. 運動時は必ず束髪すること。 4. 授業の準備や片付・清掃は全員で協力して行うこと。				
回	授業計画			到達目標	
1	ソフトバレーボール ストレッチ ルール説明 班分け・練習			ボールの特性を理解し、床にボールを落とさないように積極的に動いてパスを続けることができる。	
2	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム			チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。	
3	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム			チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。	
4	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム			チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。	
5	バレーボール(9人制) ストレッチ 班分け ルール説明 グループ練習・ゲーム			ソフトバレーボールの経験を生かし、声を掛け合いながら積極的に練習することができる。	
6	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム			積極的に動き、協力しラリーを続けることができる。	
7	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム			積極的に動き、チームの仲間と声を掛け合いながら楽しくゲームをすることができる。	
8	バドミントン ストレッチ 班分け(ダブルス)・練習			ラケットでシャトルを打ち合い得点することを競うネット型ゲームを理解し、パートナーと連携し練習ができる。	
9	1. 2年生合同 相談の上検討			未定	
10	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム			パートナーと協力して、練習やゲームができる。	
11	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム			パートナーと協力して、練習やゲームができる。	
12	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム			パートナーと協力して、練習やゲームができる。	
13	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム			パートナーと協力して、練習やゲームができる。	
14	種目選択 (できる範囲で バドミントン、バレーボール、卓球)			選んだ種目の特性とルールを理解し楽しく練習やゲームが積極的にできる。	
15	種目選択 (できる範囲で バドミントン、バレーボール、卓球)			選んだ種目の特性とルールを理解し楽しく練習やゲームが積極的にできる。	

【 体育Ⅱ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	若松壽子	実務経験	中学校教諭一級免許。高等学校教諭二級免許。高等学校講師。
授業との関連性	高等学校の体育教諭としての長年の経験を踏まえ、各自の生活習慣に運動を取り入れることを目標に実技を行う。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	健康・安全や運動についての理解と、生涯スポーツに親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。	
評価方法	出席状況	
教科書名	なし	
参考文献	なし	
履修上の注意	1. 授業には進んで自主性を持ち積極的に参加する。 2. 体育の服装、体育館シューズの使用(見学者も同じ) 3. 運動時は必ず束髪すること。 4. 授業の準備や片付・清掃は全員で協力して行うこと。	
回	授業計画	到達目標
1	ソフトバレーボール ストレッチ ルール説明 班分け・練習	ボールの特性を理解し、床にボールを落とさないように積極的に動いてパスを続けることができる。
2	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。
3	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。
4	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。
5	バレーボール ストレッチ 班分け ルール説明 グループ練習・ゲーム	ソフトバレーボールの経験を生かし、声を掛け合いながら積極的に練習することができる。
6	バレーボール ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、協力しラリーを続けることができる。
7	バレーボール ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、チームの仲間と声を掛け合いながら楽しくゲームができる。
8	バドミントン ストレッチ 班分け(ダブルス)・練習	パートナーと連携し、自分の役割を理解しゲームに生かすことができる。
9	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
10	1. 2年生合同 相談の上検討	未定
11	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
12	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
13	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
14	種目選択 (できる範囲で バドミントン、バレーボール、卓球)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しく練習やゲームが積極的にできる。
15	種目選択 (できる範囲で バドミントン、バレーボール、卓球)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しく練習やゲームが積極的にできる。

【 隣接医学救急蘇生法Ⅰ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	渡辺 洋	実務経験	歯科医師。福岡歯科大学歯科麻酔講座医員。歯科診療所院長。
授業との 関連性	大学病院歯科麻酔講座医員の経験を踏まえ、全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
			授業回数 15
授業目標	歯科衛生士として、全身疾患に関わる幅広い知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 敏著 学際企画 「イラストでわかる歯科医学の基礎」 淵端 孟著 他 永末書店 「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」 橋本賢二著 他 医歯薬出版株式会社		
参考文献			
履修上の 注意			
回	授業計画	到達目標	
1	総論	①この学科目で学習する内容を理解する。 ②救急処置の重要性について理解する。 ③救急処置について歯科医行為と歯科衛生士法を理解する。 ④歯科診療室での全身疾患偶発症の主な原因を知る。	
2	循環の生理・解剖	①心臓の構造と特性について理解する。 ②心電図とは何か説明できる。 ③体循環と肺循環について説明できる。	
3	呼吸の生理・解剖	①呼吸とは何か説明できる。 ②呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸の調節について理解する。 ③肺気量について説明できる。 ④肺胞のガス交換について理解する。	
4	循環器系・呼吸器系の疾患	①循環器疾患並びに呼吸器疾患の主な疾患名とそれぞれの疾患の概要、症状について理解する。 ②歯科治療に際して注意すべきことについて理解する。	
5	自律神経	①自律神経とは何か説明できる。 ②自律神経の分類と各々の働きを説明できる。	
6	全身の検査と評価	①バイタルサインとは何か説明できる。 ②脈拍とは何か、観察部位、触知方法について説明でき測定できる。 ③脈拍の観察(数、リズム等)を説明できる。 ④呼吸の観察方法を説明できる。 ⑤血圧とは何か、血圧の測定方法、測定時の注意を理解し、測定ができる。 ⑥体温とは何か、測定部位と特徴、体温の正常と異常、影響する因子が説明できる。 ⑦意識レベルの観察方法、モニタリングについて理解する。	
7	歯科治療と麻酔	①麻酔法の種類と特徴について理解する。 ②歯科用局所麻酔薬の種類と特徴、使用方法について理解する。 ③注射針の特徴について理解する。 ④笑気吸入法、静脈内鎮静法の特徴と方法について理解する。 ⑤鎮静法の適用と禁忌について理解する。	
8	代謝系疾患	①糖尿病とは何か、症状等について理解する。 ②糖尿病患者への歯科治療時の注意点と歯周病リスクについて理解する。 ③甲状腺機能障害とは何か、症状等について理解する。 ④甲状腺機能障害患者への歯科治療時の注意点について理解する。	
9	アレルギー疾患	①アレルギーの反応型を理解する。 ②薬物アレルギーについて理解する。	
10	血液に係わる疾患	①血液疾患の種類と各々の症状について理解する。 ②血液疾患患者の歯科治療時の注意点を理解する。	
11	歯科における薬剤	①歯科における薬剤の種類と使用上の注意点を理解する。 ②歯科治療における投薬時の注意点と服薬指導について理解する。	
12	全身麻酔と救急蘇生	①全身麻酔とは何か、歯科における適応症を理解する。 ②全身麻酔薬の種類と特徴を理解する。 ③救急蘇生の概要について理解する。(詳細は3年次に履修)	
13	一般臨床と全身疾患の係わりについて	一般臨床と全身疾患の関わりについて理解する。	
14	口腔領域の解剖	口腔領域の解剖について理解する。	
15	総括	これまで学習した内容を再度確認し、解らない所を質問し理解する。	

講師名	狩野 亘平	実務経験	医師。日本救急医学会認定 救急科専門医。病院勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識やバイタルサインなど全身状態の評価について講義を行う。		
講師名	山田 周	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、歯科診療時における全身的偶発症や注意が必要な患者の歯科治療について講義を行う。		
講師名	櫻井 聖大	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、麻酔法と一般的な救急処置について講義を行う。		
講師名	北田 真己	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識について講義を行う。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	1. 歯科診療において、患者様に起こり得る合併症とその対処法について理解できる。 2. 救急蘇生を行うべき状態に早期に気づき、適切に対処できる能力を身につける。
評価方法	定期試験(100点満点)
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 敏著 学際企画
参考文献	
履修上の注意	

回	授業計画	内容	到達目標
1	担当講師： 狩野 亘平 第1章 序論 第2章 救急処置に必要な基礎知識	eラーニングコンテンツにて受講	1. 救急処置の重要性について理解できる。 2. 呼吸の生理・解剖について理解できる。 3. 循環の生理・解剖について理解できる。 4. 自律神経について理解できる。
2	担当講師： 狩野 亘平 第3章 バイタルサイン 第4章 全身状態の評価		1. バイタルサインの要素(脈拍、呼吸、血圧、体温、意識)の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。
3	担当講師： 山田 周 第5章 歯科診療時における全身的偶発症		1. 血管迷走神経性反射・過換気症候群・局所麻酔薬中毒・アレルギー・アドレナリン過敏症とその対処法について理解できる。 2. 局所麻酔時のその他の偶発症とその対処法について理解できる。
4	担当講師： 山田 周 第6章 全身疾患を有する患者の歯科治療(注意が必要な患者の歯科治療)		1. 歯科診療を行うにあたり特に注意を要する基礎疾患について理解できる。 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器疾患 (3)内分泌・代謝系疾患 (4)その他の疾患
5	担当講師： 櫻井 聖大 第7章 麻酔法 第9章 一般的な救急処置		1. 各種麻酔法について理解できる。(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、はり麻酔など) 2. 外傷、熱傷に対する一般的な救急処置について理解できる。 3. 止血法について理解できる。
6	担当講師： 櫻井 聖大 担当講師： 北田 真己 第8章 救急蘇生法		1. 救急蘇生法を行うにあたって必要な知識を身につける。(体位、患者搬送、加温・保温、心肺蘇生法、酸素療法、静脈路確保、点滴法、救急処置に必要な器具・器材・薬剤) 2. 救急蘇生の基礎知識について理解できる。
7	担当講師： 中央消防署 救急蘇生法 演習		1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。
8	担当講師： 中央消防署 救急蘇生法 演習		1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。

(備考) 令和3年度の講義はコロナ感染拡大防止のため講師作成のeラーニングでの授業とする。

【 高齢者医学総論 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	澤 美穂	実務経験	看護師。病院、診療所、介護老人保健施設勤務。
授業との関連性	看護師として診療所や介護老人保健施設で長年培った経験を踏まえ、加齢に伴う身体的・精神的・心理的特徴や高齢者に多い全身疾患について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	①高齢者の身体機能の特徴を知り、生理的な加齢が身体や心理に及ぼす影響や疾病について理解できる ②超高齢社会の現状を把握し、老化に伴って起こる全身状態、生活機能の状況を理解し、専門職としての観察や支援ができる	
評価方法	科目定期試験(80点)、レポート(20点)/100点	
教科書名	最新歯科衛生士教本「高齢者歯科 第2版」 秋山正子著 他 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の注意	パワーポイントなどは使用せず、テキスト中心に授業を展開します。必要な内容は板書します。	
回	授業計画	到達目標
1	(Ⅱ編 第1・2章) 加齢に伴う身体機能の変化について理解できる P34～45	1. 老化に伴う高齢者の身体的特徴が理解でき列挙できる 2. 加齢に伴う各器官、各組織について説明できる
2	(第3章) 高齢者の精神的、心理的变化について理解できる P46～49	1. 老化に伴う高齢者の精神的、心理的特徴を理解し列挙できる 2. 高齢者に多いうつ、せん妄について説明できる 3. 高齢者とのコミュニケーション方法について理解し説明できる
3	(第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害、口腔疾患について理解できる P50～74	1. 高齢者に多い疾患や障害について理解でき説明できる 2. 認知症の原因、種類、症状、診断、治療、認知症ケアについて理解し説明できる
4	(Ⅲ編 第1章) 高齢者の生活機能、認知機能について理解できる P76～87	1. 生活機能の評価項目や障害の分類、ICF、認知機能評価項目について理解し活用されている場面のイメージができる
5	(第2章) 高齢者歯科と臨床検査の種類と関係性が理解できる P89～98	1. バイタルサインの種類が理解できる 2. 高齢者の病気の種類やその特徴が理解できる 3. 検査データが及ぼす観察項目が理解でき説明できる
6	(第3章) 高齢者の栄養状態について理解できる P99～106	1. 高齢者の低栄養について説明できる 2. 水分や栄養摂取の種類が説明できる
7	(第4章) 高齢者の薬剤服用について薬の副作用や服用状況などについて理解できるように説明する P107～111	1. 高齢者の薬物代謝に影響する因子について説明できる 2. 高齢者の服用する薬剤の副作用について理解できる 3. 高齢者の服薬管理の問題点について説明できる
8	(まとめ・テスト) 〈高齢者医学総論〉 高齢者の全体的な特徴を知り歯科学に併せて観察の視点を養い歯科衛生士としての知識と技術が習得できるようになる	高齢者の医学総論 終了テスト

【 看護概論 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	成瀬信裕	実務経験	看護師。病院に勤務しながら看護専門学校にて指導。
授業との関連性	長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。 2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。 3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める。 		
評価方法	定期試験80点・提出物4回(各4点)・レポート評価(4点) 授業欠席者は別紙レポート提出(各4点)・最終日レポート(加点評価)		
教科書名	「歯科衛生士のための看護学大意」 柴原孝彦著 医歯薬出版KK		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 湯楨ます 他 ナイチンゲール『看護覚え書』 現代社 2. 湯楨ます 他 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版社 3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論 4. 金井一薫 ナイチンゲール看護論入門 5. ビジュアル臨床看護技術 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病の病態生理と歯科衛生士の役割について5月7日までに自己学習しておいてください。 2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください) 目的:考える時間を持つ、他の人の考えを聞き新たな気付きを得る。(脳への刺激と学習効果アップ) 3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。提出は次回講義前までにお願いします。 		
回	授業計画	到達目標	
1	【看護の概念】教科書P1～P23 1. 看護の概念 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の原点を知ることができる。 2. 看護とは何かの概念を理解し、歯科衛生士としての役割をイメージできる 具体的到達目標: 看護の視点で歯周病患者への関わりを述べるができる 	
2	【歯科衛生士の役割】教科書P98～P112 1. 病院における歯科衛生士の役割 2. 地域医療活動における歯科衛生士の役割 3. フリーカンファレンス 自分が思い描く歯科衛生士とは？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院や地域において、歯科衛生士としての役割を自分の言葉で表現できる 2. 看護概論の学びの中から、専門職業人の歯科衛生士として卒業後の目標を自由に記載してください レポート提出期限:最終講義日(加点評価レポート) 	
3	【看護の技術】教科書P24～P59 1. 前回の復習 看護について 2. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインについて ②採血について ③吸引および吸入について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の復習:歯周病を看護の視点で述べるができる 2. バイタルサインの正常値と異常値の判断ができる 3. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を予測できる 4. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の必要性和リスク予測の重要性を看護行為から学び取る) 	
4	【看護の技術】教科書P24～P59 1. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインの測定技術 ②採血の技術 ③吸引および吸入の技術 ④酸素療法について	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの測定ができる 2. 採血の準備と手技の実践を模擬で経験する 3. 吸引の準備と手技の実践を模擬で経験する 4. 酸素療法の基礎知識を学び、正しい方法を判断できる 酸素療法時の患者観察ポイントを具体的に述べられる (手技の行為時と患者観察の重要性を学び取ることができる) 	
5	【コミュニケーションスキル】 1. 社会人・職業専門職として必要なコミュニケーションスキルについて グループワークによる体験学習 ※教科書に掲載されていない手法でコミュニケーションスキルを学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークに積極的に参加できる 2. 自分自身の性格を自己評価できる 3. 他人の考えを尊重し、尋ねることができる 4. 傾聴・共感・協調性など、コミュニケーションスキルをグループワークの中で感じることができる 	
6	【コミュニケーションスキル】 1. 社会人・職業専門職として必要なコミュニケーションスキルについて グループワークによる体験学習 ※教科書に掲載されていない手法でコミュニケーションスキルを学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークで学んだコミュニケーションスキルについて自分の言葉でまとめることができる 2. コミュニケーションスキルについて、自分の言葉で表現できる (多くのスキルを学ぶ中で、最低一つは身につける) 	
7	【看護の実務】教科書P61～P97 1. 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の観察方法と記録の仕方が解る 2. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 3. 模擬による患者の観察と記録が実践できる 4. 滅菌と消毒の違いが説明できる 5. 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる 	
8	【看護の実務】教科書P61～P97 1. 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガウンテクニックが実践できる 2. 1人でKYTが実践できる 3. チームリーダとしてKYTの実践ができる 4. 全体的な振り返りができる 	